

授業科目名	心理学	単位認定者	榎本光邦
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習(講義内にて)・事例検討
科目の目的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする
学習到達目標	1. 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する。 2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 3. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に生かす。
関連科目	専門基礎科目(臨床科目): 発達心理学, 臨床心理学 専門基礎科目(地域科目): カウンセリング 専門科目: 小児看護学概論, 小児看護学, 小児看護学, 小児看護学, 母性看護学総論, 精神看護学概論, 精神看護学, 地域看護学概論, 地域看護学
成績評価方法・基準	定期試験(80%)に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点(20%)を加味して評価する。
準備学習の内容	前回の講義時に指示をする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	心理学を学ぶ意義	医療と心理学、心理学の領域	<b>【精神看護学】</b> 目標2 1. 精神看護の基本概念 B. 精神分析モデル a)フロイトの発達論、b) 転移感情、c)自我の防衛機制 <b>【必修問題】</b> -1 人間の特性 A 人間と欲求 a) 基本的欲求、b)社会的欲求 <b>【精神看護学】</b> 目標1 1. 精神の健康 B. 精神の機能と障害 a)意識と意識障害、b) 知能と知能障害、c)知覚と知覚障害 d)思考と思考障害、e)感情と感情障害、f)意欲と意欲障害、g)記憶と記憶障害、h) 認知と認知障害 <b>【必修問題】</b> 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 2 人間の成長と発達 B 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 e) 母子関係 <b>【精神看護学】</b> 目標1 1. 精神の健康 A 精神の構造 a)意識・前意識・無意識 b)イド・自我・超自我 <b>【成人看護学】</b> 目標1 2. 成人に特有な健康問題の特徴	
2	物理的世界と心の世界	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性		
3	記憶と注意の心理	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、高齢者の記憶 記憶の障害、ワーキングメモリと注意機能		
4	学習のメカニズム	古典的学習、オペラント学習、観察学習		
5	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、社会的欲求、欲求の階層、 欲求不満と葛藤		
6	心理学的性格論	性格とは何か?、性格の類型論と特性論		
7	心理学的性格論	性格検査とその活用		
8	成長と発達の心理	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論		
9	集団行動の心理	集団の分類、リーダーシップ		
10	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、寛大効果		
11	健康と異常	健康の定義、ポジティブ心理学		
12	臨床心理学	ストレスと心の病理		
13	カウンセリングと心理療法	カウンセリングの理論と方法、看護におけるカウンセリングマインド		
14	カウンセリングと心理療法	医療現場における様々な心理学的介入		
15	まとめ			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			C 生活ストレスに関連する健康障害 a) ストレスの種類と生理的適応、 b) 生活ストレスと健康障害  <b>【基礎看護学】</b> 目標 2 1. 共通基本技術 A 人間関係を成立し発展させるための技術 a) コミュニケーション技術、b) カウンセリング技術、c) グループワーク、グループダイナミクス B 人間の成長を促すための技術 a) 教育、b) 相談・指導  <b>【小児看護学】</b> 目標 1 2. 子どもの成長と発達 C. 心理社会的発達	

教科書	「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」山 祐嗣、山口 素子、小林 知博編著（北大路書房）
参考書	講義中に随時紹介する

授業科目名	生命倫理	単位認定者	森川 功
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義 15コマ
科目の目的	生命倫理の基本原則について学び、具体的な事案の倫理的是非について第三者的な立場から論じることができるようになるとともに、人の存在価値に関する概念的対立について学び、具体的な事案の当事者として自己の主張を論理的に展開することができるようになることを目的とする。
学習到達目標	1. 現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2. 基本的な倫理原則について説明できる。 3. 具体的な事案の倫理的是非について少なくとも第三者的な立場から論じることができる。
関連科目	看護学概論、成人看護学概論、老年看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、生命科学、医療民俗学、法学
成績評価方法・基準	レポート(複数回提出)の成績(100%)および講義中の質疑応答(レポートの総合成績に加点)
準備学習の内容	各回の講義時間内において詳細を紹介できない事柄(倫理綱領や種々の事件)について文献等を調べて理解しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	生命倫理とは	倫理と道徳 生命倫理学とは 生命倫理学の成立に影響した数々の出来事 ナチスによる人体実験(ニュルンベルク綱領) タスキギー梅毒研究 ウィローブルック研究 ユダヤ慢性病病院事件 何故にいま生命倫理学なのか	必修問題  4 看護の倫理 A 基本的人権の擁護 a 個人の尊厳 b 患者の権利 c 自己決定権	
2	倫理理論と種々の倫理原則	倫理理論 直観主義 義務尊重主義 結果尊重主義 権利重視の倫理 種々の倫理原則(看護倫理を含む)	基礎看護学 目標1 1 看護の基礎となる概念  E 看護倫理 a 患者の権利擁護 b 患者のプライバシー保護 c 看護師の倫理規定 d 職業倫理	
3	基本倫理原則(1)	侵害回避の原則 ヒポクラテスの誓い 避けるべき害悪 ガン告知と専門家の守秘義務 二重効果の原則 医療行為の是非 恩恵の原則 互惠の確保 恩恵を与える義務に対する制約 義務を負うか否かを判断するための考慮事由 パターンリズム 最善の利益 生体的な善とその他の善	必修問題  5 保健師助産師看護師法 A 看護職員の業務と義務 c 守秘義務	
4	基本倫理原則(2)	自律の原則 自律とは 自律を行使するために必要とされる能力 イマニュエル・カント 医療に関する観念としての自由 情報の開示 事前指示書 リビング・ウィル	在宅看護論 目標1 3 在宅看護の特徴 A 生活の自立支援 b 自己決定  老年看護学 目標2	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
5	基本倫理原則(3)	カレン・アン・クインラン事件 持続的代理決定委任状 ナンシー・クルーザン事件 自律の原則の優先性  公正の原則 資源配分 マクロな配分とミクロな配分 資源の稀少性 恩恵(利益)と害悪(負担)の配分 公正の概念 公正な資源配分に関する理論 功利主義理論 マクシミン理論 平等主義理論 臓器移植における患者の選抜を事例として	1 老年看護学の基本的考え方 C 老年看護における倫理的課題 a 自己決定 6 高齢者の終末期の看護 A 終末期にある高齢者の看護 b 死の迎え方の意向(リビング・ウィル)と対応  社会保障制度と生活者の健康 目標4 1 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 A 医療サービスの供給体制 i 臓器移植法  必修問題	
6	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントに関する種々の誤解 インフォームド・コンセントの概念 治療法選択の段階でのインフォームド・コンセント インフォームド・コンセントの構成要素 患者による理解と決定のための「患者の意思能力」 重要情報の「医師による開示」 医学的処置の「医師による推薦」 開示された情報などの「患者による理解」 医学的処置を支持する「患者の決定」 支持する決定における「患者の自由意思」 医学的処置の実行に関する「患者による授権」	4 看護の倫理 A 基本的人権の擁護 d インフォームド・コンセント 精神看護学 目標3 1 精神医療看護の歴史と人権・倫理 B 患者の権利 a インフォームド・コンセント  必修問題	
7	生命の神聖さ(SOL)と生の質(QOL)	人とはいかなる存在であるのか 生命とその属性 SOLの概念 QOLの概念 SOL対QOL	1 人間の特性 B 患者の特性 a QOL(クオリティ・オブ・ライフ) 2 人間の成長と発達 A 胎児期 a 形態的発達 母性看護学 目標1および2 2 人間の性と生殖 A ヒトの発生と遺伝的要素 a 発生のメカニズム b 染色体・遺伝子 D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 d ハイリスク児の医療 成人看護学 目標3 5 終末期の看護 A 緩和ケア b 疼痛コントロール c QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の保証  老年看護学 目標2 C 老年看護における倫理的課題 b 資源の公正な配分 c 高齢者差別 d 虐待・身体拘束	
8 ~ 15	個別的な論題および種々の事案の紹介と検討	個別的な論題については履修者が希望するものを選びあげる。特に希望がない場合には、 1) 高齢患者による治療拒否 2) 植物状態患者(死の定義) 3) 安楽死 4) 生殖補助医療 5) 出生前検査・診断 6) 新生児医療 などを論題として採りあげ、種々の事案の倫理的是非の検討を行なう予定である。		

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』(じほう、2002年) その他については、講義中に適宜指示する。

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	本授業では、「教育」について一般的・基本的事項を講義する。 意図的な「教育」は、主として学校や家庭で行われるが、看護や医療の場において教育的な配慮が必要であることは言うまでもない。教員や親としてはもとより、医療従事者にとっても必要な「教育者」の素養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論など）を理解し、広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができるようにする。 青少年の問題行動について関心をもち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができるようにする。
関 連 科 目	家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(70%) 授業への参加度(30%)
準 備 学 習 の 内 容	各回終了時の次時の予告に基づいて、自分の経験などから問題意識を持つておくこと

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	教育	「教育」を考える 教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」 「覚える」「分かる」 動機づけ  教育の適時性 乳児期・児童期・青年前期 教育内容・教育方法 「何を」「どのように」  近代以前：庶民の教育 明治以降の教育改革：ゆれる教育改革 教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係  道徳的心情の教育 宗教教育・人権教育  不登校・引きこもり・いじめ 事例研究  心身に障害がある子供 発達の偏りがある子供 インテグレーション		
2	教と育			
3	学と習			
4				
5	発達と教育			
6				
7				
8	教育制度の変遷			
9	教育関係法			
10	心の教育			
11	学校不応			
12				
13	特別支援教育			
14				
15	まとめ			

教 科 書	使用しない
参 考 書	授業時に紹介

授業科目名	医療民俗学	単位認定者	板橋春夫
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	誕生、病気、医療、死、霊魂をキーワードに医療文化を民俗学的視点から学ぶ。
学習到達目標	現代医療を考えるための民俗学的アプローチの方法に親しみ、日常生活における疑問解決の方法を学ぶことができる。
関連科目	生命倫理
成績評価方法・基準	試験70%・授業への参加度30%
準備学習の内容	教科書を事前に読み、必要に応じて下調べをする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		オリエンテーション(学習の進め方) 生死のこと/徒然草にみる生死 丙午俗信と出産行動(医療と俗信の関係) いのち観と人生儀礼([生命]と「いのち」) 名前と人生(いのちの名付け) 現代の名前(名付けの基本を考える) 霊魂の伝承(昔話・身近な言い伝え) 夜の民俗(妖怪魔物・眠らない夜) 長寿の民俗(長寿銭習俗・高齢社会の問題) 病気の民俗(大安退院問題・急病人搬送) 看取りと臨終(終末期医療) 死の儀礼(死者儀礼の学習) 死の判定とタマヨビ(医療化以前の伝統文化) まとめ まとめ		

教科書	『叢書いのちの民俗学3生死』 板橋春夫著 (社会評論社)
参考書	

授業科目名	健康スポーツ理論	単位認定者	近藤照彦
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	「入門運動生理学」のテキストを中心に講義する。講義内容の理解を深めるために、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連するスポーツや健康の話題について報告する。
科目の目的	看護師の資格を目指す学生に対して、スポーツ科学および運動生理学の側面から身体におよぼす運動の効果、健康づくりを実践するための理論について学習する。
学習到達目標	運動における生体の生理的变化(筋・神経系、呼吸循環系、肥満・代謝系など)の概論が理解できる。教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関連科目	生理学 解剖学
成績評価方法・基準	定期試験(80点)・出席点および学習点(20点)の総合100点の評価とする。
準備学習の内容	テキストの課題を準備学習する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ガイダンス	講義概要・運動生理学の学習の意義について		
2	筋の機能と役割	筋線維の種類とその特徴		
3	筋の機能と役割	筋の収縮様式と筋力		
4	運動と呼吸	運動と循環		
5	運動と呼吸	運動と呼吸		
6	運動と内分泌	運動とホルモン		
7	運動と肥満	身体組成と肥満		
8	運動処方	運動処方・車いすバスケットボール		
9	運動と生活習慣病	メタボリックシンドローム、肥満の最近の知見		
10	運動と体温	運動と体温調節		
11	運動と疲労	筋疲労の要因		
12	運動と老化	老化にともなう身体機能の変化		
13	運動と栄養	運動と栄養、運動選手の栄養		
14	健康と運動	健康と運動		
15	まとめ	まとめ		

教科書	入門運動生理学 勝田 茂編著 杏林書院
参考書	

授業科目名	健康スポーツ実技	単位認定者	近藤 照彦
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	選択

指導方法	高山キャンパスの体育館、高山運動公園グラウンドおよび高山キャンパス周辺において、健康づくりを実践するための実技を行う。からだの調整（コンディショニング）としてウォーキングを中心に行い、次第に個人の体力レベルとモチベーションを高めることを目標とする。スポーツは、体育館およびグラウンドで行える選択制のレクリエーションスポーツとする。
科目の目的	健康スポーツ理論の実践として健康増進、体力向上のための運動を行う。生涯スポーツ、レクリエーション参加を通じた生活の質の向上を実践する。スポーツの実践を通してクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学習到達目標	健康のための運動実践と体力向上を実技 15 回出席目標とする。健康度の全身持久性指標である 12 分間走テストから推定される最大酸素摂取量年齢別男女平均値に到達できることを目標とする。集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことも目標とする。
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	12 分間走テスト年齢別男女平均値基準到達および出席（15 回）・学習能力での総合評価とする。
準備学習の内容	健康管理に努める

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	実技 1	講義概要の解説（高山キャンパス） ウォーキング		
2 3	実技 2-3	高山キャンパス、キャンパス周辺、グラウンド、体育館 コンディショニング（体力の調整）、ストレッチ ウォーキング		
4 5	実技 4-5	高山キャンパス、コンディショニング（体力の調整） 12 分間走		
6 7	実技 6-7	高山キャンパス、12 分間走テスト予備 コンディショニング（体力の調整）		
8 9	実技 8-9	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		
10 11	実技 10-11	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		
12 13	実技 12-13	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 体育館選択スポーツ		
14 15	実技 14-15	高山キャンパス、グラウンド選択スポーツ、テニス選択 12 分間走 体育館選択スポーツ		

教科書	使用せず
参考書	使用せず



授 業 科 目 名	英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。講義と受講者の授業参加。
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組める力をつける。 専門分野の基本英語語彙力をつける。
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語、英語表現の習得。
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 II 看護学のための基礎英語 英語表現 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法・基準	前期末試験(90%) 医療英単語テストの平均点(10%) 全回出席が大前提。
準 備 学 習 の 内 容	Reading: 各 Unit の予習シートに沿って予習をすること。 Conversation: 医療・看護英単語を覚えること。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明、自己紹介		
2	(Reading) Unit 1 (会話) Unit 1	Colds, Flu and Folk Advice 急に話しかけられたときの対応		
3	(Reading) Unit 1 (会話) Unit 2	Colds, Flu and Folk Advice 自己紹介のときの基本的質問と答え方		
4	(Reading) Unit 2 (会話) Unit 3	Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection 丁寧な質問の仕方、数字の読み方		
5	(Reading) Unit 2 (会話) Unit 3	Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection 丁寧な質問の仕方、数字の読み方		
6	(Reading) Unit 3 (会話) Unit 4	Drinking Beer Could Provide Health Benefits 初診の患者さんへの基本的質問		
7	(Reading) Unit 3 (会話) Unit 4	Drinking Beer Could Provide Health Benefits 初診の患者さんへの基本的質問		
8	(Reading) Unit 4 (会話) Unit 5	Alcohol, the Asian Flush and the Risk of Cancer 病院内での道順の尋ね方と答え方		
9	(Reading) Unit 4 (会話) Unit 5	Alcohol, the Asian Flush and the Risk of Cancer 病院内での道順の尋ね方と答え方		
10	(Reading) Unit 5 (会話) Unit 6	Cancer May Soon Be World's Leading Killer 症状の尋ね方		
11	(Reading) Unit 5 (会話) Unit 6	Cancer May Soon Be World's Leading Killer 症状の尋ね方		
12	(Reading) Unit 6 (会話) Unit 7	Insomnia 症状の尋ね方		
13	(Reading) Unit 6 (会話) Unit 7	Insomnia 症状の尋ね方		
14	復習	Reading の復習		
15	まとめ			

教 科 書	近藤 進、Gerald R. Gordon, 吉岡みのり著 <i>Caregiver</i> (『世界に見る医療と看護』)、朝日出版社、2010年。 知念クリスティーン&上瀧真紀恵著 『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005年。
参 考 書	英和辞書

授業科目名	英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。講義と受講者の授業参加。
科 目 の 目 的	英語 I で養成した専門分野の英語に取り組める力の発展。 専門用語語彙力の発展。
学 習 到 達 目 標	読解力、リスニング力の向上。 看護の基本的英単語語彙力、英語表現力の向上。
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語 I 看護学のための基礎英語 英語表現 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法・基準	前期末試験 (90%) 医療英単語テストの平均点(10%) 全回出席が大前提。
準備学習の内容	Reading: 各 Unit の予習シートに沿って予習をすること。 Conversation: 医療・看護に関する英単語および表現を覚えること。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	(Reading) Unit 7 (会話) Unit 8	The Mystery of Dreams and Dreaming 病歴の尋ね方		
2	(Reading) Unit 7 (会話) Unit 8	The Mystery of Dreams and Dreaming 病歴の尋ね方		
3	(Reading) Unit 8 (会話) Unit 9	Headache 薬の服用に関する表現		
4	(Reading) Unit 8 (会話) Unit 9	Headache 薬の服用に関する表現 3		
5	(Reading) Unit 9 (会話) Unit 10	Saving Preterm Babies with an Idea from Nature 予約の取り方		
6	(Reading) Unit 9 (会話) Unit 10	Saving Preterm Babies with an Idea from Nature 予約の取り方		
7	(Reading) Unit 10 (会話) Unit 11	Looking for New Uses for Spices in the Medical Lab 手術に関する表現		
8	(Reading) Unit 10 (会話) Unit 11	Looking for New Uses for Spices in the Medical Lab 手術に関する表現		
9	(Reading) Unit 11 (会話) Unit 12	Feeling No Pain: The World of Anesthesia 入院患者さんへの一般的質問		
10	(Reading) Unit 11 (会話) Unit 12	Feeling No Pain: The World of Anesthesia 入院患者さんへの一般的質問		
11	(会話)	Skit 作成		
12	(会話)	Skit 作成		
13	(会話)	Skit 発表会		
14	復習	Reading の復習		
15	まとめ			

教 科 書	近藤 進、Gerald R. Gordon, 吉岡みのり著 <i>Caregiver</i> (『世界に見る医療と看護』)、朝日出版社、2010年。 知念クリスティーン&上瀧真紀恵著 『クリスティーンのやさしい看護英会話』、医学書院、2005年。
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストに沿って進めるが、適宜プリントも使用する。受講者の授業参加。
科 目 の 目 的	Listening, Reading, Speaking を通して様々な英語表現に触れ、理解を深め、Writing にもつなげる。
学 習 到 達 目 標	より高度な専門分野の英語表現の習得。専門分野以外の場面での英語表現の習得。 パラグラフ writing の基礎の理解。
関 連 科 目	【関連する教養科目】英語Ⅰ 英語Ⅱ 看護学のための基礎英語 ステップアップ英語 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法・基準	後期末試験(90%) 医療英単語テストの平均点(10%) 全回出席が大前提。
準 備 学 習 の 内 容	事前にテキストを読んで、わからない単語は調べてくること。 医療・看護英単語および表現を覚えること。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	会話&読解 1	Unit 6 産婦人科での表現		
2	会話&読解 2	Unit 6 産婦人科での表現		
3	会話&読解 3	Unit 6 産婦人科での表現		
4	会話&読解 4	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
5	会話&読解 5	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
6	会話&読解 6	Unit 7 小児科/予防接種の表現		
7	会話&読解 7	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
8	会話&読解 8	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
9	会話&読解 9	Unit 10 心のケア/文化や宗教の違いの表現		
10	会話&リスニング	実践看護英会話のビデオを見る		
11	会話&リスニング	ビデオを再現、ロールプレイ		
12	その他の重要表現	People with disabilities に関する表現		
13	Writing 1	paragraph writing の基礎		
14	Writing 2	paragraph writing の基礎		
15	まとめ			

教 科 書	知念クリスティーン&迫 和子 『クリスティーンのレベルアップ看護英会話』、医学書院、2001年。
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	ス テ ッ プ ア ッ プ 英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	プリントにより進める。教材は受講者の希望によって変更もありうる。講義と受講者の授業参加。
科 目 の 目 的	専門分野の英語文献を読める力の強化。将来の進学や就職に備えて読解力、リスニング力の強化。
学 習 到 達 目 標	難易度高めの英語文献を正しく理解できる。英語専門用語の定着。リスニング力の向上。
関 連 科 目	【関連する教養科目】 英語Ⅰ 英語Ⅱ 看護学のための基礎英語 英語表現 広くは看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法・基準	後期末試験(90%) 授業への取り組み姿勢(10%) 全回出席が大前提。
準 備 学 習 の 内 容	事前にテキストを読んで、わからない単語は調べ、理解しにくい箇所を明確にしておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題		
2	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題		
3	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題		
4	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題		
5	Reading&Listening	Episodes from ER を読む。 TOEIC のリスニング問題		
6	Reading&Listening	Helen Keller の essay を読む。 TOEIC のリスニング問題		
7	Reading&Listening	Helen Keller の essay を読む。 TOEIC のリスニング問題		
8	Reading&Listening	Helen Keller の essay を読む TOEFL のリスニング問題		
9	Reading&Listening	New York Times の記事を読む TOEFL のリスニング問題		
10	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題		
11	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題		
12	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題		
13	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題		
14	Reading&Listening	New York Times の記事を読む。 TOEFL のリスニング問題		
15	まとめ			

教 科 書	プリントを使用する。
参 考 書	英和辞書

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	[読む、書く、聴く、話す]の四能力のうち、特に[聴く、話す]に重点を置きながら、日常生活ができる語学力を習得させる。また、学習を通じて、中国の社会状況、地理、文化、歴史、生活習慣などを理解する。多文化多言語が共生する現代社会の中で、一国際人として、それに適応できる語学力を身につけたい。
学 習 到 達 目 標	中国語の難関は発音と四声である。それを習得するには、毎日の練習と個々の指導が不可欠である。テキストの例文を使って、文法形態を理解してもらおう。また日本語と違うところも判ってもらおう。会話を中心に楽しく勉強できる雰囲気をつくり、日常会話ができる基礎づくりを目標とします。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学期末に筆記試験を行う。出席数、受講時の学習態度及び試験の成績を参考の上、成績を評価する。基準は試験50%、授業への参加度50%
準 備 学 習 の 内 容	前回の授業で学習した内容を復習すること。特に発音と四声はテキストのCDを参考しながら毎回練習して欲しい。新しい単語は暗記し、書く練習と読む練習をすること。次回授業の予習もして置く事。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	発音の基本	ガイダンス、母音、四声		
2	発音練習	母音、子音、四声		
3	発音練習	音節表の読む練習		
4	第1課	挨拶【こんにちは】、語彙と文法		
5	第2課	会話【あなたは中国人ですか】、語彙と文法		
6	第3課	会話【健康保険証を持っていますか】、語彙と文法		
7	第4課	会話【家族にはどんな人がいますか】、語彙と文法		
8	第5課	会話【あそこで少しお待ちください】、語彙と文法		
9	復習	第1課から第5課までの復習		
10	第6課	会話【少し話せます】、語彙と文法		
11	第7課	会話【検査室へ行ってください】、語彙と文法		
12	第8課	会話【どうしましたか】、語彙と文法		
13	第9課	会話【口を開けてください】、語彙と文法		
14	第10課	会話【この薬を飲んだことがありますか】、語彙と文法		
15	まとめ	試験		

教 科 書	[医療学生の初級中国語] 山田真一 著 【白帝社】
参 考 書	

授 業 科 目 名	コ リ ア 語	単 位 認 定 者	青 木 順
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。</li> <li>・ 正確な発音をマスターする。</li> <li>・ 挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。</li> </ul>
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業中の小テスト数回 ( 3 0 % ) ・ 期末テスト ( 7 0 % )
準 備 学 習 の 内 容	付属の CD を繰り返し聴くこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	第一課	<p>コリア語は語順が日本語と非常に似ており日本人にとっては学び易い言語といえる。反面、日本語にない発音が多いため正確な発音を習得するには少々時間を要する。そこで、発音の練習とともに語彙を増やし、基本文法や会話を体系的に指導していく。</p> <p>前半はハングル文字の読み書きを中心に、語彙を増やすとともに簡単な挨拶言葉が言えるように、後半は文法を中心に簡単な日常会話ができるように講義を行う。また映画などの鑑賞を通して、韓国の社会や文化に触れさせる。</p> <p>&lt;文字と発音&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハングルの読み方 ( 1 ) 基本母音と基本子音</li> <li>・ ハングルの読み方 ( 2 ) 激音と濃音</li> <li>・ ハングルの読み方 ( 3 ) 合成母音とパッチム</li> <li>・ 挨拶言葉など通して韓国文化を学ぶ。</li> </ul> <p>&lt;文法と会話&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「私は日本人です」</li> <li>・ 「それは何ですか」</li> <li>・ 「週末には何をしますか」</li> <li>・ 「いつ行きますか」</li> <li>・ 「どうやっていきますか」</li> <li>・ 「いつ日本へ来ましたか」</li> <li>・ 「どちらへ行ってらっしゃいましたか？」</li> <li>・ 「温泉に行きたいです」</li> <li>・ 「プレゼントをかうのでお金をたくさん使います」</li> <li>・ 「結婚式に何を着ていけばいいですか？」</li> <li>・ まとめ</li> </ul>		
2	第二課			
3	第三課			
4	第四課			
5	第五課			
6	第六課			
7	第七課			
8	第八課			
9	第九課			
10	第十課			
11	第十一課			
12	第十二課			
13	第十三課			
14	第十四課			
15	まとめ			

教 科 書	新装版「できる韓国語」初級1 新大久保語学学院 李志暎 著 DEKIRU 出版 CD 付
参 考 書	携帯版 「韓国語とっさのひとこと辞典」金裕鴻 著 (DHC 刊)

授業科目名	家族学	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。
学習到達目標	1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関連科目	【関連し合う教養科目】 ジェンダー論 地域社会学 法学 【この科目が基盤となる専門科目】 看護学入門、看護学概論、母性看護学概論、地域看護学概論 在宅看護論
成績評価方法・基準	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果に出席、毎回のミニツツペーパーの記述・提出、取組み姿勢をはじめとする平常点を加味して評価する。配点内訳は、試験点8:平常点2を目安とする。
準備学習の内容	前回授業の重要事項を見直しておくこと

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	【必修問題】 【 】 - 【1.健康に関する指評】	
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期 国際家族年に示された家族の理念	【A健康に関する指標】 【e.世帯数】	
3	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働	【 】 - 【1.健康に関する指標】 【A健康に関する指標】	
4	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による経済基盤の確保 生活保障の第三側面：感情機能	【f.婚姻家族形態】 【 】 - 【2.健康と生活】	
5	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族 親族 婚姻	【B労働】	
6	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族 親子 後見 第五編 相続	【d.母性保護と両立支援】	
7	家族をめぐる制度(3)	戦前明治民法における「家」制度	【 】 - 【8.患者と家族】	
8	家族をめぐる制度(4)	“夫婦別姓”とはどういう問題か	【A家族の機能】【a.家族関係】	
9	家庭経済(1)	家庭経済内部の4つの活動とその循環 稼得：収入と所得、所得の種類、賃金とその内訳	【 】 - 【8.患者と家族】【A家族の機能】【b.家族構成員】	
10	家庭経済(2)	モノの購入・家計支出、家計支出の内訳、家事労働：消費と労働力の再生産、家事労働の種類、貯蓄	【 】 - 【8.患者と家族】 【B家族形態の変化】【a.家族の多様性】	
11	生活習慣(1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣 食生活	【 】 - 【8.患者と家族】	
12	生活習慣(2)	家族と生活習慣 喫煙、飲酒	【B家族形態の変化】【b.構成員の変化】	
13	ワークライフバランス(1)	ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮	【社会保障制度と生活者の健康】	
14	ワークライフバランス(2)	家庭責任をもつ人の仕事への支援	【 】 - 【1.生活基盤】	
15	まとめ	まとめ	【A生活単位】【b.家族<世帯>】 【 】 - 【1.生活基盤】【A生活単位】【c.ライフサイクル>】	

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	落合恵美子：21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超えかた．有斐閣、2004 山田昌弘：迷走する家族 戦後家族のモデルの形成と解体．有斐閣、2005 岡野八代：家族 新しい「親密圏」を求めて．岩波書店、2010

授 業 科 目 名	環 境 学	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1. 環境問題の背景と発生原因への理解 2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関 連 科 目	地域社会学、経済学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（80%）、出席・受講状況（20%）
準 備 学 習 の 内 容	自筆ノートの整理

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	社会保障制度と生活者の健康】 目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 3．生活環境の保全 A．地球環境 a) 地球温暖化 b) オゾン層の破壊 c) 酸性雨 B．水・空気・土壌 a) 水の安全性 b) 大気汚染 c) ダイオキシン C．食品管理および家庭用品 a) 食品安全確保対策 b) 食品衛生管理制度 c) 家庭用品の安全対策 D．ごみ・廃棄物 a) 一般廃棄物と産業廃棄物 b) 市町村の責任 c) 生活廃水処理 E．住環境 a) バリアフリー b) シックハウス症候群	地域看護学1】 3．社会環境の変化と健康課題 C. 健康に影響する生活環境要因 e) 生活環境（公害・環境汚染）
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち		
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源		
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷		
5	典型七公害	足尾鉍毒、水俣病、イタイイタイ病		
6	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成		
7	オゾン層破壊	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し		
8	地球温暖化( )	温室効果ガス、気候変動の状況と見通し、対策		
9	地球温暖化( )	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任		
10	エネルギー問題	日本の1次エネルギー現状、再生可能エネルギー		
11	廃棄物問題( )	一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物、感染性廃棄物		
12	食料生産と環境	食料生産の現状、フードマイレージ、食品の安全性		
13	循環型社会	3R、熱回収、適正処分		
14	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり		
15	まとめ	内容を振り返ってまとめる		

教 科 書	使用せず
参 考 書	「平成22年版環境白書」環境省編（ぎょうせい）



授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。
関 連 科 目	特になし
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(40%)・課題提出(15%)・発表(15%)・出席状況(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。
準 備 学 習 の 内 容	特になし

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	統計学の基礎	統計学の歴史について指導する		【疫学・保健統計】 目標：疫学および統計学の概念と方法を理解し、これを地域診断に用い、地域保健・地域看護に役立てる基礎的な理解を問う。 11. 情報処理 A 情報処理の基礎 a コンピュータとソフトウェア b ネットワークとインターネット c データの電子化 d 情報セキュリティ e データベース B レコードリンケージ C 文献検索 a 一次情報・二次情報 b 文献検索方法
2	統計学の基礎	統計学の基本的事項について指導する		
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する		
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均について指導する		
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する		
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値について指導する		
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する		
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する		
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する		
10	データベースの基本事項	種々のデータベース作成について指導する		
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計を指導する		
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の埋め込みについて指導する		
13	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
14	研究課題の発表	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う 全体的なまとめを行う		
15	まとめ			

教 科 書	「30時間でマスター Excel2007」(実教出版)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	法 学	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	基本的人権・民主主義・平和といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。
学 習 到 達 目 標	政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長する。あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつける。法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。
関 連 科 目	経済学・ジェンダー論・家族学・教育学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	論述中心の筆記試験により評価する。自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうかを、評価の基準とする。なお、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。
準 備 学 習 の 内 容	参考文献を読む。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	序論	憲法・法律の役割		
2	人権(1)	人権とは何か		
3	人権(2)	家族と人権		
4	人権(3)	労働と人権		
5	民主主義	民主主義と独裁政治		
6	平和(1)	日本の戦争		
7	平和(2)	憲法9条の考え方		
8	まとめ			
	各回の授業内容と順番は、変更することがある。			

教 科 書	使用しない。
参 考 書	森英樹『新版 主権者はきみだ - 憲法のわかる50話 - 』岩波ジュニア新書

授業科目名	ジェンダー論	単位認定者	内藤和美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	1.高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解読し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2.若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える
学習到達目標	1.日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2.1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる 3.2のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4.3のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる
関連科目	【関連する教養科目】家族学、法学
成績評価方法・基準	講義を踏まえ、主に、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席、毎回のミニツツペーパーの記述・提出、取組み姿勢をはじめとする平常点を加味して評価する。配点内訳は、試験点8:平常点2を目安とする
準備学習の内容	前回授業の重要事項を見直しておくこと

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ジェンダー、戦後日本社会のジェンダー構造	ジェンダーとは 製造装置の回路(2つの性別分業)、一次生産物(社会資源の男性偏在)、二次生産物(女性問題)		
2	製造装置を読み解く(1)	第1の性別分業:社会的労働と私的労働		
3	製造装置を読み解く(2)	第1の性別分業:社会的労働と私的労働(続)		
4	製造装置を読み解く(3)	第2の性別分業:社会的労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働)、2つの性別分業の関係		
5	生産物次元の問題(1)	一次生産物:経済力と意志決定の男性への偏り、二次生産物:女性問題 女性に対する暴力、とくにDVを具体例として(1)		
6	生産物次元の問題(2)	二次生産物:女性問題 女性に対する暴力を例に DV(1)		
7	生産物次元の問題(3)	二次生産物:女性問題 女性に対する暴力を例に DV(2)		
8	生産物次元の問題(4)	ハラスメント		
9	子育てとジェンダー	子育てに係る能力に男女差はあるのか?		
10	児童虐待(1)	児童虐待の定義、種類、問題		
11	児童虐待(2)	児童虐待の実態		
12	児童虐待(3)	児童虐待の防止・対応		
13	性別について公正な社会へ(1)	国連女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法、性別にて公正な社会の姿(1)		
14	性別について公正な社会へ(2)	性別について公正な社会の姿(2) 社会的労働と私的労働のゆくえ		
15	まとめ	まとめ		

教科書	使用しない(プリントによる)
参考書	内閣府「男女共同参画白書 平成23年度版」 川崎二三彦:児童虐待.岩波新書、2006 石井朝子:よくわかるDV被害者への理解と支援 :対応の基本から法制度まで現場で役立つガイドライン.明石書店、2009 宮田雄吾:「生存者」と呼ばれる子どもたち 児童虐待を生き抜いて.角川書店、2010

授業科目名	地域社会学	単位認定者	坂本祐子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても結局は「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。
学習到達目標	1. 地域社会に関する基本的な知識(地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など)を身につける。 2. 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3. 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関連科目	関連し合う教養科目 - 老年心理学 生活学 家族学 ボランティア活動論 環境論 この科目が基盤となる専門基礎科目 - 地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 - 精神地域看護学 地域看護学概論 地域看護学 ・ ・ 災害看護
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する(定期試験70%・出席と小レポート30%)。
準備学習の内容	普段から社会の変化を感じ、地域社会で何が問題になっているのか自分で考える力を養うため、新聞を読む習慣をつけてもらいたい。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。	【社会保障制度と生活者の健康】 目標1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う。  1. 生活基盤 C. 生活の場と健康 a) 都市 b) 農村・漁村 c) へき地  D. 労働と健康 a) 仕事内容 b) 労働時間 c) 仕事と余暇  3. 人間の集団としてのほたらき B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク  C. 職場における人間関係 a) 上司との関係 b) 組織のなかでの役割 c) 同僚との関係	地域看護学 目標 地域で生活する人々の健康問題の解決や地域の健康課題の組織的な解決に関する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う。
2	地域社会学の概論(2)	地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。		2. 地域看護学の構成 B. 活動対象 a. 個人・家族 b. 小集団 c. 組織・機関 d. コミュニティ、地域社会
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		C. 活動方法 a. 地域診断 b. 計画策定・評価 c. 地区活動(地域を対象とした接近技法・技術) d. 個人・家族・小集団の接近技法・技術 e. コーディネーション f. 地域ケアシステム構築 g. 地域資源開発
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		地域看護学 目標 地域に顕在あるいは潜在化している健康問題の把握方法。地域診断に基づく活動計画と評価、さらに住民ニーズの施策化など、組織的に解決する基礎的な理解を問う。 1. 地域診断 A. 地域特性、地域集団の特徴の把握 a. 地域診断の概念、情報収
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など)		
6	地域と家族(1)	労働環境の変化と家族		
7	地域と家族(2)	家族の機能と家族の変容		
8	子育てと地域社会(1)	都市化の進展と子育て環境の変化		
9	子育てと地域社会(2)	地域で育児を支援する様々な取り組み		
10	地域コミュニティの担い手(1)	コミュニティ福祉の理念と方法		
11	地域コミュニティの担い手(2)	ボランティアと住民組織の再評価		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	地域コミュニティの担い手(3)	NPOの可能性とコミュニティ・リーダー		集、アセスメント b. 日常的な保健師活動からの潜在・顕在ニーズの把握と分析 c. 住民ニーズの把握と住民の意見聴取 d. 既存の統計資料の分析 f. 実態調査 4. 地域看護管理 C. 地域ケアの質の保証 a. サービス挨拶、組織の診断 b. 地域にける看護の継続性と統合性の推進 c. 他職種・他機関との事例検討 d. 地域の特性をいかした社会資源の開発と管理
13	地域コミュニティの担い手(4)	地域における社会起業家の活躍		
14	地域コミュニティの形成	地域におけるソーシャル・キャピタルとネットワーク		
15	まとめ	講義内容の振り返り		

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、レジュメや資料を配布する。
参考書	森岡清志編『地域の社会学』2008 有斐閣アルマ

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	単 位 認 定 者	竹 澤 泰 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・学生の発表
科 目 の 目 的	ボランティアとは何か。ボランティア活動の問題点。ボランティア活動と心の問題。
学 習 到 達 目 標	ボランティアの基本概念と歴史を習得。 国内外におけるボランティア活動を知る。現行のボランティア活動を調査・分析して報告することにより各自のボランティアにたいする考えをまとめる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	発表の内容並びに発表態度・発表についてのレポート(70%) 授業後毎回提出の意見(20%) 授業への参加率(10%)
準 備 学 習 の 内 容	グループ毎の発表のための準備 講義に関しては別になし

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ボランティアとは エゴグラムテスト	学生の関わったボランティア活動やボランティアについて意見を話し合う エゴグラムテストにより自己分析を行う		
2	ボランティア活動	講師が30年間行ってきたボランティア活動について述べる		
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史(国内・国外)		
4	ボランティア活動の 経験談1	アジアを知ろうの会の代表		
5	ボランティア活動の 経験談2	アゼルバイジャンの方		
6	ボランティア活動の 経験談3	カンボジアに学校を設立している方		
7	活動のプレゼンテーション 調査開始	グループに分かれる、テーマを決めて話し合う 論点を抑えて調査する指導を行う 調査結果のまとめに重点を置くよう指導		
8	同上	グループの発表 発表者以外はプレゼンテーションの内容態度を評価、コメントする。		
9	グループ発表開始	プレゼンテーション継続		
10 - 14 回		プレゼンテーションのまとめレポート提出		
15	まとめ			

教 科 書	なし
参 考 書	PCのボランティア活動サイト

授業科目名	経済学	単位認定者	飯島正義
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義形式。
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは私たちの経済生活そのものを知ることとなります。
学習到達目標	1. まず、経済学の基礎理論を理解できるようにする。 2. その上で、現実の経済現象について理解できるようにする。
関連科目	
成績評価方法・基準	平常点(出欠席や学習態度、授業中に行う確認)40%、学期末試験60%で総合的に評価します。
準備学習の内容	高校時代に学んだ「政治・経済」の「経済」のところをもう1度見直しておいて下さい。一層理解が深まると思います。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	イントロダクション	授業内容とその進め方、成績評価についての説明		
2	国民経済の仕組み	経済3主体と国民経済の仕組み		
3	市場メカニズム	市場メカニズムとは何か		
4	物価	物価とは、インフレ・デフレが及ぼす影響は？		
5	市場の失敗	市場メカニズムの限界、外部経済		
6	政府の役割	政府の役割、政府の失敗		
7	財政・金融政策(1)	財政政策		
8	財政・金融政策(2)	金融政策		
9	国内総生産	国内総生産(GDP)とは、日本は世界何位？		
10	経済成長	経済成長とは、日本の成長率は？		
11	貿易と国際収支	比較優位説、「国際収支表」を読む		
12	為替レート	為替レートとは、私たちへの影響は？		
13	経済統計を読む(1)	「景気動向」に関する諸統計を読む		
14	経済統計を読む(2)	「国民経済計算」を読む		
15	試験	筆記試験		

教科書	使用しません。当日プリント資料を配布します。
参考書	必要に応じて随時紹介します

授 業 科 目 名	大 学 の 学 び 入 門	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行する 1. 自立した人間になっていくために必要な知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけそれを解決していく大学の学習へ 2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活へ
学 習 到 達 目 標	1. 大学での学習に必要な、基本的な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル）を高める 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、人間関係能力を高める（スチューデント・スキル）
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況、課題（ワークシート、レポート）の提出状況・取り組み水準による単位認定
準 備 学 習 の 内 容	前回授業の重要事項を見直しておくこと

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	科目の説明、大学生の学習・生活	科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い		
2	アカデミック・スキルとスチューデント・スキル	アカデミック・スキル“自ら課題を見つけそれを解決していく力”の構成要素、スチューデント・スキル—時間管理を中心とする生活管理、人と関わる力		
3	課題を立てる	前回授業を踏まえた自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を整理し、課題シートに記入する		
4	聞く	授業を受ける、ノートを取る、復習とは何をすることか		
5	読む	本や資料を読む		
6	読む	本や資料を読む（続）		
7	調べる	情報を探す		
8	考える	課題を見出す、解決の筋道を組立てる、論理を組立てる		
9	書く	レポートの書き方		
10	書く	レポートの書き方（続）		
11	書く	例題レポートの作成		
12	書く	例題レポートの作成（続）		
13	書く	例題レポートの完成		
14	情報技術 まとめ	学生による授業アンケートのガイダンス インターネット利用のルールとマナー まとめ—課題はいかに追求されたか		
15				

教 科 書	使用しない（プリント、ワークシート）
参 考 書	「大学生活ナビ」多摩川大学コア・EYE教育センター（玉川大学出版部）2006 「スタディ・スキル入門」天野明弘・太田勲他（有斐閣）2008、「理科系の作文技術」木下是雄（中公新書）1981 「大学生諸君！ 今求められる問題解決力」早川修（流通経済大学出版会）2008



授業科目名	看護学のための生物学	単位認定者	佐藤久美子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	高等学校までの生物学の学習と、看護学の専門教育をつなぐために、生命現象と生体機能の基礎的理解を深めることを目的とする。
学習到達目標	以下3事項について正確に理解する 1. 生体構成成分 2. 細胞の構造、機能と細胞の分化 3. 遺伝の分子メカニズム
関連科目	解剖学、生理学、生化学
成績評価方法・基準	学習到達目標の達成度を測る内容の定期試験の結果及び時々行うミニテストの結果を加味して評価する
準備学習の内容	高等学校で生物を履修、または自己学習していること。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	生命を支える物質 - その1 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物学の研究対象や方法</li> <li>生命現象の特質</li> <li>水と生命との関わり</li> <li>タンパク質の構成単位、アミノ酸の構造と種類</li> <li>タンパク質の構造と機能について</li> </ul>		
2	生命を支える物質 - その2 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>炭水化物(糖質)の種類と役割</li> <li>脂質の種類と役割</li> <li>遺伝物質である核酸の種類と構造</li> <li>無機質(無機塩類)の種類と役割</li> </ul>		
3	生命の単位 - その1 - ウイルス、原核細胞 と真核細胞 真核細胞 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウイルス(大きさや形)</li> <li>原核細胞と真核細胞の構造</li> <li>真核細胞の膜の働きと細胞質基質の役割 細胞膜の構造と働き、細胞膜を介した物質の輸送、及び細胞質基質内で行われている種々の物質の合成、分解反応などについて</li> </ul>		
4	生命の単位 - その2 - 真核細胞 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>粗面小胞体と滑面小胞体の構造と機能、両者の関係及び粗面小胞体上で合成される蛋白質の特徴</li> <li>ゴルジ体の構造と機能</li> <li>小胞体とゴルジ体の関係</li> <li>リソゾームの形成過程と種類、リソゾームに含まれる酵素の特徴、細胞内で果たす役割について</li> </ul>		
5	生命の単位 - その3 - 真核細胞 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペルオキシソーム</li> <li>ミトコンドリアの構造と機能</li> <li>色素体</li> <li>細胞骨格の種類とその役割について</li> </ul>		
6	生命活動とエネルギー - 酵素、光合成、呼吸	<ul style="list-style-type: none"> <li>酵素の性質や特徴と酵素反応について</li> <li>光エネルギー - を利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す光合成とエネルギー - 運搬体ATPについて</li> <li>生体のエネルギー - 産生とミトコンドリア(解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生)</li> <li>産生されたエネルギーの行方</li> </ul>		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	細胞の増殖・生殖細胞の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体細胞で見られる細胞分裂(体細胞分裂)と配偶子を形成する過程で見られる減数分裂について</li> <li>・細胞周期とS期、G2期、M期、G1期の各期に起こる形態的・生化学的变化</li> <li>・G1期の細胞の特徴について</li> </ul>		
8	細胞の分化と幹細胞アポトーシスとネクロシス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の分化と各種幹細胞、胚性幹細胞、iPS細胞</li> <li>・幹細胞の医療分野における応用の可能性について</li> <li>・多細胞体の体制維持とアポトーシス</li> </ul>		
9	ヒト配偶子の形成、受精、発生概説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトの精子と卵子の形成</li> <li>・キアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義</li> <li>・ヒトの受精及び初期発生と胚葉の分化の概要</li> </ul>		
10	- 生命の自己増殖 - 染色体の構造、遺伝子の本体DNAとその複製	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DNAから染色体へ</li> <li>・DNA複製機構(DNAの開裂、プライマーの形成、リーディング鎖とラギング鎖、岡崎ピースとDNAポリメラーゼ、DNAリガーゼの役割)</li> </ul>		
11	遺伝情報と形質の発現 - その1 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝情報と形質発現の機構について</li> <li>原核細胞と真核細胞における形質発現機構の相違</li> <li>真核細胞における形質発現の詳細について</li> </ul>		
12	遺伝情報の発現 - その2 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール特定の時期(環境)に特定の遺伝子が発現する機構(あるいは発現しない機構)について</li> <li>・性染色体の不活化</li> </ul>		
13	種々の要因によるDNAの変化と人体への影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線、化学薬品、食物添加物、化粧品等によるDNAの損傷機構や損傷によって引き起こされる影響</li> <li>・生体の備わっているDNA修復機構について</li> </ul>		
14	ヒトの遺伝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンデルの法則とヒトの遺伝</li> <li>・常染色体性遺伝病と伴性遺伝病、</li> <li>・ミトコンドリア病、多因子遺伝病、</li> <li>・染色体とその異常</li> <li>・先天異常とその発症要因</li> </ul>		
15	まとめ			

教科書	人の生命科学 医歯薬出版株式会社
参考書	高校で生物を受講しなかった人へ 生物図録 数研出版 総合図説生物 田中隆荘・田村道夫・田中昭男監修 第一学習社 高校で生物を受講した人へ はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学 前野正夫・磯川桂太郎著 羊土社

授業科目名	看護学のための数学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	毎回、講義内容に関連する内容のプリントを配布し、解説する。簡単な問題をその場で考えて解く。
科目の目的	高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、看護師として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。
学習到達目標	1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。
関連科目	
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	数と式	多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。		
2	方程式と不等式	1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す。		
3	2次関数	関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。		
4	図形と計量	三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。生活の中でそのセンスを磨くことを考える。		
5	個数の処理	集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。		
6	確率	事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。		
7	論理と命題	命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。		
8	平面図形	平面図形の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。		

教科書	
参考書	

授業科目名	看護学のための化学	単位認定者	西 菌 大 実
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	化学は基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校化学を学ばなかった学生に対しても、看護学に必要な化学の基本を学べるように進める。
学 習 到 達 目 標	看護学に重要な生理学や医薬品の特質を深く理解できるようになる。また、専門職としての技能向上だけでなく、健康な生活をおくることの手助けとして、化学的理解が役立てられる。
関 連 科 目	
成績評価方法・基準	試験（80%） 出席・受講状況（20%）
準備学習の内容	自筆ノートの整理

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	物質の成り立ち	物質は何からできているか		
2	物質の変化	化学反応、燃焼とはなにか、エネルギーの出入り		
3	物質の状態	固体・液体・気体、溶液、コロイド、イオン		
4	有機化合物	炭素の性質、炭化水素、アルコール、有機酸		
5	高分子化合物	炭水化物、脂質		
6	高分子化合物	タンパク質、核酸		
7	生命と化学	生体高分子、酵素		
8	まとめ	内容を振り返ってまとめる		

教 科 書	「食を中心とした化学」【第3版】東京教学社
参 考 書	

授 業 科 目 名	看護学のための基礎英語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進める。講義。
科 目 の 目 的	英語基礎力の強化
学 習 到 達 目 標	基礎英文法の理解。正確な発音、イントネーションで単語、文章を読む。英和辞典の活用。
関 連 科 目	【関連する教養科目】 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語表現 ステップアップ英語
成績評価方法・基準	前期末試験(100%) 全出席が大前提。
準 備 学 習 の 内 容	各 Unit の練習問題をやってもらうこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Unit 1~4	be 動詞 一般動詞 進行形		
2	Unit 5~8	未来形 助動詞 名詞・冠詞 代名詞		
3	Unit 9~12	前置詞 形容詞・副詞 比較 命令文・感嘆文		
4	Unit 13, 17, 14, 15	接続詞Ⅰ,Ⅱ 不定詞Ⅰ・動名詞Ⅰ 受動態		
5	Unit 16, 18, 19, 20	現在完了形 5文型、各種疑問文 不定詞Ⅱ		
6	Unit 21,22	it の特別用法 分詞・動名詞Ⅱ		
7	Unit 23	関係代名詞		
8	まとめ			

教 科 書	First Primer (『基礎からの英語入門』) 佐藤哲三、植松伸二他著 南雲堂、2010年
参 考 書	英和辞書

授業科目名	解剖学	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第1学年	学期	通年
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護学を学ぶ上で必要と考えられる人体の構造に関する基本的な知識を習得する。
学習到達目標	人体の基本構造を説明できる。
関連科目	解剖学、生理学
成績評価方法・基準	定期試験 60%、課題 20%、出席 20%
準備学習の内容	必ず教科書の予定範囲を読んでくること。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	細胞	細胞一般、細胞膜、細胞質、細胞核、細胞周期	人体の構造と機能 1.生命と恒常性 A細胞・組織・器官 C組織 7.運動系 A骨格 a 骨の構造と機能 b 体の支柱 c四肢の骨 d頭蓋骨と胸郭 C骨格筋 a骨格筋の構造 d四肢の筋 e頸部の筋 f表情筋 g呼吸筋 h骨盤底筋 4.循環系 A心臓 a心筋 b刺激伝導系 c心臓の構造 B血管系 a動脈系と静脈系 b肺循環と体循環 c冠循環 d脳循環 g胎児の血液循環 Cリンパ系 aリンパ bリンパ管 10.消化器系 A咀嚼 a歯・口腔の構造と機能 B嚥下 a咽頭の構造と機能 b食道の構造と機能 C消化と吸収 a胃の構造と機能 b十二指腸の構造と機能 c空腸と回腸の構造と機能 d結腸の構造と機能 e直腸・肛門の構造と機能 f肝臓・胆道の構造と機能 5.呼吸器系 A呼吸器 a鼻腔の構造と機能 b咽頭・喉頭の構造と機能 c気管・気管支の構造と機能 d肺の構造と機能 12.泌尿器系 A尿の生成 a腎臓の構造 C排尿 a尿管の構造と機能 b膀胱の構造と機能 c尿道の構造と機能 13.生殖と老化 A女性の生殖系 a卵巣の構造と機能 b卵管・子宮・膣の構造と機能 B男性の生殖系 a精巣・精巣上体の構造と機能 b精子の形成 c付属生殖腺の構造と機能	
2	組織	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織		
3	身体の概要	身体の切断面の名称、器官系の概要		
4	骨格系	骨、骨の連結、骨格の構成		
5	骨格系	骨格の構成		
6	筋系	筋の構造と機能、主な筋		
7	筋系	主な筋		
8	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ		
9	循環器系	血管一般、心臓		
10	循環器系	動脈系		
11	循環器系	静脈系、胎生期の血液循環		
12	循環器系	血液・造血器・リンパ系		
13	消化器系	消化管総論、口腔		
14	消化器系	咽頭、食道、胃、小腸、大腸		
15	消化器系	肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜		
16	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ		
17	呼吸器系	鼻、咽頭、喉頭		
18	呼吸器系	気管、気管支、肺		
19	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道		
20	生殖器系	男性生殖器		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
21	生殖器系	女性生殖器	9 .内分泌系 c 内分泌器官の構造とホルモンの機能 a 視床下部 b 下垂体 c 甲状腺 d 副甲状腺 (上皮小体) e 膵島 f 副腎皮質 g 副腎髄質 h 消化管ホルモン i 腎臓のホルモン j 性腺ホルモン 6 .神経系 A 神経細胞と神経組織 a 神経細胞と情報伝達 b 神経組織 c 神経膠細胞 B 中枢神経系 a 大脳の構造と機能 b 視床と視床下部の構造と機能 c 脳幹の構造と機能 d 小脳の構造と機能 e 脊髄の構造と機能 C 末梢神経 a 脳神経 b 脊髄神経と神経叢 c 体性神経系 d 自律神経系 8 .感覚器系 A 視覚 a 眼球の構造 B 聴覚 a 耳の構造 b 平衡器官の構造 D 味覚 a 味覚受容体の構造と味覚 E 嗅覚 a 嗅覚受容体の構造と嗅覚 F 体性感覚 a 皮膚の構造と機能 c 皮膚の感覚受容体 d 皮膚感覚の種類 e 深部感覚の受容体	
22	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵島		
23	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ		
24	神経系	中枢神経系		
25	神経系	末梢神経系		
26	神経系	自律神経系、伝導路		
27	外皮	皮膚、角質器、皮膚腺		
28	感覚器	視覚器		
29	感覚器	平行聴覚器、嗅覚器、味覚器		
30	ここまでのまとめ	ここまでのまとめ		

教科書	入門人体解剖学、藤田恒夫、南江堂
参考書	

授業科目名	解剖学	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義
科目の目的	体を構成する諸組織について基本的事項を習得する。
学習到達目標	組織の顕微鏡所見をある程度見分けることができる。
関連科目	解剖学、生理学
成績評価方法・基準	定期試験 60%、課題 20%、出席 20%
準備学習の内容	教科書に沿って授業を進めるので授業予定範囲を読んてくること。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	細胞	細胞膜、細胞小器官	人体の構造と機能 1、生命と恒常性 A 細胞・組織・器官 a, 細胞の構造 C 組織  2、血液 A 血液の成分と機能 a 血液の成分	
2		細胞の活動、細胞の一生		
3	上皮組織	上皮組織の一般的な特徴		
4		上皮組織の分類、腺		
5	支持組織	結合組織		
6		軟骨組織、骨組織		
7	筋組織	骨格筋組織		
8		心筋組織、平滑筋組織		
9	神経組織	神経細胞、神経線維の構造、シナプス		
10		神経系の支持細胞、終末装置		
11	脈管系	動脈、静脈		
12		心臓		
13	血液と骨髄	血液		
14		骨髄		
15	まとめ	総括		

教科書	入門組織学、牛木辰男、南江堂
参考書	



授業科目名	生 理 学	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	看護学を学ぶ上で必要と考えられる人体の機能について習得する。
学 習 到 達 目 標	人体の基本的な機能について説明できる。
関 連 科 目	解剖学 ・
成績評価方法・基準	定期試験60%、課題20%、出席20%
準 備 学 習 の 内 容	教科書に沿って授業を進めるので授業予定範囲を読んでください。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1 2	体液	細胞内液、細胞外液、モル濃度、膠質浸透圧 酸塩基平衡、脱水、バッファー	a . 体液の電解質 b . 酸塩基平衡 c . 脱水	
3 4	血液	赤血球、ヘモグロビン、貧血 白血球、血漿、凝固、血液型	a . 心臓の構造 b . 心臓 の機能 c . 血管の構造 d . 動脈系と静脈系 e . 脈拍 f . 血圧 g . リン パの流れ h . 胎児の血液 循環 i . 血液の成分とは たらき j . 造血 k . 凝固と線溶	
5 6	免疫	細胞性免疫 液性免疫、アレルギー	a . 鼻腔の構造と機能 b . 咽頭・咽頭の構造 c . 器官・肺の構造 d . 呼吸 運動 e . 肺機能の測定 f . 声帯と発声 g . 外呼 吸と内呼吸 h . ガス分圧 i . 酸素の運搬 j . 二酸 化炭素の運搬 k . 呼吸中 枢 l . 呼吸に影響を与え る因子	
7 8 9	循環	脈拍、心音、刺激伝道系 心電図 血圧	a . 咀嚼の過程 c . 口腔 d . 咽頭の構造と機能 e . 食道の構造と機能 f . 胃の構造と機能 g . 十二 指腸、空腸・回腸の構造と 機能 h . 結腸、直腸・肛 門の構造と機能	
10 11	呼吸	肺気量、肺障害 死腔、換気、アシドーシス	a . 脾臓の構造と機能 b . 肝臓と胆嚢の構造と機 能	
12 13	代謝	三大栄養素 ATP	a . 腎臓の構造 b . 濾過 c . 再吸収、分泌 d . 尿 量の調節 e . 膀胱と尿路	
14 15	体温	熱の産生と放散 体温調節	a . ホルモンとは b . ホルモンの作用機序 c . 様々なホルモン	
16 17	消化	胃液、膵液、胆汁 腸、肝臓	a . 神経細胞の生理 b . 神経細胞と情報伝達 c . 中枢神経系を保護する組 織 d . 伝達路 e . 末梢 神経 f . 感覚器	
18 19	排泄	腎臓、糸球体、尿細管 尿、尿路		
20 21	内分泌	下垂体、甲状腺、上皮小体 副腎、膵臓、性ホルモン		
22 23	神経	ニューロン、末梢神経、自律神経 中枢神経、反射		
24 25	筋	筋収縮 骨格筋		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
26 27	感覚	皮膚感覚、深部感覚 視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚		
28 29	遺伝	細胞分裂 優性遺伝、劣性遺伝		
30	まとめ	総括		

教科書	イラストで学ぶ生理学、田中越郎、医学書院
参考書	

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	牛 島 義 雄
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	教科書、プリントなどを使用した講義
科 目 の 目 的	対象とする人間の体に関し、「根拠に基づく看護療法」を目指し、化学的視点から基本的で、かつ、臨床に役立つ基礎的知識を習得する。
学 習 到 達 目 標	生体を構成する化学物質にはどのようなものがあるかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応が理解でき、また、それらが疾病の際にどのように変化するかを説明できる。
関 連 科 目	化学、生物学、生理学、栄養学、薬理学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	学期末試験、レポートなどによる評価。
準 備 学 習 の 内 容	生き物であるヒトを対象に、その構成物質、働きを化学的に理解するので、生物学と化学の基本的知識を必要とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生体分子、細胞とエネルギー生成	生体を構成する元素・分子にはどのようなものがあるか。細胞内小器官の役割分担、ATPの生成と利用等を概説する。		
2	タンパク質の構造、機能と代謝	タンパク質を構成するアミノ酸の種類と性質。タンパク質の構造と機能について、病気との関連について例を挙げて述べる。		
3		酵素の性質と働き	酵素はどのようにして機能するのか。その特性、種類、作用機序、血清酵素の診断への利用等を説明する。	
4		糖質の性質と代謝	糖とはどのようなものか。その働きは？食事摂取不可となると何が代わりに代謝されるのか。また、糖尿病の病態、診断等について話す。	
5	脂質の存在場所、働き、代謝	脂質にはどのようなものがあるのか。それらはどこに存在し、どのような働き、どう代謝されるかを説明。		
6	エネルギー生成機序	生体ではエネルギーはどこで、どのようにして作られるのかについて解説する。		
7		ホルモンと疾患	ホルモンにはどんな物質があり、どこで作られ、どこで、どのように働くのか概説する。	
8	生体内における核酸の役割	子は親に何故似るのか。大きなDNAはどのようにして核に存在するのか。がんの正体は？遺伝病は？		
9	免疫と免疫異常	生体は細菌、ウイルスの侵襲にどう対応するか。抗体や白血球の防御機構はどんなものか説明する。		
10	活性酸素と疾患	活性酸素にはどんなものがあるのか。どこで作られ、どのようなものと反応するか。それらに対する生体の防御機構はどうか等について解説する。		
11	まとめ	まとめ		

教 科 書	第3版 マクマリー生物有機化学 生化学編 マクマリー等 監訳 菅原二三男 丸善株式会社
参 考 書	レーニンジャーの新生化学「上」、「下」第4版 山梨郁男 監修(廣川) ハーパー・生化学(原著27版) R K Murrayら著(丸善)

授 業 科 目 名	発 達 心 理 学	単 位 認 定 者	榎 本 光 邦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習（講義内にて）・事例検討
科 目 の 目 的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。
関 連 科 目	教養科目：心理学 専門基礎科目（臨床科目）：臨床心理学 専門基礎科目（地域科目）：カウンセリング 専門科目：小児看護学概論、小児看護学、小児看護学、小児看護学、母性看護学総論、精神看護学概論、精神看護学、地域看護学概論、地域看護学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（80％）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等平常点（20％）を加味して評価する。
準 備 学 習 の 内 容	前回の講義時に指示をする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解	【必修問題】 目標 .看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的な知識を問う。 7.人間の成長と発達 A.胎児期 a.形態的発達 B.新生児期・乳児期 a.発達の原則 b.身体の発育 c.運動能力の発達 d.栄養 e.親子関係 C.幼児期 a.身体の発達 b.運動機能の発達 c.排泄の自立 d.言語発達 e.社会性の発達 D.学童期 a.運動能力・体力の特徴 b.社会性の発達 E.思春期 a.二次性徴 b.アイデンティティの確立 F.成人期 a.社会的責任と役割 b.生殖機能の成熟と衰退 G.老年期 a.運動能力・体力変化 b.知覚・感覚の変化 c.認知能力の変化 d.心理社会的変化	
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について		
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について		
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子ども発達の特徴と危機の種類とその管理について		
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題、社会的発達について		
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について		
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴、性に関する問題		
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴、特に自己概念形成(自分探し)に焦点を当てて考察する		
9	青年期の精神障害(1)	対人恐怖・社会恐怖等		
10	青年期の精神障害(2)	摂食障害・スチューデントアパシー等		
11	若い大人の発達課題と危機管理	発達課題の考え方と性差における社会的役割など		
12	壮年期の発達課題と危機管理	壮年期の心理的变化の特徴、家族との関わり、仕事との関わりの変化について		
13	高齢期の発達課題と危機管理	心身の変化、死のとらえ方等		
14	生涯発達	発達心理学を人間の誕生から死までを通して総括する		
15	まとめ	まとめ		

教 科 書	「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」 岡堂哲雄編 (金子書房)
参 考 書	講義中に随時紹介する

授業科目名	疾病の成り立ち	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する学問である。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症(免疫・膠原病)、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学習到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関連科目	解剖学 解剖学 生理学
成績評価方法・基準	試験(100%)
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。	<b>【必修問題】</b> 2.病態と看護 A.症状と看護 3.主要疾患と看護 A.生活習慣病 C.外傷 E.小児疾患  <b>【疾病の成り立ちと回復の促進】</b> 目標1 1.疾病の成り立ち A.生体の反応と疾病の機序 B.生体の回復力 C.個体差と個人の反応  目標2 1.異常状態の特徴 A.細胞や組織に生じる変化 B.異常状態に影響する個体の条件 2.疾病に対する医療と看護 A.異常状態に対する診断と看護 B.異常状態に対する治療と看護 c)手術適応と外科的治療 d)放射線による治療 f)輸血 D.健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 E.人体防御機構への看護の視点 F.医療薬品等による健康被害  目標3 1.中枢神経機能の障害 A.脳機能の障害	
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。		
3	代謝異常1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。		
4	代謝異常2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。		
5	循環障害1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。		
6	循環障害2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。		
7	炎症と免疫、膠原病1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。		
8	炎症と免疫、膠原病2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。		
9	炎症と免疫、膠原病3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。		
10	腫瘍1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。		
11	腫瘍2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。		
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	病理検査	病理検査の意義・細胞診・生検組織診・手術時の迅速診断・病理解剖・病理組織・細胞診標本の作製課程・	B. 感覚機能の障害	
14	その他	必要に応じて上記を補う・	2. 生命維持機能の障害 A. 生命の危機	
15	その他	必要に応じて上記を補う・	B. 呼吸機能の障害 C. 循環機能の障害 D. 造血にかかわる諸機能の障害  3. 栄養の摂取・呼吸・代謝・排泄機能の障害 A. 食の障害 B. 消化管の機能障害 C. 肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害 D. 排泄機能の障害  4. 内部環境調節機能の障害 A. 内分泌機能障害 B. 体液の調節障害 C. 自律神経系の機能障害  5. 運動機能および皮膚の障害 A. 活動や行動を妨げる障害  6. 生命の連続性をつくりだす機能の障害 A. 生殖機能をつかさどる器官の障害	

教科書	
参考書	「系統看護学講座 専門基礎4 疾病のなりたちと回復の促進 [ 1 ]」(医学書院)

授業科目名	免疫・感染症学	単位認定者	伊豫部志津子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病原微生物と免疫の基礎を理解し、生体防御と感染症の成立、予防、治療について学習する。
学習到達目標	個々の細菌、真菌、ウイルス等の病原性を学ぶと同時に、予防の立場からは消毒法、ワクチン、予防接種を、治療の立場からは化学療法を学習する。一方免疫の基礎にのっとり、病原微生物との係わりあいから感染症が惹き起こされるしくみを知る。近年問題となっている、MRSA、VRE、O157、AIDS、BSE、新型インフルエンザ等の感染症や病院内における日和見感染症についての理解を深める。
関連科目	看護学ための生物学、疾病の成り立ち、薬理学、臨床検査学、疫学・保健統計
成績評価方法・基準	定期試験に平常点を加味して評価する。
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	感染症の機構	感染症の歴史、病原体の性状と感染症発症の機構	<b>【必須問題】</b> ・看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 1.生命活動《生理学》 A.人体の構造と機能 d)感染防御と免疫反応 3.主要疾患と看護 B.感染症 a) インフルエンザ b) 多剤耐性ブドウ球菌感染症 c) 腸管出血性大腸菌 d) ウイルス性肝炎 e) 結核 f) HIV感染症/AIDS <b>【人体の構造と機能】</b> 目標2: 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 3.生体の防御機構《生理学》 B.特異的生体防御反応(免疫系) a) 免疫系の細胞 b) 抗原 c) 液性免疫 d) 細胞性免疫 <b>【疾病の成り立ちと回復の促進】</b> 目標2: 疾病に対する医療と看護 2.疾病に対する医療と看護《疾病の成り立ち》 D.健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 a) 微生物の分布と人体 b) 微生物の種類と特徴 c) 病原微生物の感染経路	<b>【疫学・保健統計】</b> 目標: 疫学および統計学の概念と方法を理解し、これを地域診断に用い、地域保健・地域看護に役立てる基礎的な能力を問う。 6.感染症の疫学 A.感染の基礎概念 a) 顕性感染と不顕性感染 b) 混合感染 c) 再感染と二次感染 d) 日和見感染 e) 保菌者と接触者 f) 潜伏期 F.おもな感染症の頻度と分布《疫学・保健統計》 a) 新興・再興感染症(HIV感染症/AIDS, 結核を含む) b) 性感染症 c) 食中毒
2	感染症の現状	感染症の種類と現状		
3	感染と生体防御(1)	免疫の機構		
4	感染と生体防御(2)	免疫の医療へのかかわり(診断、予防、治療)		
5	感染と生体防御(3)	免疫病		
6	感染症の予防と対策	感染症の予防(消毒、ワクチン)と行政による対策		
7	細菌感染症(1)	細菌の病原性と細菌感染症		
8	細菌感染症(2)	細菌感染症の診断と治療(化学療法)		
9	細菌感染症(3)	病原細菌の種類と疾患		
10	ウイルス感染症(1)	ウイルスの病原性とウイルス感染症		
11	ウイルス感染症(2)	ウイルス感染症の診断と治療(化学療法、免疫療法)		
12	ウイルス感染症(3)	病原ウイルスの種類と疾患		
13	真菌感染症	病原真菌の種類と疾患		
14	原虫感染症	病原原虫の種類と疾患		
15	まとめ	まとめ		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			と潜伏期間 d) 病原微生物に対する化学療法と薬剤耐性菌 e) 病原微生物に対する予防処置と感染防御 E. 人体防御機構への看護の視点 a) 人体の感染防御機構と免疫反応 b) アレルギー疾患 c) 自己免疫疾患および類縁疾患 d) 臓器移植 F. 医薬品等による健康被害 a) HIV 感染症/AIDS b) ウイルス性肝炎 c) クロイツフェルト・ヤコブ病 【社会保障制度と生活者の健康】目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 2. 健康指標と予防 B. 感染症とその予防《疫学・保健統計》 a) 感染症の成立要因 b) 感染症の流行現象 c) 感染症予防の基本 d) 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症新法> e) 院内感染とその予防 h) HIV 感染症/AIDS と性感染症	

教科書	「病原体・感染・免疫」 藤本秀士、目野郁子、小島夫美子 著 (南山堂)
参考書	系統看護学講座専門基礎6 (微生物学)



授業科目名	薬理学	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1)薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2)薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用についても学ぶ。3)薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4)薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学習到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関連科目	生理学 生化学 疾病の成り立ち 小児看護学 母性看護学 老年看護学
成績評価方法・基準	試験(100%)
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。投与経路と薬の吸収、分布、代謝、排泄。	【必修問題】 4.薬物治療に伴う反応 A.おもな薬物の作用と副作用 a)抗菌薬 b)抗がん薬 c)強心薬抗不整脈薬 d)狭心症治療薬 e)降圧薬・昇圧薬 f)副腎皮質ステロイド薬 g)糖尿病治療薬 h)麻薬 B.医薬品の安全対策 a)混合の可否 b)禁忌 c)保存方法	
2	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。		
3	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬。抗痙攣薬(抗てんかん薬)。 筋弛緩薬。抗パーキンソン薬。		
4	自律神経薬。 オータコイド	自律神経の基礎知識。コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬(付:胃酸分泌抑制薬)。アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。		
5	強心薬。抗狭心症薬 と抗不整脈薬。	強心薬(ジギタリス)の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。抗狭心症薬。抗不整脈薬。		
6	利尿薬。 降圧薬。	利尿薬。利尿薬の臨床的応用。 降圧薬。抗動脈硬化薬。	【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標2 2.疾病に対する医療と看護 B.異常状態に対する治療と看護 a)おもな治療薬・麻酔薬と薬理作用 b)医薬品等の安全な使用 e)麻酔 g)麻薬 C.治療に伴う変化の観察と看護 a)与薬方法と生体の反応 b)薬物による副作用と中毒	
7	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬。駆虫薬。 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。		
8	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 開発と化学療法。副作用と組み合わせ。		
9	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。		
10	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。 呼吸器病薬。抗結核薬。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11	皮膚疾患に用いられる薬剤。	皮膚疾患に用いられる薬剤。 造影剤。放射性医薬品。		
12	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤。点眼薬。輸液	ショックの原因別分類。ショックの対応と薬剤。 点眼薬。輸液の目的。輸液剤。		
13	毒物および解毒剤 代謝賦活薬。ビタミン剤	中毒の状態。急性中毒に対する処置。解毒剤。 排泄と吸着。代謝賦活薬。ビタミン剤		
14	小児・妊婦・老年者 に対する薬物療法。 嗜好品の薬理と薬物 相互作用	小児の薬物療法。妊婦の薬物療法。老年者の薬物療法。 嗜好品の薬理。薬物相互作用。		
15	薬剤の安定性：保存 および混合の問題点。 まとめ。	薬剤の保存。薬剤の混合、配合変化（配合禁忌）。		

教科書	
参考書	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授業科目名	臨床検査学	単位認定者	小林 功
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	医療スタッフとして必要な臨床検査の基礎的知識を学習する。
学習到達目標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断及び治療を行うための臨床検査の概略を把握する。
関連科目	解剖学(人体構造) 生理学(人体機能)を含む各臨床科目
成績評価方法・基準	定期試験(筆記)80%、授業態度20%
準備学習の内容	前の回の講義時に指示をする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	臨床検査とその役割	診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる。	【社会保障制度と生活者の健康】 目標 4. 人々の健康を守るためのサービス提供期間と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。 1. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 C. 看護職と関係法規 h) 臨床検査技師, 衛生検査技師等に関する法律  【基礎看護学】 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 3. 診療に伴う技術 A. 診察・検査 c) 検査時の看護((尿・便・喀痰・血液の採取および検査, 心電図検査超音波検査, 呼吸機能検査))	
2	臨床検査の流れと医療スタッフの役割	臨床検査はどの様にして行われるか。また、医療チームの役割について解説する。		
3	一般検査	尿、便、体液の検査の説明		
4	血液検査	血沈(赤沈)、血球、出血、凝固		
5	化学検査(1)	血清タンパク、酵素、糖代謝、脂質代謝、胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等		
6	化学検査(2)			
7	免疫・血清検査(1)	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫 免疫グロブリン、アレルギー、腫瘍マーカー等		
8	免疫・血清検査(2)			
9	内分泌検査(1)	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン 副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン、性腺ホルモン、膵臓ホルモン、消化管ホルモン等		
10	内分泌検査(2)			
11	微生物検査及び病理検査	検体の取り扱い方、主な微生物の特徴と病気との関連性及び細胞診、病理組織検査		
12	生理機能検査	循環器機能、呼吸器機能、神経機能と超音波検査		
13	RCPC(1)	症例検討1 症例検討2		
14	RCPC(2)			
15	まとめ			

教科書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」大久保昭行 編(医学書院)
参考書	「最新臨床検査のABC」日本医師会編(医学書院)2007 「臨床検査提要 23判」金井正光編(金原出版)2005 「検査データの生理的変動 -原理から実践へ-」中甫訳(医歯薬出版)2004

授 業 科 目 名	緩 和 医 療 学	単 位 認 定 者	斎 藤 龍 生
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	緩和医療（ケア）とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。
学 習 到 達 目 標	緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療（ケア）が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。
関 連 科 目	生命倫理・生活学・家族学・地域社会学・解剖学 ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護学入門・臨床心理学・リハビリテーション工学基礎・栄養学・カウンセリング・社会福祉地域サービス論・看護学概論・看護過程論・看護ケア方法論・看護アセスメント演習・成人・老年看護学概論・在宅看護活動論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況、受講態度・意欲、試験・レポートを基にして総合的に評価を行う
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	緩和医療学総論	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。	【必修問題】 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 12. 主要疾患と看護 B. がん f) 緩和ケア 13. 薬物治療に伴う反応 A. おもな薬物の作用と副作用 h) 副腎皮質ステロイド k) 麻薬 l) 消炎鎮痛薬	
2	緩和医学各論	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策		
3	緩和医学各論	疼痛緩和 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく	【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標 疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う 3. 疾病に対する医療 B. 疾病の治療 b) 麻薬 c) 放射線による治療	
4	緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護	疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく		
5	緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和	他の症状マネジメントにおける看護の役割 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて	【基礎看護学】 目標 疾病に対する医療と看護 B. 異常状態に影響する治療と看護 a) おもな治療薬・麻酔薬と薬理作用 g) 麻薬	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
6	緩和ケアの実際 ・リハビリテーション ・家族ケア ・遺族ケア	緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について	<p>【在宅看護論】</p> <p>目標 .在宅における看護実践についての理解を問う。</p> <p>5.在宅療養者の状態別看護</p> <p>D.ターミナル期の療養者</p> <p>a)症状コントロール</p> <p>b)地域緩和ケアの実際</p> <p>c)看取りの看護</p> <p>d)遺族ケア</p> <p>【成人看護学】</p> <p>目標 .成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。</p> <p>8.終末期の看護</p> <p>A.終末期にある患者への援助</p> <p>a)全人的苦痛のアセスメント</p> <p>b)疼痛コントロール</p> <p>c)死の受容過程と援助</p> <p>d)QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の保障</p>	
7	緩和医療におけるチームアプローチ	緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種との役割と機能		
8	試験 レポート	もし、あなたが今、肺がんの末期と診断された場合、何をどう考えどのようにしたいですか。また、残された時間をどのように過ごしたいですか。(死生観)		

教科書	使用せず
参考書	<p>「臨床緩和ケア」大学病院の緩和ケアを考える会(青海社)</p> <p>「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝/内布敦子(ヌヴェール)</p> <p>「ターミナルケア10月増刊号わかる できる がんの症状マネジメント」ターミナルケア編集委員会(三輪書店)</p> <p>「家族看護 特集 終末期患者の家族への看護」野嶋佐由美/渡邊裕子(日本看護協会)</p> <p>「家族看護 特集 遺族に対するケア」野嶋佐由美/渡邊裕子(日本看護協会)</p> <p>「ナースのためのアロマセラピー」日本アロマセラピー学会看護研究会(MCメディカル出版)</p>

授 業 科 目 名	病 態 栄 養 学	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学医療的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から病態栄養学を中心に、代表的疾患、病態を例に挙げて（糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など）説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。
学 習 到 達 目 標	1. 基礎医学（解剖学、生理学）に基づいて栄養学の基礎を復習する。 2. 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験の点数に出席回数を加算します。
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	臨床栄養学とは	1)食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2) 栄養学の基礎の復習 3) 臨床調理の基本について簡単に紹介する	疾病の成り立ちと回復の促進 目標 . 疾病の特性についての理解を問う。 9. 栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害 A. 栄養バランスの不均衡による疾患 a. メタボリックシンドローム b. 肥満 c. 脂質異常症（高脂血症） d. 高尿酸血症と痛風 e. 必須栄養素とエネルギー不足による疾患	
2	栄養の評価法	1)臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学に関する研究について		
3	疾病と栄養（1）	<b>肥満とやせ、摂食障害について</b> 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめず症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。	必修 目標 . 看護技術の基本を問う。 17. 診療に伴う看護技術 A. 栄養補給 a. 経管栄養法 b. 経静脈栄養法	
4	疾病と栄養（2）	<b>糖尿病と栄養学</b> 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。		
5	疾病と栄養（3）	<b>糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方</b> 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する		
6	疾病と栄養（4）	<b>動脈硬化と高脂血症</b> 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	疾病と栄養(5)	<b>高血圧、循環器疾患</b> 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。		
8	疾病と栄養(6)	<b>骨粗しょう症、ミネラル摂取異常</b> 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。		
9	疾病と栄養(7)	<b>消化器疾患その1</b> 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。		
10	疾病と栄養(8)	<b>消化器疾患その2</b> 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。		
11	疾病と栄養(9)	<b>腎疾患と電解質</b> 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。		
12	疾病と栄養(10)	<b>がんと栄養</b> がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。		
13	疾病と栄養(11)	<b>1) 血液疾患、アレルギーと栄養</b> 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 <b>2) 嚥下障害について</b>		
14	疾病と栄養(12)	<b>1) 小児、高齢者の栄養</b> 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 <b>2) 栄養法の実際</b> 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。		
15	まとめ			

教科書	「エッセンシャル 臨床栄養学」佐藤和人他 著(医歯薬出版) 「糖尿病食事療法のための食品交換表」(文光堂)
参考書	「ナースのための生化学・栄養学」(南山堂)

授業科目名	臨床心理学	単位認定者	森 慶 輔
対象学年	第 2 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	選 択

指導方法	講義および実習
科目の目的	・保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す ・社会人としての常識をもつ（無断遅刻欠席をしない，提出物の期限を守る，私語を慎む，携帯電話を授業中に使わない等）
学習到達目標	臨床心理学の基礎理論，特に臨床心理検査法と心理療法について理解し，保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また，看護場面，治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す。
関連科目	すべての科目と関連（1年次後期に履修した心理学の内容を基に講義を行い，コミュニケーション（相談）実技については2年次後期に開講されるカウンセリングで扱う予定である）
成績評価方法・基準	期末試験（50%），第4回と第8回に実施予定の小テスト（それぞれ10%），課題レポート2本（30%）を総合して評価する。なお，遅刻3回を欠席1回とカウントし，欠席6回以上で期末試験受験資格を失うものとする。
準備学習の内容	事前学習として教科書の該当範囲を読んでおく（意味がわからない単語などはきちんと調べておく）。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準		
			看護師	保健師	
1	臨床心理学とは（基礎理論，正常および異常心理）	1. 臨床心理学とは？ - 定義と歴史 -			
2		2. 問題行動の意味 - 正常と異常 -			
3		3. 発達段階と心理的問題			
4	臨床心理アセスメント（臨床心理検査法）	4. 医療領域における臨床心理学的視点 - 転移・逆転移と防衛機制 -			
5		1. 心理アセスメントとは？ 1-1. 行動観察によるアセスメント 1-2. 面接法によるアセスメント 1-3. 心理検査によるアセスメント 【実習】CMI			
6		2. 知能検査によるアセスメント 2-1. ビネー式知能検査 2-2. ウェクスラー式知能検査 2-3. その他の知能検査（認知症スクリーニング検査を含む） 【実習】認知症スクリーニング検査			
7		3. 心理検査によるアセスメント(1) 【実習】内田クレペリン検査			
8		4. 心理検査によるアセスメント(2) 【実習】YG性格検査			
9		心理療法の理論と実際	1. 精神分析的な心理療法		
10			2. クライアント中心療法		
11			3. 行動療法		
12			4. 認知（行動）療法		
13			5. 家族療法，短期療法		
14	まとめ	6. グループ・アプローチ			
15		1. さまざまな領域における心理的支援の実際 2. 授業の総まとめ			

教科書	・山祐嗣・山口素子・小林知博 編著「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」北大路書房，2009年 1年次後期の「心理学」で使用したものと同一のものなので，既に持っている場合は購入の必要はありません ・「内田クレペリン検査」等の検査用紙等（代金と引き替えに授業時に配布します）
参考書	・鎌田實「言葉で治療する」朝日新聞出版，2009年 ・高橋和巳「心を知る技術」筑摩書房，1997年（文庫版は2000年）



授業科目名	公衆衛生学	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 1 学年	学期	後 期
単位数	1 単位 ( 7 . 5 コマ )	必修・選択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。
学習到達目標	1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理、環境学、健康管理論、疫学、保健統計、地域社会学、情報処理、免疫・感染症学
成績評価方法・基準	試験 100%
準備学習の内容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	公衆衛生の理解 人口と公衆衛生	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢 3 区分別人口の割合	総人口、年齢別人口、 労働人口、将来推計人口、 世帯数 出生の動向、死亡の動向、 死因の概要	疫学の目的・対象・方法、 疫学と地域保健・地域看護、 記述疫学と分析疫学、 人・場所・時間、二大要因説 と三大要因説、危険因子 と多要因原因説、相関関係 と因果関係、疫学的因果推論、 国際疾病分類、診断基準、 疫学的因果推論
2	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準	平均余命、有訴者の状況、 受療率、入院期間 公衆衛生の領域、活動の特徴、 プライマリヘルスケア、 ヘルスプロモーションの展開、 世界保健機関 (WHO) 加盟国の役割、 生態学的環境、物理化学的環境、 社会的環境、身体的・精神・ 心理的影響、健康被害と母集団、 疫学的因果関係の推定、 臨床疫学とエビデンス	リスク比、レイト比、寄与危険、 オッズ比 疫学調査における倫理、 生態学的調査、横断的調査、 症例対照調査、既往コホート調査、 コホート内症例対照調査、 前向きコホート調査、 無作為割付臨床試験
3	食と公衆衛生 国民の健康と保健統計	食中毒の発生状況、食中毒の種類 健康指標、20世紀100年の変化	国勢調査、人口静態、出生、 死亡・死因、死産、周産期死亡、 乳児死亡、平均余命、平均寿命、 健康寿命、有病率・罹患率	性比、累積罹患割合、累積死亡割合、 致命割合、罹患率、死亡率
4	同上 疫病の疫学と予防	年齢調整死亡率の意義 疫学概念、疫学調査方法、 因果関係推論、スクリーニング	感染症の成立要因、感染症の流行現象、 感染症予防の基本、感染症の予防及び 感染症の患者に対する医療に関する法律 (感染症新法)、院内感染とその予防、 予防接種法、結核予防法、 HIV 感染症/AIDS と性感染症	累積死亡割合、致命割合、罹患率、死亡率 リスク比、レイト比、寄与危険、 オッズ比 疫学調査における倫理、 生態学的調査、横断的調査、 症例対照調査、既往コホート調査、 コホート内症例対照調査、 前向きコホート調査、 無作為割付臨床試験
5	同上	感染症の疫学、新感染症予防法 結核対策、HIV 対策		妥当性と精度、選択の偏り、 情報の偏り、交絡 無作為化(割付)制限、 マッチング、層化、標準化 感受性と特異度、信頼性と 妥当性、陽性反応適中度 スクリーニングを行う要件
6	生活習慣病対策 公衆衛生活動例	がんの予防、その他生活習慣病予防 精神保健対策、介護保険制度		顕性感染と不顕性感染、 混合感染、再感染と二次感染、 日和見感染、保菌者と接触者、 潜伏期 人・場所・時間と流行、 長期間での流行の変化 病原体と病原体対策、 感染経路と感染経路対策、 感受性と感受性対策
7	同上 保健・医療行政	母子保健、老人保健、 歯科保健、難病対策 地域保健法、医療法改正の動き、 地域医療連携 社会保障制度、国民医療費		マスターテーブル 感染症の発生動向調査 新興・再興感染症、 性感染症、食中毒 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に
8	課題研究発表	指定課題による研究発表		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
				<p>関する法律、結核予防法、予防接種法、検疫法、食品衛生法、学校保健法</p> <p>頻度と分布、危険因子、一次予防と二次予防、三次予防</p> <p>母集団と標本、無作為抽出、正規分布、検定・推定に用いる分布、平均値と他の代表値、四分位数とパーセンタイル、データの範囲、分散と標準偏差、相関と回帰、クロス集計と関連の指標、度数分布、ヒストグラムと他のグラフ表示、相関図(散布図)と回帰直線、点推定と区間推定、帰無仮説と統計学的有意性、母割合に関する推定と検定、母平均値に関する推定と検定、母相関係数に関する推定と検定</p> <p>おもな健康指標、人口ピラミッド、年少人口指数、老年人口指数、老年化指数、死亡と生命表、出生と人口再生産、婚姻と離婚</p> <p>国勢調査、人口動態調査、国民生活基礎統計、患者調査、医療施設統計、学校保健統計、感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査</p> <p>コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット、データの電子化、個人情報の秘密保持、データベース、レコードリンケージ</p>

教科書	新体系看護学7 公衆衛生学 小野寺伸夫著 (株)メヂカルフレンド社 国民衛生の動向 2010/2011 版 財団法人 厚生統計協会
参考書	

授 業 科 目 名	疫 学	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。
学 習 到 達 目 標	1. 疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。 2. 感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。
関 連 科 目	生命倫理、情報処理、公衆衛生学、地域社会学、免疫・感染症学、環境学、健康管理論
成績評価方法・基準	試験 100%
準 備 学 習 の 内 容	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	疫学概念・歴史	疫学の目的、対象、方法、歴史的考察	総人口、年齢別人口、労働人口、将来推計人口、世帯数 出生の動向、死亡の動向、死因の概要 平均余命、有訴者の状況、受療率、入院期間 食事・栄養、睡眠、運動、飲酒、喫煙 健康被害と母集団、疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンス 国勢調査、人口動態、出生、死亡・死因、死産、周産期死亡、乳児死亡、平均余命、平均寿命、健康寿命、有病率・罹患率 感染症の成立要因、感染症の流行現象、感染症予防の基本、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症新法)、院内感染とその予防、予防接種法、結核予防法、HIV 感染症/AIDS と性感染症	疫学の目的・対象・方法 記述疫学と分析疫学 二大要因説と三大要因説 疫学的因果推論 相対危険度、寄与危険度 リスク比、レイト比、オッズ比 症例対照調査 コホート調査 無作為割付、マッチング 感受性、特異度 陽性反応適中率 病原体と病原体対策 感染経路と感染経路対策 感受性と感受性対策 マスターテーブル 新感染症予防法 頻度と分布 一次・二次・三次予防
2	疫学の要因	疫学の三要因、二元論の疫学		
3	健康指標、頻度と曝露	疾病頻度の指標、相対危険度、寄与危険度		
4	疫学研究方法	記述疫学と分析疫学、5WBridge		
5	疫学調査方法	後向き調査と前向き調査、疫学的因果推論		
6	疫学調査方法	バイアスと交絡、マッチング、疫学の倫理		
7	スクリーニング	感受性、特異度、陽性反応適中率		
8	感染症の疫学	感染の基礎概念、発生三要因と予防の原則		
9	同 上	わが国の感染症対策の沿革、新興再興感染症		
10	同 上	食中毒の疫学調査、細菌性食中毒		
11	同 上	防疫活動要領、予防接種、1類感染症		
12	同 上	結核の動向と対策、HIV・STDの動向と対策		
13	非感染症の疫学	悪性新生物、自殺、母子		
14	同 上	生活習慣病		
15	同 上	環境保健		

教 科 書	最新保健学講座7 疫学/保健統計 編集 丸井英二 (株)メチカルフレンド社
参 考 書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会

授 業 科 目 名	保 健 統 計	単 位 認 定 者	石 館 敬 三
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	疫学研究を支持する大切な方法論である。健康問題の解析のためにいつでも、どこでも通用する標準的な方法論である保健統計学を理解する。
学 習 到 達 目 標	健康問題の標準的な解析方法論である保健統計技法を理解する。
関 連 科 目	疫学、情報処理、公衆衛生学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 100%
準 備 学 習 の 内 容	「保健統計学」の専門用語について予め調べておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	母集団と標本調査	無作為抽出法	総人口、年齢別人口、労働人口、将来推計人口、世帯数 出生の動向、死亡の動向、死因の概要 平均余命、有訴者の状況、受療率、入院期間 食事・栄養、睡眠、運動、飲酒、喫煙 健康被害と母集団、疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンス 国勢調査、人口静態、出生、死亡・死因、死産、周産期死亡、乳児死亡、平均余命、平均寿命、健康寿命、有病率・罹患率 感染症の成立要因、感染症の流行現象、感染症予防の基本、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症新法)、院内感染とその予防、予防接種法、結核予防法、HIV 感染症/AIDS と性感染症	母集団と標本 無作為抽出 正規分布 平均値と他の代表値 四分位数とパーセンタイル 分散と標準偏差 相関と回帰 度数分布、ヒストグラム、 相関図 帰無仮説と統計学的有意性 点推定と区間推定 指定統計(国勢調査等) その他の統計(栄養調査等) コンピューターとソフトウェア データの電子化
2	図表による表示方法	度数分布、ヒストグラム		
3	代表値と散布度	平均値中央値、最頻値		
4	分散と標準偏差	偏差・分散の標準偏差、変動係数		
5	推 定	点推定と区間推定		
6	検 定	帰無仮説と統計学的検定		
7	統計学で用いられる分布	正規分布、七分布、カイ2乗分布		
8	関係の指標	相関と回帰、相関図、相関係数		
9	質的変数間の関連	クロス表とカイ2乗検定		
10	同 上	四分表の検定		
11	保健統計の歴史	保健統計の考案と基礎づくり		
12	健康指標	健康指標の算式、分類		
13	人口静態・動態統計	人口ピラミッド、出生統計、死亡統計		
14	保健統計調査	指定統計、その他の統計調査		
15	情報処理の基礎知識	パーソナルコンピュータの活用 ネットワーク、LAN、インターネット		

教 科 書	最新保健学講座7 疫学/保健統計 編集 丸井英二 (株)メヂカルフレンド社
参 考 書	国民衛生の動向 (財)厚生統計協会

授 業 科 目 名	社会福祉・社会保障制度論	単 位 認 定 者	角 田 傑
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	看護師・保健師業務を志すものにとって、関連する法規・制度を理解する。地方分権等変化する社会情勢の中で人間の生命、健康問題、生活問題を根底で支える役割の理解する。
学 習 到 達 目 標	1. 福祉行財政の仕組みを理解する。 2. 社会情勢の変化に伴う制度等の変遷を理解する。 3. 社会福祉の法律・制度・福祉援助技術を理解する。
関 連 科 目	地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 地域看護学概論 地域看護活動論 地域看護学 成人看護学概論 家族学 法学 地域社会学 経済学 精神地域看護学 公衆衛生学 保健統計
成績評価方法・基準	試験(90%)・授業への参加(10%)で評価する。
準 備 学 習 の 内 容	配布された資料から専門用語等を調べて理解しておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	社会保障・社会福祉の体系  社会保障・社会福祉の発展過程	1 社会保障・社会福祉とは何か 2 社会保障・社会福祉の改革 3 改革される社会保障・社会福祉の仕組み  1 社会保障の前史 2 社会保険の発達 3 社会保障の発展と確立 4 戦後のわが国の社会保障制度の展開	【必修問題】 ・看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 3. 保健医療制度の基本 A. 医療保険制度 a) 保険者 b) 被保険者 c) 給付の内容 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊重 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームドコンセント e) ノーマライゼーション 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 2. 社会保障の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の健康問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。 1. 社会保障の理念 A. 日本の保健医療福祉活動の基本方向 a) 理念, 憲法第 25 条 b) 人権 c) 倫理 d) ノーマライゼーション e) 情報開示 f) 地方分権 g) 医療費の増大 h) 介護保険・医療保険制度の改革 2. 社会保険制度 A. 社会保険の変遷 a) 歴史, 意義 b) 国民皆保険・皆年金 B. 医療保険制度 a) 健康保険法 b) 国民健康保険法 c) 保険給付の種類 d) 療養の給付内容 C. 介護保険制度 a) 介護保険給付の種類 b) 給付内容 c) 保険者・被保険者 D. 年金制度 a) 年金給付の種類 b) 給付内容 E. その他の社会保険制度 a) 雇用保険 b) 労働者災害補償保険法	【保健医療福祉行政論】 目的 1. 保健医療福祉行政財政の基礎的知識および、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や保健医療福祉サービスを評価し、調整するための基礎的な知識を問う。  目標 2. 地方公共団体の保健医療福祉行政施策を計画策定、実行、評価のサイクルにのせて実施するための基礎的な知識を問う。  目標 3. 公衆衛生行政の各分野における保健師の役割と地域で活動するための基礎的な知識を問う。  1 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み B 保健医療福祉の財政 c 社会保障の給付と財源、国民負担 3 保健医療福祉行政の分野と制度 A 社会保障の理念と仕組み D 社会福祉の制度 a 社会福祉の制度 b 地域福祉権利擁護、青年後見制度 【疫学・保健統計】 目標: 疫学および統計学の概念と方法を理解し、これを地域診断に用い、地域保健・地域看護に役立てる基礎的な理解を問う。  10. 保健統計調査 D 疾病・障害の定義と分類 a 国際疾病分類(ICD) b 国際生活機能分類(ICF)
2	社会保障・社会福祉の財政	1 社会保障・社会福祉の財政 2 日本における社会保障・社会福祉の財政 3 社会保障・社会福祉関係費の推移 4 社会保障・社会福祉関係費の負担		
3	所得保障一時年金制度	1 年金制度とその発展過程 2 年金制度の改革 3 年金制度の仕組みと給付		
4	介護保障	1 介護保険制定の経過とねらい 2 介護保険制度の仕組み 3 介護保険サービス事業の種類 4 介護保障の課題		
5	貧困と社会福祉	1 生活保護の制度 2 今日の低所得者層と生活保護 3 生活福祉資金貸付制度		
6	児童と母子の社会福祉	1 児童の権利保障 2 児童福祉の歴史と制度 3 母子及び寡婦の福祉		
7 8 9	障害者(児)の社会福祉	1 障害者福祉の理念と実態 2 身体障害者(児)の福祉対策 3 精神障害者の福祉 4 知的障害者の福祉 5 雇用保障と共同作業所の実施		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10 11	高齢者の社会福祉	1 高齢者福祉の理念と変遷 2 高齢者世帯の生活実態 3 老人福祉施設 4 在宅福祉対策	3. 社会福祉諸法の理念と施策 A. 社会福祉の理念と変遷 a) 社会福祉法 b) 措置から選択へ c) 受益者負担 B. 生活保護法と施策 a) 生活保護法の原則 b) 実施機関 c) 保護の実施 C. 障害者(児)への施策 a) 障害者基本法 b) 身体障害者福祉法 c) 知的障害者福祉法 d) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 D. 児童への施策 a) 児童憲章 b) 児童福祉法 c) 児童虐待防止に関する法律 E. 老人への施策 a) 老人福祉法 b) 老人保健法 F. その他の施策 a) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 DV 防止法 4. 社会福祉行政 A. 保健福祉計画 a) ゴールドプラン 21 b) 新エンゼルプラン c) 障害者プラン d) 保健福祉計画 B. 社会福祉の民間活動 a) 民生委員, 児童委員 b) 社会福祉協議会 c) ボランティア活動 d) 特定非営利活動促進法 NPO 法 C. 国, 地方公共団体の行政と組織およびマンパワー a) 福祉事務所 b) 児童相談所 c) 社会福祉施設 d) 在宅サービス機関 e) 介護支援専門員 ケアマネージャー f) 社会福祉士および介護福祉士 g) 精神保健福祉士 D. 老人保健福祉行政の展開 a) 入所措置権の市町村への委譲 b) 市町村および都道府県の老人福祉計画 c) 高齢者の生きがい対策 d) 介護予防	
12 13	社会福祉施設の現状と課題	1 社会福祉施設とその歴史 2 社会福祉施設の種類と推移 3 社会福祉施設の運営基盤 4 社会福祉施設の最低基準 5 社会福祉施設の社会化 6 社会福祉施設における処遇		
14	地域福祉とコミュニティ・ケア	1 地域福祉とコミュニティ・ケアの理解 2 社会福祉協議会 3 民生委員の福祉活動 4 在宅福祉の「供給システム」		
15	まとめ			

教科書	教科書は使用しない。講義に資料を配布する。
参考書	講義の中で紹介する。

授業科目名	地域保健行政	単位認定者	大野 絢子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	保健師の活動は、担当する地域の健康政策や施策の立案、健康問題解決のための具体的活動が求められる。活動は、各方面の関係者との調整、協力により進められる。これらの活動の基礎となる法律、制度、政策についての理解を深めることを目的とする。
学習到達目標	保健医療の行財政の基本的な知識を理解させ、地域の健康問題の解決に必要な社会資源の開発や、保健医療のサービスの調整及び評価を行なうための基本的な能力を養う。また、地方公共団体行政の保健医療計画及びサービス実施計画に必要な知識を習得させる。
関連科目	1. 社会福祉・社会保障制度論 2. 保健師教育科目のうち、公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・地域サービス論、地域看護活動論
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	保健医療福祉行政のめざすもの	1 公衆衛生の定義 2 保健医療行政のめざすものは何か	【必修問題】 ・看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 9. 主な看護活動展開の場と看護の機能、B. 保健所・市町村保健センターにおける看護活動、C. 地域・在宅での看護  【社会保障制度と生活者の健康】 ・社会保障の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。 6. 社会福祉諸法の理念と施策、C. 障害者(児)の施策 7. 社会福祉行政、D. 老人保健福祉行政の展開 ・公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 11. 保健活動、A. 地域保健、B. 母子保健、C. 学童期の健康管理、D. 生活習慣病予防、E. 難病対策、F. 職場の健康管理	【保健医療福祉行政論】 1. 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、A. 保健医療福祉の行政、B. 保健医療福祉の財政 2. 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の返還、A. 公衆衛生政策の基盤形成、B. 政策の充実と発展 3. 保健医療福祉行政の分野と制度、A. 社会保障の理念と仕組み、B. 公衆衛生行政の分野、C. 地域保健の体系、E. 医療提供体制、F. 介護保険制度 4. 保健医療福祉の計画と評価、A. 地方公共団体の保健医療福祉計画の目的と種類、B. 地方自治体の計画決定、C. 計画の推進と管理・評価
2	わが国の保健医療福祉制度の変遷	1 公衆衛生の基盤形成 2 新たな課題と政策の発展		
3	保健医療福祉行政の財政の仕組み	1 国・都道府県・市区町村の行政の仕組みと役割 2 地方公共団体の行政の単位と仕組み 3 保健医療福祉の財政		
5	同上	1 介護保険制度		
6	地域保健行政と保健師活動	1 地域保健の体系 a 地域保健活動と地方自治 b 地域保健に関する公的機関 c 保健所の役割と機能強化 d 市町村保健センターの役割		
9	同上	2 地域単位の保健師活動と連携		
10	同上	3 健康危機管理		
11	同上	4 情報公開・個人情報保護と公務員 1 医療従事者としての保健師		
12	保健医療福祉の計画と評価	1 地方公共団体の保健医療福祉計画		
13	同上	2 保健計画の策定プロセス 3 保健計画の推進と評価		
14	保健行政に関する法律	1 医療法 2 保健師・助産師・看護師法 3 看護師等の人材確保の推進に関する法律		【地域看護学】 12. 感染症保健指導・危機管理、D. 疾病管理  【疫学・保健統計】 6. 感染症の疫学、G. 感染症の関係法規

教科書	1 「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院)、2 「国民衛生の動向2010/2011」(厚生統計協会) 3 「基本医療六法 平成22年度版」(中央法規)、4 「福祉小六法 2011」(中央法規)
参考書	1 「最新保健学講座7 保健医療福祉行政論」(メヂカルフレンド社) 2 「公衆衛生看護学大系の保健福祉行政論」(日本看護協会出版会)

授 業 科 目 名	栄 養 学 ( 含 食 品 学 )	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。食品の科学的な特性を学ぶ。
関 連 科 目	解剖学 ・ 生化学 生理学 疾病の成り立ち
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験の点数に出席数を加算します。
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	栄養学の目的 1	・ 食と私たち ・ 食育の必要性	人体の構造と機能 10. 栄養摂取の機構 E. 代謝 a) 栄養所要量 b) 基礎代謝 c) 炭水化物の代謝  d) 脂肪の代謝  e) タンパク質の代謝 f) 核酸の代謝  g) ビタミン・ミネラル	
2	栄養素の種類と体内での主たる役割	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割 ・ 一日のエネルギーを求める		
3	栄養素の科学 1	・ 糖質の消化		
4	2	・ 糖質の代謝		
5	3	・ タンパク質の構造、消化、代謝		
6	4	・ 脂質の構造と種類		
7	5	・ 脂質の消化と代謝		
8	6	・ 電解質とビタミン		
9	7	・ 核酸の消化吸収代謝		
10	おいしさの科学 1	・ 嗅覚と食品		
11	2	・ 色と味		
12	3	・ 咀嚼とテクスチャー		
13	献立とは	日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算		
14	献立と病態栄養学	病気と献立、食品の選び方		
15	まとめ			

教 科 書	新体系看護学 人体の構造と機能2 栄養生化学（メジカルフレンド社） 食品成分表 2011（実教出版）
参 考 書	看護栄養学（医歯薬出版）



授業科目名	歯科保健	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護学生に必要と考えられる歯・口腔に関する知識を身に付ける。
学習到達目標	口腔の構造と機能を理解している。歯科疾患に関して基本的な知識を持っている。
関連科目	成人看護学、母性看護学、老年看護学
成績評価方法・基準	定期試験 60%、課題 20%、出席 20%
準備学習の内容	授業は教科書に沿って行うので授業予定範囲は読んでくること。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準		
			看護師	保健師	
1	歯、歯周組織	歯、歯周組織の構造と機能			
2	その他の口腔組織	口唇、頬、口蓋、舌、唾液腺			
3	歯科疾患	歯の異常と疾患			
4		歯周組織の疾患			
5		う蝕に継発する疾患			
6		口腔粘膜の疾患			
7		口腔領域ののう胞			
8		口腔領域の腫瘍、腫瘍類似疾患			
9		口腔領域の悪性腫瘍			
10		顎骨の外傷			
11		口腔領域の先天異常、発育異常			
12		顎関節の疾患			
13		唾液腺の疾患			
14		神経疾患			
15		まとめ	総括		

教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学「15」歯・口腔、小島愛子ほか 医学書院
参考書	

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験 80%、授業態度・出欠状況 20%
準 備 学 習 の 内 容	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1		リハビリテーションの定義、理念、歴史		
2		障害論		
3		障害者の心理		
4		リハビリテーションの構成		
5		医学的リハビリテーション		
6		チーム医療とリハビリテーション医療の進め方		
7		地域リハビリテーション		
8		まとめ		

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）

授業科目名	救急法	単位認定者	北林司
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義・演習
科目の目的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・異物による気道閉塞のような生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDによる除細動などの一連の救命処置(BLS)が実践できることを目的とし、在学中にアメリカ心臓協会(AHA)のBLSHCPライセンス取得を目指す。
学習到達目標	1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害、心血管系障害、脳血管系障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. 一次救命処置(BLS)について説明できる。 4. 気道異物(FBAO)の治療手順を説明できる。 5. AEDを含む一次救命処置(BLS)が実践できる。
関連科目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・基礎看護学・成人看護学・災害看護
成績評価方法・基準	筆記試験50%、実技試験50%
準備学習の内容	呼吸器・循環器・脳に関する解剖・生理について復習しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	わが国の救命医療体制	わが国救命医療体制を理解する。 救急医療従事者(EMS)について理解する。	必修問題 。看護に必要な人体の機能および健康障害と回復についての基礎知識を問う。	人体の構造と機能および心身の発達
2	一次救命処置(BLS)	一次救命処置、二次救命処置の区分を理解する。 救命の連鎖について理解する。	1. 生命活動 A. 人体の構造と機能 e. 循環器 f. 呼吸器 g. 神経細胞と情報伝達	1. 解剖学 D. 神経系 a. 中枢神経系 b. 末梢神経系 E. 脈管系 a. 心臓 b. 動脈系 c. 静脈系 F. 内臓諸器官 b. 呼吸器系 G. 感覚器系 a. 中枢神経系
3	呼吸器系、心血管系、脳血管系の解剖と生理学	呼吸器系の解剖・生理を理解する。 心血管系の解剖・生理を理解する。 脳血管系の解剖・生理を理解する。	C. 人間の死 a. 死の三徴候 b. 脳死	2. 生理学 C. 筋生理 a. 刺激と興奮 b. 筋の収縮 D. 神経生理 a. 興奮と伝導 c. 中枢神経 d. 末梢神経 F. 呼吸生理 G. 血液、循環 H. 嚥下、消化、呼吸
4	急性冠症候群(ACS)について	急性冠症候群(ACS)を理解する。 急性心筋梗塞(AMI)の症状を理解する。 胸部不快感を訴える人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。	2. 病態と看護 A. 症状と看護 e. チアノーゼ f. 呼吸困難 g. 胸痛 h. 不整脈 i. 血圧上昇、低下 r. ショック	2. 生理学 C. 筋生理 a. 刺激と興奮 b. 筋の収縮 D. 神経生理 a. 興奮と伝導 c. 中枢神経 d. 末梢神経 F. 呼吸生理 G. 血液、循環 H. 嚥下、消化、呼吸
5	急性脳血管障害について	一過性脳虚血発作(TIA)について理解する。 虚血性脳血管障害について理解する。 出血性脳血管障害について理解する。 急性脳血管障害の可能性のある人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。	3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 b. 虚血性心疾患 c. 高血圧症 d. 脳血管疾患 C. 外傷 a. 骨折 c. 外傷性ショック	F. 呼吸生理 G. 血液、循環 H. 嚥下、消化、呼吸 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進
6	成人に対するCPR	反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解する。 気道確保の方法を理解する。 呼吸の有無を確認する方法を理解する。 人工呼吸の方法を理解する。	人体の構造と機能 目標 1. 日常生活を営む上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかについての理解を問う。	1. 病理学概論 D. 循環障害 3. 臨床医学大要(概論) A. 一般臨床医学 a. 問診、身体所見、記録 h. 救急、組成、ICU、CCU i. 外科(腹部、心血管、胸部)疾患 j. 脳神経外科(外傷、血管、腫瘍)疾患 h. 生活習慣病
7	成人に対するCPR	循環の有無を確認する方法を理解する。 胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解する。 人工呼吸と心臓マッサージを組み合わせた方法を理解する。	疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。	B. 内科学 a. 症候学と病態生理 b. 診断学 f. 呼吸器疾患 g. 循環器疾患
8	成人に対するCPR	早期除細動の重要性を理解する。 AEDの目的を理解する。 AEDの使用方法を理解する。	4. 循環系 A. 心臓 a. 心臓と心筋の構造	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
9	成人の異物による気道閉塞（FBAO）について	AEDから「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。  成人の異物による気道閉塞の原因を理解する。反応のある成人のFBAOに対する治療手順を理解できる。 反応のない成人のFBAOに対する治療手順を理解する。	b.心臓の機能 c.刺激伝導系 9.呼吸の機構 A.換気と発生 c.気管、肺の構造と機能 d.呼吸運動 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。	D.整形外科学 c.整形外科的症候と診断 e.保存的治療 o.外傷と骨折 p.脊髄・脊椎疾患および損傷 E.臨床神経学 a.脳・神経の構造と生理 b.脳・神経の病態生理 f.脳血管障害 g.外傷性脳損傷
10	CPR演習	成人に対する的確なCPRが実践できる。 成人のFBAOに対する的確な治療が実践できる。	1.中枢神経機能の障害 A.脳機能の障害 a.脳血管系の循環障害 b.頭蓋内圧亢進を伴う疾患 2.生命維持機能の障害 A.生命の危機 a.ショック B.呼吸機能の障害 d.急性および慢性の呼吸不全 C.循環機能の障害 b.後天的に心機能の障害を引き起こす疾患 c.心筋の酸素欠乏による新機能の障害 d.新機能の低下をきたした状態 e.心臓のリズムの障害	4.リハビリテーション医学 B.機能障害の病態生理と回復 b.骨関節損傷 f.脊髄の障害 h.呼吸機能 i.心機能 E.リハビリテーション医学の臨床 a.脳血管障害 b.外傷性脳損傷 c.脊髄損傷 l.呼吸器疾患 m.循環器疾患
11	CPR演習	成人に対する的確なCPRが実践できる。 成人のFBAOに対する的確な治療が実践できる。		
12	CPR演習	成人に対する的確なCPRが実践できる。 成人のFBAOに対する的確な治療が実践できる。		
13	CPR演習	成人に対する的確なCPRが実践できる。 成人のFBAOに対する的確な治療が実践できる。		
14	CPRおよびFBAOに対する活動の筆記試験	一連のCPR、FBAOに対する活動の内容を説明できる。	基礎看護学 目標 2.基本的看護技術についての理解を問う。 3.診療に伴う技術 D.生命の危機にかかわる技術 a.生命徴候のアセスメントと援助方法 b.呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 c.循環管理 d.保温 E.災害看護 a.トリアージ	
15	CPRおよびFBAOに対する活動の実技試験	一連のCPR、FBAOに対する的確な活動が実践できる。	成人看護学 目標 3.成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2.急激な身体侵襲により急性期にある成人の看護 A.救急救命時の看護 a.緊急性と原因のアセスメント b.心配蘇生法 e.外傷、熱傷、骨折の応急処置 f.危機状態への精神的支援 目標 4.機能障害を持つ成人の看護実践について問う。 1.呼吸機能障害を持つ患者の看護 B.おもな看護 g.呼吸困難時の安楽な体位 2.循環機能障害を持つ成人の看護 A.観察とアセスメント d.障害の原因と程度 7.認知機能・コミュニケーション障害を持つ患者の看護 A.観察とアセスメント a.意識障害の診察法	

教科書	使用しない
参考書	ポケットマスク購入要

授 業 科 目 名	健 康 管 理 論	単 位 認 定 者	下 村 洋 之 助
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	21世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりを見せており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。国家試験に役立つ基礎的知識を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを理解する。保健師活動の理解。看護国家試験に役立つ、疾病の基礎理解を深める事の出来る様指導する。
関 連 科 目	地域社会学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、公衆衛生学、疾病の成り立ち、健康スポーツ理論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 80%と授業態度 20%で評価
準 備 学 習 の 内 容	将来の医療人として幅広い知識を修得するよう、新聞・雑誌等参考にしておく

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康とは	健康の定義、健康観、予防医学	主に成人看護学、老年看護学、精神看護学理解に役立つ、基礎的知識を講義し、広範囲の看護学の理解に役立つ授業内容に努める。	特に企業内の保健師活動の現状を講義し、国家試験の対応にも役立つ内容の講義を行う。
2	健康の指標	人口、出生、婚姻、死亡、寿命など		
3	健康増進	WHOの定義、わが国の現状		
4	生活習慣(1)	栄養・食生活		
5	生活習慣(2)	運動、休養、飲酒など		
6	疾病予防(1)	生活習慣病、がん		
7	疾病予防(2)	循環器疾患、代謝疾患		
8	疾病予防(3)	骨・関節疾患、歯科口腔疾患		
9	疾病予防(4)	感染症		
10	疾病予防(5)	精神疾患(統合失調症、うつ病)		
11	健康管理(1)	健康教育、集団検診など		
12	健康管理(2)	健康管理の実際		
13	健康情報(1)	健康情報		
14	健康情報(2)	保健医療情報システム		
15	まとめ	健康管理論まとめ		

教 科 書	「学生のための健康管理学」 木村康一 熊澤幸子 近藤陽一 著(南山堂)
参 考 書	「シンプル公衆衛生学」 鈴木庄亮 著(南江堂)

授業科目名	カウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	実習および講義
科 目 の 目 的	・保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得を目指す ・社会人としての常識をもつ(無断遅刻欠席をしない,提出物の期限を守る,私語を慎む,携帯電話を授業中に使わない等)
学 習 到 達 目 標	1年次後期の心理学,2年次前期の臨床心理学をベースに,実際に医療機関や福祉施設などで治療・看護・介護等に従事する際に必要な治療的対人コミュニケーションの知識や技術を習得することが目標である(2年次前期の臨床心理学を履修していることが望ましい。未履修者は臨床心理学の概説書を読んでから受講されたい)。
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート2本(あわせて60%),授業への参加態度(40%)を総合して評価する。なお,第1回の講義時に本講義のガイダンスを行うので,第1回の講義に出席していない学生の履修は認めない。また,ロールプレイやグループワークなどの実習を行う予定のため,意欲的に取り組まないと単位取得は難しい。なお,遅刻3回を欠席1回とカウントし,欠席3回以上で単位取得資格を失うものとする。
準 備 学 習 の 内 容	特別な予習は必要ないが,実際の看護場面等(実習でも構わない)で治療を円滑に進めるためのコミュニケーションとはどのようなものであるかを常に考えておくこと。授業後には授業内容の要約をしておくこと(最終的にレポートとして提出することになる)。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	・ カウンセリングとは	1. ガイダンス 2. 保健医療領域におけるコミュニケーション 治療促進的なコミュニケーションとは 自分の「クセ」を見つける【エゴグラムの実施】		
2 3	・ 発達段階とカウンセリング	1. 子どもとカウンセリング - 障がいを中心に - 先天的な障がいと中途障がい 知的障がい・肢体不自由・発達障がい 2. 大人とカウンセリング - 精神疾患を中心に - 代表的な精神疾患の概要 精神疾患の治療・リハビリテーション		
4		3. 家族支援の考え方 慢性疾患・精神疾患患者の家族支援 福祉・教育の基礎知識		
5 6 7	・ 保健医療に生かす カウンセリング技法の習得	1. カウンセリングの方法と基本技法(1)【含実習】 2. カウンセリングの方法と基本技法(2)【含実習】 3. 自己理解と他者理解【MBTIの実施】		
8	まとめ	まとめ		

教 科 書	「MBTI®質問紙(FORM M 手採点版)」JPP Inc. 一般書店では入手不可のため、授業時に代金と引き替えに配布
参 考 書	福山清蔵「独習 実践カウンセリング・ワークブック」日本精神・技術研究所,1999年 町田いづみ「24の臨床シーンでわかるコミュニケーションの上手な方法」照林社,2006年

授 業 科 目 名	社会福祉・地域サービス論	単 位 認 定 者	金 谷 春 代
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	福祉制度が存在する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。
関 連 科 目	地域社会学 社会福祉・社会保障制度論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	福祉の捉え方	福祉とは何か	【社会保障制度と生活者の健康】 目標 2. 社会保障制の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。 3. 社会福祉諸法の理念と施策 A. 社会福祉の理念と変換 4. 社会福祉行政 B. 社会福祉の民間活動 C. 国、地方公共団体の行政と組織およびマンパワー	【保健福祉行政論】 目標 1. 目標 2. 目標 3. 3. 地域保健医療福祉行政と保健師活動 C. 社会保障・社会福祉の制度 F. 介護保険制度
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について		
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について		
4	地域福祉の内容と展開			
5	サービスの実際	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する		
6	サービスの実際			
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて		
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。		
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。		
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方		
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」		
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。		
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。		
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的		
15	まとめ			

教 科 書	
参 考 書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授業科目名	看護学入門	単位認定者	城生弘美
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護学の入門編として、まず日常生活の中で遭遇する健康障害を例にあげ、どのような根拠に基づき症状緩和の方法を取るか考察することにより、看護学への関心を深める。また、看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについての考察を行う。さらに看護の歴史について概観する。
学習到達目標	1. 看護とは何かについて、多角的に学習し自己の考えを深める。 2. 健康とは何かについて、身近な経験を通して自己の考えを深める。 3. 保健・医療・福祉システムの中における看護職の職業に関する理解を深める。
関連科目	看護学概論、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる
成績評価方法・基準	出席状況と課題レポートの内容により評価 ・ 出席5%と課題レポート95%とする
準備学習の内容	ナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を読むこと 講義で該当するページを事前に読む(詳細はガイダンス時に説明する)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4 5	「看護」について	「看護職とは」を以下の側面から考える ・ 専門職とは ・ 実践科学とは ・ 教育制度の変遷 ・ 現在の看護組織 ・ 看護実践のための基準 ・ 看護に対する評価 ・ 歴史と今後の課題	基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念 A. 看護の本質(概念) a. ケアとケアリング d. 役割と機能 e. 対象者とその理解 f. 看護の変遷(ナイチンゲール、我が国の職業看護と教育制度) B. 人間と健康 a. 全体としての人間 b. 歴史的・関係的存在としての人間 c. 成長発達する存在・ライフサイクルと健康のかかわり d. 健康の諸定義、主観的健康と客観的健康 e. 健康の諸相 f. 健康への影響要因 C. 生活と健康 a. 基本的ニーズとその充足 b. 生活習慣とセルフケア c. 文化的規範と学習 d. 基本的ニーズと健康とのかかわり e. 生活の安全と環境 f. QOL g. 健康への影響要因	
6 7 8	保健・医療・福祉システムについて	「保健・医療・福祉システムとは」を以下の側面から考える ・ 保健・医療・福祉の概念とは ・ 保健・医療・福祉サービスの場について ・ 保健・医療・福祉チームとは ・ 保健・医療・福祉におけるケア提供と経済の動向と課題  課題レポート 1. 日常的に遭遇する看護ケアについて考える またそのケアの根拠について考える (例: 発熱、嘔吐、下痢、便秘、骨折、擦り傷、切り傷、痛み、等) 2. ナイチンゲールの代表作「看護覚え書き」を読み、解釈・考察し、看護学の原典について思考を深める。	基礎看護学 目標 6. 看護の役割と機能を支える仕組み A. 看護活動の場と専門分化 b. 医療施設における看護活動 c. 保健福祉施設における看護活動 d. チーム医療における看護職の役割・活動 e. 看護職の各種資格と活動(認定看護師、専門看護師の活動を含む) C. 保健医療福祉の連携 a. 他職種との連携 b. 他職種との連携 c. チームアプローチの概念 E. 看護制度、看護行政 a. 看護制度の変遷 b. 看護教育制度の変遷 c. 看護行政の組織 d. 看護にかかわる診療報酬 e. 看護職員の確保 f. 看護職員の労働環境	

教科書	フロレンス・ナイチンゲール著「看護覚え書き」(日本看護協会出版会) 「看護学概論」川村佐和子他 編集(メディカ出版)
参考書	随時紹介する。



授業科目名	看護学概論	単位認定者	真砂涼子
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護学入門の学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、制度の変化、法律改正、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。同時に医療・看護の受け手である人間に関する理解を深め、看護の役割と機能について考える。
学習到達目標	1. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面等を学び、社会における看護の役割を考察する 2. 看護の対象である人間に関する洞察を深める 3. 看護実践のための理論的根拠を学び、看護の本質を考える 4. 看護援助の基本的役割について学習する
関連科目	看護学入門を踏まえており、全ての専門科目の基礎となる
成績評価方法・基準	出席状況と筆記試験を総合して評価・ 講義に関する意見5%と筆記試験95%とする
準備学習の内容	教科書の該当ページを読んでおく(詳細はガイダンス時に指示する)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護への導入	・国際看護と災害時の看護の基礎	<b>必修問題 目標</b> 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基本的知識を問う 5. 関係法規 A. 保健師助産師看護師法 a. 保健師助産師看護師の業務 b. 看護師に禁止されている業務 c. 守秘義務 d. 業務従事者届 B. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 a. 基本的方針 b. 養成制度 c. 就業状況 <b>社会保障制度と生活者の健康</b> <b>目標</b> 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う 12. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割 A. 保健師助産師看護師法 a. 目的・定義 b. 免許 c. 業務 d. 守秘義務 B. 医療関係法規 a. 医療法 b. 医師法 C. 医療サービスの供給体制 a. 医療施設の機能 b. 救急医療の充実 c. 診療記録・情報公開 d. 薬局の種類と機能 j. 医療過誤 D. 看護職員の確保・労働と関係法規 a. 労働基準法 b. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法> c. 看護師等の人材確保の促進に関する法律  <b>必修問題 目標</b> 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基本的知識を問う 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a. 個人の尊厳 b. 患者の権利 c. 自己決定権と患者の意思 d. インフォームド・コンセント e. ノンマニピュレーション f. 情報管理(個人情報管理) B. 看護倫理 a. 看護職員の役割 b. 看護の倫理綱領 c. 倫理的葛藤と倫理調整 <b>基礎看護学</b> <b>目標</b> 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う D. 看護倫理 a. 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳 b. 医療の倫理原則 c. 患者の権利 d. 患者の尊厳、権利の擁護と看護の役割 e. 専門職と倫理 f. 倫理綱領 g. 安全確保と抑制・拘束 h. インフォームド・コンセントと自己決定、代理意志決定 i. プライバシー保護と個人情報保護 j. 終	
2	看護職を取り巻く法的側面	看護職の職務の機能と役割について以下の側面から学習する。 ・法の概念 ・保健師助産師看護師法について ・主な関連法規について ・医療事故における法的責任について ・看護実践に影響する法律について		
3	看護職を取り巻く倫理的側面	看護職に必要な倫理的側面について以下の側面から学習する。 ・看護倫理とは ・看護における倫理の必要性 ・倫理的課題への対応 ・道徳的ジレンマとは		
4	看護の対象について	看護の対象である「人間」に対するの洞察を深めるために、以下の側面から学習する。 ・統合体としての人間について ・個人・家族・コミュニティ・地域社会とは ・健康障害をもつ対象の理解について ・ライフサイクルと健康について		
5	看護実践のための理論的根拠について	看護実践のための理論的根拠について以下の側面から学習する。 ・看護理論とは ・看護理論の分類 ・看護理論の変遷について ・看護理論家と主な内容について		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7 8	看護援助の基本的役割について	<p>看護援助を実践する際に必要な基本的事項について、以下の側面から学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションについて</li> <li>・ 教育者およびカウンセラーとしての役割について</li> <li>・ 根拠に基づく援助の重要性について</li> <li>・ 看護過程を展開することについて</li> <li>・ 基本的看護技術について</li> <li>・ 看護援助のマネジメントの基本事項について</li> </ul>	<p>末期と看取りにおける患者・家族の意向確認と尊重</p> <p><b>必修問題</b> 目標 看護の対象者および看護活動の場に関する基本的知識を問う 6. 人間の特性 A. 人間と欲求 a. 基本的欲求 b. 社会的欲求 B. 患者の特性 a. QOL b. 患者ニーズ c. 健康に対する意識 d. 疾病に対する意識 e. 疾病・障害の受容過程 8. 患者と家族 A. 家族の機能 a. 家族関係 b. 家族構成員 B. 家族形態の変化 a. 家族の多様性 b. 構成員の変化 c. 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響</p> <p><b>基礎看護学</b> 目標 . 看護の基本となる概念についての理解を問う 1. 看護の基本となる概念 A. 看護の本質 a. ケアトケアリング b. 看護理論(ニード論、相互作用/人間関係論) c. 看護実践における理論知と実践知</p> <p><b>必修問題</b> 目標 看護の対象者および看護活動の場に関する基本的知識を問う 9. 主な看護活動展開の場と看護の機能 A. 医療提供施設 a. 病院 b. 診療所 c. 助産所 d. 介護老人保健施設 D. 看護管理 a. 看護体制 b. 看護チーム E. 関連職種との連携 a. 関連する職種 b. チーム医療 c. 看護の役割</p> <p>目標 看護技術の基本を問う 14. 基本技術 A. コミュニケーション a. 言語的コミュニケーション b. 非言語的コミュニケーション c. 面接技法</p> <p><b>基礎看護学</b> 目標 看護の基本となる概念についての理解を問う 2. 看護の展開 A. 信頼関係の構築 a. 援助的人間関係 b. 共感、傾聴 c. 患者・利用者・家族との協同 d. 目標の共有 C. 看護実践過程 a. 根拠に基づいた看護&lt;EBN&gt;の概念 b. クリティカルシンキング 目標 基本的看護技術についての理解を問う 3. 共通基本技術 A. コミュニケーションの技術 a. コミュニケーションの構造・種類 F. 安全管理の技術 e. インシデント、医療事故、医療過誤の概念と内容 f. インシデントレポート、医療事故報告の目的と活用</p> <p>目標 . 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う 6. 看護の役割と機能を支える仕組み A. 看護活動の場と専門分化 b. 医療施設における看護活動 c. 保健福祉施設における看護活動 d. チーム医療における看護職の役割・活動 e. 看護職の各種資格と活動(認定看護師、専門看護師の活動を含む) B. 継続看護 a. 施設内における継続 b. 施設間継続 d. 経時的変化に対する継続看護 E. 看護制度、看護行政 a. 看護制度の変遷 b. 看護教育制度の変遷 c. 看護行政の組織 d. 看護にかかわる診療報酬 e. 看護職員の確保 f. 看護職員の労働環境</p>	
教	科	書	「看護学概論」川村佐和子他(メディカ出版)	
参	考	書	なし	

授業科目名	看護援助学	単位認定者	馬 醫 世 志 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	対象者と看護師の援助的人間関係の基本を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメント技術を理解し、日常生活援助技術の根拠を理解する。
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. フィジカルアセスメントの意義と対象者の状態を理解するためのフィジカルアセスメント技術の基本を学習する。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠に基づいて理解する。
関連科目	関連する教養科目 - 心理学、環境学 関連する専門基礎科目 - 解剖学、解剖学、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目 - 看護学入門、看護学概論
成績評価方法・基準	定期試験（80%）、課題（20%）および講義参加状況
準備学習の内容	1. 該当単元の教科書を事前に読んで理解する 2. 事前課題の実施

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	対象者に適した看護援助	対象者に適した看護援助について、看護援助の本質および看護援助における人間関係の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの意義と看護師の役割を学ぶ。	基礎看護学 目標 .2. 看護の展開 A. 信頼関係の構築 a 援助的人間関係 目標 .3. 共通基本技術 D. 観察技術 a ヘルシアセスメントの基礎知識	
	衛生的手洗い	看護援助の基本となる衛生的手洗いについて学ぶ。	必修 目標 .16. 患者の安全・安楽を守る技術 C. 院内感染防止対策 a スタンダードプリコーション b 手洗いの方法	
	環境整備	看護援助の基本となる環境整備について学ぶ	基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 E. 感染予防の技術 a スタンダードプリコーション b. 感染症予防 c. 手洗い 消毒	
			必修 目標 .16. 患者の安全・安楽を守る技術 A. 療養環境 a. ベッド b. 病室環境	
2	生活環境	人間にとっての環境を理解し、健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。	基礎看護学 目標 .4. 基本的日常生活援助技術 A. 環境を整える技術	
3			必修 目標 .2. 健康と生活 C. 生活環境 a. 水・空気・土壌 c. 住環境・社会環境	
			目標 .15. 日常生活援助技術 E. ボディメカニクス 16. 患者の安全・安楽を守る技術 A. 療養環境	
			基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 G. 安楽確保の技術 a. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 4. 基本的日常生活援助技術 A. 環境を整える技術	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
4 5 6	フィジカルアセスメント	呼吸器系、循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。	必修 目標 .11. 病態と看護 A. 症状と看護 目標 .14. 基本技術 B. フィジカルアセスメント a. バイタルサインの測定と評価 b. 意識レベルの評価 c. 呼吸器聴取の方法と評価 d. 腸聴加音聴取の方法と評価 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 D. 観察技術	
	コミュニケーション	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴について学ぶ。	必修 目標 .14. 基本技術 A. コミュニケーション 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 A. コミュニケーションの技術	
	電法	フィジカルアセスメントで得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(電法)について学ぶ	必修 目標 .17. 診療に伴う看護技術 E. 電法 基礎看護学 目標 .5. 診療に伴う技術 A. 呼吸・循環を整える技術 g. 温電法 冷電法 h. 保温・体調管理	
7	活動と休息	活動と休息に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の活動と休息に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。	必修 目標 .2. 健康と生活 A. 生活行動・習慣 b. 睡眠 c. 運動 目標 .15. 日常生活援助技術 D. 活動・休息 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 G. 安楽確保の技術 4. 基本的日常生活援助技術 D. 活動・休息の援助技術	
8 9	食生活と栄養	食生活と栄養に関する基本的知識とその意義を学ぶ。対象者の食事に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。	必修 目標 .2. 健康と生活 A. 生活行動・習慣 a. 食事・栄養 目標 .15. 日常生活援助技術 A. 食事 17. 診療に伴う看護技術 A. 栄養補給 基礎看護学 目標 .4. 基本的日常生活援助技術 B. 食生活の援助技術	
10	清潔保持と衣生活	清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。	必修 目標 .15. 日常生活援助技術 C. 清潔 基礎看護学 目標 .4. 基本的日常生活援助技術 E. 清潔・衣生活の援助技術	
11 12	排泄	排泄に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の排泄に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。	必修 目標 .15. 日常生活援助技術 B. 排泄 基礎看護学 目標 .4. 基本的日常生活援助技術 C. 排泄の援助技術	
13	感染予防	医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。	必修 目標 .16. 患者の安全・安楽を守る技術 C. 院内感染防止対策 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 E. 感染予防の技術	
14	安全・安楽	対象者の安全・安楽の重要性と医療者が対象者の安全と安楽を確保する方法について学ぶ。	必修 目標 .16. 患者の安全・安楽を守る技術 B. 医療安全対策 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 F. 安全管理の技術 G. 安楽確保の技術	
15	まとめ	看護援助学 についてのまとめを行う。		

教科書	志自岐康子他(編)『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 基礎看護技術』メディカ出版. 松尾ミヨ子他(編)『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学 ヘルシアセスメント』メディカ出版.
参考書	村上美好(監修)『写真でわかる基礎看護技術 看護技術を基礎から理解!』インターメディカ. 村上美好(監修)『写真でわかる基礎看護技術 日常の看護技術を深めるために』インターメディカ.

授業科目名	看護援助学	単位認定者	真砂涼子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの知識・技術を踏まえ、診療に伴う援助技術の根拠を理解する。
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. 対象者の状態を理解し、対象者のニーズに対応するためのフィジカルアセスメント技術の活用を学習する。 3. 診療に伴う援助技術について、根拠に基づいて理解する。
関連科目	関連する教養科目 - 心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目 - 主に解剖学、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目 - 看護学入門、看護学概論、看護援助学、看護援助学演習、その他各看護学総論
成績評価方法・基準	出席状況、レポートおよび定期試験・定期試験95%、課題と出席状況を含め5%とする
準備学習の内容	該当単元の教科書を事前に読んで理解することと事前課題の宿題を実施すること

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	診療に伴う援助技術とは 看護記録・報告について	診療に伴う援助技術について、看護師の役割と他職種との連携の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの活用について学ぶ。看護援助の実施および評価に伴う記録・報告について学ぶ。	必修 目標 看護技術の基本を問う 14.基本技術 B.フィジカルアセスメント D.看護記録 基礎看護学 目標 基本的看護技術についての理解を問う 3.共通基本技術 B.教育指導の技術 C.看護過程展開の技術 e.看護記録の意義 必要性と種類 F.報告の必要性と方法	
3 4 5	検査・処置時の援助技術について	検査(検体検査、生体検査)の概要を学ぶ。検査時の看護師の役割について学ぶ。 検体検査での検体の取り扱いおよび検査時の対象者への対応について学ぶ。 生体検査の種類および検査時の対象者への対応について学ぶ。 処置の概要を学ぶ。処置時の看護師の役割について学ぶ。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 D.採血、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 E.生体機能管理技術 目標 5.診療に伴う技術 B.創傷管理技術 D.救急救命処置技術	
6	呼吸を楽にする技術について	呼吸を楽にする技術(吸引・吸入、姿勢・呼吸法)について、具体的援助方法について学ぶ。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 F.呼吸管理 G.吸引、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術	
7 8 9 10	フィジカルアセスメントについて 電法について	フィジカルアセスメントで得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(電法)について学ぶ。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 E.電法、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術 g.温電法、冷電法	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11 12	創傷管理技術について	創傷管理における具体的援助方法について学ぶ。	必修 目標 17. 診療に伴う看護技術 I. 皮膚・創傷の管理 b. 創傷の管理 c. 褥瘡の予防・処置、基礎看護学 目標 5. 診療に伴う技術 B. 創傷管理技術	
13 14	与薬に伴う看護技術について	薬剤の生体への影響と薬剤の種類と取り扱いについて学ぶ。 薬剤管理における看護師の役割と具体的取扱い方法を学ぶ。 薬剤投与の方法について理解する。内服による薬剤投与時の援助技術を学ぶ。 注射(筋肉内注射・皮下注射・皮内注射)に伴う援助技術について学ぶ。 輸液による薬剤投与の管理方法(静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ)について学ぶ。	必修 目標 17. 診療に伴う看護技術 B. 薬物療法 C. 輸液管理、基礎看護学 目標 5. 診療に伴う技術 C. 与薬の技術	
15	まとめ	診療に伴う援助技術についてのまとめを行う。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他 (メディカ出版) 「ヘルスアセスメント」川村佐和子他 (メディカ出版)
参考書	「写真でわかる基礎看護技術 1」村上美好 (インターメディカ) 「写真でわかる基礎看護技術 2」村上美好 (インターメディカ) 「写真でわかる臨床看護技術」村上美好 (インターメディカ)

授業科目名	看護援助学演習	単位認定者	馬 醫 世 志 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	演習
科目の目的	看護援助学 における学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助技術に必要な看護援助の基本的技術を習得する。
学習到達目標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 日常生活を援助する基本的技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。
関連科目	関連する教養科目 - 心理学、環境学 関連する専門基礎科目 - 解剖学、解剖学、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目 - 看護学入門、看護学概論、看護援助学
成績評価方法・基準	実技試験(50%)、課題(50%)および演習参加状況
準備学習の内容	1. 看護援助学 での学習内容の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	衛生的手洗い	衛生的手洗いの方法を習得する。	必修 目標 .16 患者の安全・安楽を守る技術 C. 院内感染防止対策 a. スタンダードプリコーション b. 手洗いの方法	
	環境整備	看護援助の基本となる環境整備について学ぶ	基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 E. 感染予防の技術 a. スタンダードプリコーション b. 感染症予防 c. 手洗い、消毒	
3 4 5 6	生活環境	健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。 環境測定を実施し、環境調整について学ぶ。 ボディメカニクスの原理を体現する。 ベッドメイキングの方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。	必修 目標 .16 患者の安全・安楽を守る技術 A. 療養環境 a. ベッド b. 病室環境 基礎看護学 目標 .4. 基本的日常生活援助技術 A. 環境を整える技術	
7 8 9 10 11 12	フィジカルアセスメント	生命の徴候(バイタルサイン)を正確に測定する方法を習得する。 呼吸器系、循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる方法を習得する。	必修 目標 .2 健康と生活 C. 生活環境 a. 水・空気・土壌 c. 住環境・社会環境 目標 .15. 日常生活援助技術 E. ボディメカニクス 16. 患者の安全・安楽を守る技術 A. 療養環境 a. ベッド b. 病室環境 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 G. 安楽確保の技術 a. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 4. 基本的日常生活援助技術 A. 環境を整える技術 a. 環境の調整 b. 病末の整備	
			必修 目標 .11. 病態と看護 A. 症状と看護 目標 .14. 基本技術 B. フィジカルアセスメント a. バイタルサインの測定と評価 b. 意識レベルの評価 c. 呼吸器聴取の方法と評価 d. 腸聴が聴取の方法と評価 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 D. 観察技術	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13 14	コミュニケーション  電法	看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴について学ぶ。  フィジカルアセスメントで得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(電法)について学ぶ	必修 目標 .14. 基本技術 A. コミュニケーション 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 A. コミュニケーションの技術 必修 目標 .17. 診療に伴う看護技術 E. 電法 基礎看護学 目標 .5. 診療に伴う技術 A. 呼吸・循環を整える技術 g. 温電法 冷電法 h. 保温・体調管理	
15 16	活動と休息  実技試験	様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換方法を習得する。 ベッドから車椅子・移送車への移動方法について習得する。  バイタルサイン測定と聴診についての実技試験実施。	必修 目標 .15. 日常生活援助技術 D. 活動・休息 E. ボディメカニクス 16. 患者の安全・安楽を守る技術 B. 医療安全対策 a. 転倒・転落の防止 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 F. 安全管理の技術 c. 転倒・転落の起こりやすい状況と対策 G. 安楽確保の技術 4. 基本的日常生活援助技術 D. 活動・休息の援助技術 b. 体位変換 c. 床上移動 d. 車椅子への移動・移送 e. ストレッチャーへの移動・移送	
17 18	食生活と栄養	食事の援助方法を習得する。 健康状態に応じた栄養法を習得する。 口腔ケアの援助方法を習得する。	必修 目標 .2. 健康と生活 A. 生活行動・習慣 a. 食事・栄養 目標 .15. 日常生活援助技術 A. 食事 16. 患者の安全・安楽を守る技術 B. 医療安全対策 d. 誤嚥・窒息の防止 17. 診療に伴う看護技術 A. 栄養補給 基礎看護学 目標 .4. 基本的日常生活援助技術 B. 食生活の援助技術	
19 20 21 22	清潔保持と衣生活	全身清拭、手浴、足浴、寝衣交換の方法を習得する。 洗髪の方法を習得する。	必修 目標 .15. 日常生活援助技術 C. 清潔 b. 清拭 d. 洗髪 e. 部分浴 g. 整容 h. 寝衣交換 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 G. 安楽確保の技術 c. 身体ケアを通じてもたらされる安楽 4. 基本的日常生活援助技術 E. 清潔・衣生活の援助技術	
23 24	排泄	床上排泄(便器・尿器使用)の援助方法を習得する。 浣腸法を習得する。	必修 目標 .15. 日常生活援助技術 B. 排泄 a. 床上排泄 c. 浣腸 d. 摘便 C. 清潔 陰部洗浄 基礎看護学 目標 .4. 基本的日常生活援助技術 C. 排泄の援助技術	
25 26	感染予防	基本的な無菌操作(滅菌手袋の扱い、滅菌物の扱い)を習得する。 導尿法(一時的導尿法、持続的導尿法)について習得する。	必修 目標 .15. 日常生活援助技術 B. 排泄 b. 導尿 16. 患者の安全・安楽を守る技術 C. 院内感染防止対策 基礎看護学 目標 .3. 共通基本技術 E. 感染予防の技術	
27 28 29 30	実技試験 まとめ	日常生活援助技術についての実技試験実施。 看護援助学演習 を振り返り、臨床での応用を考える。		

教科書	志自岐康子他(編)『ナースング・グラフィカ 基礎看護学 基礎看護技術』メディカ出版。 松尾ミヨ子他(編)『ナースング・グラフィカ 基礎看護学 ヘルスアセスメント』メディカ出版。 村上美好(監修)『写真でわかる基礎看護技術 看護技術を基礎から理解!』インターメディカ。 村上美好(監修)『写真でわかる基礎看護技術 日常の看護技術を深めるために』インターメディカ。
参考書	なし



授業科目名	看護援助学演習	単位認定者	真砂涼子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義と演習
科目の目的	看護援助学演習を踏まえ、対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の基本的技術を習得する。
学習到達目標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を適切に実施できる。 2. 診療に伴う基本的な援助技術について、その根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。
関連科目	関連する教養科目 - 心理学、生命倫理、家族学、環境学 関連する専門基礎科目 - 主に解剖学、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学 関連する専門科目 - 看護学入門、看護学概論、看護援助学、看護援助学演習、看護援助学、その他各看護学総論
成績評価方法・基準	出席状況 筆記試験および実技試験 ・ 実技試験 75%、課題の実施状況と出席状況 25%
準備学習の内容	看護援助学での学習を復習することと事前課題の宿題を実施すること

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4	フィジカルアセスメントについて	対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術の看護援助への活用について理解する。	必修 目標 .看護技術の基本を問う 14.基本技術 C.看護過程 a.情報収集 b.アセスメント c.計画立案、基礎看護学 目標 .基本的看護技術についての理解を問う 3.共通基本技術 D.観察技術 c.一般状態のアセスメントと評価	
5	生体検査について	生体検査時の看護師の役割について理解し、援助方法について習得する。 ・ 呼吸機能を測定する器具(スパイロメーター、経皮的動脈血酸素飽和度)について理解し、扱い方を習得する。 ・ 心電図の原理を理解する。	基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術 b.酸素吸入の適応と方法 c.経皮的動脈血酸素飽和度<SpO2>の測定 E.生体機能管理技術 c.生体検査 f.ME 機器の取り扱いとモニタリング	
6	検体検査について	検体検査時の看護師の役割について理解し、援助方法について習得する。 ・ 検体(血液、尿)の採取方法と取り扱いについて理解する。 ・ 生体検査時の対象者への対応について理解する。	必修 目標 16.患者の安全・安楽を守る技術 C.院内感染防止対策 e.針刺し・切創の防止 17.診療に伴う看護技術 D.採血 a.穿刺部位 b.採血方法、基礎看護学 目標 3.共通基本技術 E.感染予防の技術 f.針刺し事故防止 5.診療に伴う技術 E.生体機能管理技術 a.診察・検査時の看護師の役割 b.検体検査と尿、便、喀痰、血液の採取方法	
7 8 9	実技試験(1)	対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術についての実技試験を実施する。		
10	呼吸を楽にする技術について	吸引についての方法を習得する。 酸素吸入、ネブライザー、体位ドレナージについての方法を習得する。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 F.呼吸管理 a.酸素吸入時の原則 b.酸素ポンペの取り扱い c.酸素流量計の取り扱い d.鼻腔カニューラ e.酸	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11 12	創傷管理技術について	創傷管理について理解し、褥瘡の予防・処置、ドレッシング・包帯についての方法を習得する。	素マスク f.ネブライザー G.吸引 a.口腔・鼻腔吸引 c.体位ドレナージ、基礎看護学 目標 3. 共通基本技術 F.安全管理の技術 d.チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 G.安楽確保の技術 d.安楽を保つための医療環境の調整 15.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術 a.呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 b.酸素吸入の適応と方法 d.口腔内・鼻腔内・気管内吸引 f.排痰法	
13 14 15 16	実技試験(2)	静脈採血についての実技テストを実施する。	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 E.電法 a.電法の種類と適応 b.温電法の方法 c.冷電法の方法、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 A.呼吸・循環を整える技術 g.温電法、冷電法 h.保温・体温管理	
17 18 19 20 21 22	与薬の技術	薬剤の与薬方法について理解し、基本的な技術について習得する。 ・ 与薬方法(経口・注射・塗布・点眼・点鼻・吸入・経直腸) ・ 注射方法(筋肉内注射・皮下注射・皮内注射) ・ 輸液管理方法(静脈内注射、輸液ポンプ、シリンジポンプ)	必修 目標 17.診療に伴う看護技術 I.皮膚・創傷の管理 a.包帯法 b.創傷の管理 c.褥瘡の予防・処置、基礎看護学 目標 5.診療に伴う技術 B.創傷管理技術 b褥瘡の予防、処置、c.ドレッシング・包帯法	
23 24 25 26	実技試験(3)	皮下注射法についての実技テストを実施する。	必修 目標 16.患者の安全・安楽を守る技術 B.医療安全対策 b.誤薬の防止 c.患者誤認の防止 C.院内感染防止対策 e.針刺し・切創の防止 17.診療に伴う看護技術 B.薬物療法 a.与薬方法 b.薬効・副作用(有害事象)の観察 C.輸液管理 a.刺入部位の観察 b.輸液ポンプの取り扱い c.点滴静脈注射の管理、基礎看護学 目標 3.共通基本技術 E.感染予防の技術 f.針刺し事故防止 F.安全管理の技術 a.安全管理対策 b.誤与薬の起こりやすい状況と対策 d.チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策 G.安楽確保の技術 d.安楽を保つための医療環境の調整 5.診療に伴う技術 C.与薬の技術 a.薬剤の作用・投与量・投与方法による生体への影響、起こりやすい合併症、生活への影響 b.薬剤の種類と取り扱い方法 c.与薬法 d.副作用の徴候の観察	
27 28 29 30	まとめ	提示された課題に基づき、まとめを行う。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他 (メディカ出版) 「ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他 (メディカ出版) 「写真でわかる臨床看護技術」村上美好 (インターメディカ) 「写真でわかる基礎看護技術 1」村上美好 (インターメディカ)
参考書	「写真でわかる基礎看護技術 2」村上美好 (インターメディカ)

授業科目名	看護過程論	単位認定者	馬 醫 世 志 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 ( 3 0 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および演習
科 目 の 目 的	情報収集、アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価の構成要素からなる看護過程について学び、対象者の状況に合わせて看護援助を行うための基礎的能力を身につける。複数の紙上事例を用いて、看護過程展開について学習する。臨床実習で受け持つ対象者の看護援助時に、看護援助計画立案までの過程を考察できるよう、基本的な学習を行う。
学 習 到 達 目 標	1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義を述べることができる。 2. 紙上事例の情報の整理を行い、得られた事実に関するアセスメント（解釈・判断）ができる。 3. 紙上事例のアセスメント結果から、適切な看護診断を優先順位を考えながら導き出すことができる。 4. 紙上事例の患者目標を設定し、目標達成の時期を考えることができる。 5. 看護計画の立案、修正、評価方法が理解できる。
関 連 科 目	専門基礎科目群：解剖学、生理学、薬理学、疾病の成り立ち、臨床検査学、 専門科目群：看護学概論、看護援助学、看護援助学演習 以上の科目と密接な関連がある。
成績評価方法・基準	定期試験 40%、個人ワーク成果 40%、グループワーク成果 20%および講義・演習参加状況
準 備 学 習 の 内 容	グループワークの際は、円滑に効果的にグループワークが進むよう、自己課題を済ませて臨む

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	看護過程	看護過程を学習する意義と看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。問題解決法、クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。	必修 目標 .14. 基本技術 C. 看護過程 D. 看護記録 基礎看護学 目標 .2. 看護の展開 目標 .3. 共通基本技術 C. 看護過程展開の技術	
2	情報収集	患者の情報をどのように収集し、どのように記録するかについて学ぶ。		
3				
4	情報の整理と解釈	収集した情報を整理し、根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ。		
5				
6				
7				
8	看護問題の抽出と看護診断	看護問題の抽出方法、看護診断について学ぶ。		
9	看護計画の立案	看護計画の立案方法と記載方法について学ぶ。立案した計画を実施する際の注意事項や評価の視点について学習し、理解する。		
10	経過記録	様々な経過記録の概要について学び、SOAP 記録の具体的な記載方法を知る。		
11	看護計画の修正と評価	SOAP 記録と看護計画の連動性について知り、立案した看護計画の修正と評価について学ぶ。		
12	看護過程展開の練習	問題の抽出と優先順位の決定、患者目標と看護計画、SOAP 記録と看護計画修正を中心に、事例を用いて看護過程の展開の練習を行う。		
13				
14				
15	まとめ	看護過程論（前期）についてのまとめを行う。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
16	カンファレンス	効果的なグループワーク、カンファレンスについて学び、今後の学習方法について検討する。		
17 18 19 20 21	看護過程の展開 (実習受持ち事例)	実習受持ち事例について、アセスメントから看護計画立案までと SOAP 記録の見直しを行い、看護援助の再評価を行う。(グループワーク)		
22 23 24 25 26	看護過程の展開 (事例 A)	事例 A について、既に学習したことを踏まえて、対象者のニーズに合わせた看護計画を立案し、評価する。(個人ワーク)		
27 28	看護計画立案 (事例 B)	事例 B について、まず個人ワークを行い、既に学習したことを踏まえて、対象者のニーズに合わせた看護計画を立案する。次にグループワークを行い、個人で立案した看護計画の検討を行う。		
29	看護過程論の復習	事例 A、事例 B を通して看護過程の展開を復習する。		
30	総合評価	看護過程論についてのまとめを行う。		

教科書	Carpenito-Moyet, L. J. 『看護診断ハンドブック』第9版(新道幸恵監訳). 医学書院. 江川隆子(編) 『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』第3版. ヌーヴェルヒロカワ. 神田清子(編) 『看護データブック』第3版. 医学書院.
参考書	Carpenito-Moyet, L. J. 『カルペニート 看護過程・看護診断入門 概念マップと看護計画の作成』(藤崎郁他訳). 医学書院 江川隆子(編) 『これなら使える看護診断 厳選 84NANDA- 看護診断ラベル』医学書院. 吉澤理(編) 『NC ブックス 関連図の書き方をマスターしよう 改訂・増補版』医学芸術社.

授業科目名	成人看護学総論	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、成人期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。
学習到達目標	1. ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解する。 2. 成人期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 成人期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4. 成人期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。
関連科目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成績評価方法・基準	定期試験70%,レポート(補足)30%
準備学習の内容	特になし

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	成人看護学の概要 成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握	必修問題 目標：看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。	
2	成人各期の特徴と保健問題	青年期の特徴と保健問題、 壮年期の問題と保健問題、向老期の問題と保健問題	7.人間の成長と発達 目標：看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。	
3	成人保健1 生活習慣病の予防1	生活習慣病対策：糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満 糖尿病を中心に 患者の体験 患者を生きる	10.生命活動	
4	成人保健2 生活習慣病2	がんの動向、がん対策、システム がん対策基本法 がん患者の体験	成人看護学 目標：成人の生活と健康についての理解を問う。	
5	成人保健3	成人保健と性、成人保健と労働	1.成人の特徴 2.成人 特有な健康問題の特徴	
6	環境と健康問題	環境と健康問題		
7	成人期にある人の健康障害と看護	成人期にある人の健康障害と看護：病とともに生きる 人々を支える看護	目標：成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。	
8	まとめ	まとめ	3.成人の特性や能力に応じたアプローチ 4.健康の保持・増進、疾病の予防に向けたアプローチ	
			目標：成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。	
			6.生涯への適応と社会復帰への看護 整	
			7.慢性的な経過をたどる健康障害への看護	
			8.終末期の看護	

教科書	「新体系看護学14 成人看護学概論・成人保健」野口美和子編集(メヂカルフレンド社) 「国民衛生の動向 厚生指標 2010/2011年版」(厚生統計協会)
参考書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液・造血器疾患、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100%
準 備 学 習 の 内 容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	栗田昌裕 概論 1	主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な消化器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療 主な神経系疾患の病態生理、症状、検査、治療	必修問題 目標 .看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 10.生命活動 11.病態と看護 12.主要疾患と看護 13.薬物治療に伴う反応  疾病の成り立ちと回復の促進 目標 .疾病の特性について理解を問う。 4.神経機能の障害 5.呼吸機能の障害 6.循環機能の障害 7.造血機能の障害 9.栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害	
2	概論 2			
3	消化器疾患 1			
4	消化器疾患 2			
5	消化器疾患 3			
6	呼吸器疾患 1			
7	呼吸器疾患 2			
8	呼吸器疾患 3			
9	循環器疾患 1			
10	循環器疾患 2			
11	循環器疾患 3			
12	血液・造血器疾患			
13	神経系疾患 1			
14	神経系疾患 2			
15	まとめ			

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】 - 【15】(医学書院)
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。
関 連 科 目	基礎看護学・解剖学・生理学・老年看護学
成績評価方法・基準	筆記試験 100%
準 備 学 習 の 内 容	生化学、生理学、解剖学の復習をしておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	小林 功 血液疾患	主な血液疾患の病態生理、症状、検査、治療	<b>必修問題</b> .看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 .看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 .看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 .看護技術の基礎的知識を問う。 <b>疾病の成り立ちと回復の促進</b> 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 <b>成人看護学</b> 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。 目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。	
2	栄養代謝障害 1	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療		
3	栄養代謝障害 2	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療		
4	栄養代謝障害 3	主な栄養・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療		
5	内分泌疾患	主な内分泌疾患の病態生理、症状、検査、治療		
6	腎疾患 1	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療		
7	腎疾患 2	主な腎疾患の病態生理、症状、検査、治療		
8	感染症	主な感染症疾患の病態生理、症状、検査、治療		
9	アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患	主なアレルギー・免疫疾患、膠原病と類似疾患の病態生理、症状、検査、治療		
10	泌尿器疾患	主な泌尿器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
11	女性生殖器疾患	主な女性生殖器疾患の病態生理、症状、検査、治療		
12	眼疾患	主な眼疾患の病態生理、症状、検査、治療		
13	耳鼻咽喉疾患	主な耳鼻咽喉疾患の病態生理、症状、検査、治療		
14	皮膚疾患・歯・口腔疾患	主な皮膚・歯・口腔疾患の病態生理、症状、検査、治療		
15	まとめ			

教 科 書	系統看護学講座【2】 - 【15】 医学書院 「周手術期看護論」 雄西 智恵美、秋元 典子 編集 ニューヴェルヒロカワ
参 考 書	随時紹介する

授業科目名	成人看護学	単位認定者	牛込三和子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学習到達目標	1. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関連科目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目
成績評価方法・基準	筆記試験 100%
準備学習の内容	事前に指定教科書を読んでおくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3	牛込三和子 臨床看護総論1 臨床看護総論2 臨床看護総論3	成人看護を学ぶにあたって 病期と看護(急性期、回復期、慢性期) 検査・治療と看護	必修問題 目標 :看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 12.主要疾患と看護	
4 5 6 7	酒井美絵子 消化器疾患患者の看護1 同2 同3 まとめ1	観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護1 主な疾患と看護2	成人看護学 目標 .成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。  5.急激な身体損傷により急性期にある患者の看護	
8 9 10 11	鈴木珠水 呼吸器疾患患者の看護1 同2 同3 まとめ2	観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護1 肺癌 主な疾患と看護2 慢性呼吸不全 気管支喘息	9.呼吸機能障害のある患者の看護  10.循環機能障害のある患者の看護	
12 13 14 15	(未定) 循環器疾患患者の看護1 同2 同3 まとめ3	観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護1 主な疾患と看護2	11.栄養摂取・代謝障害のある患者の看護	

教科書	系統看護学講座 成人看護学【2】・【3】・【5】(医学書院)
参考書	随時紹介する。



授 業 科 目 名	成 人 看 護 学	単 位 認 定 者	鈴 木 珠 水
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	血液造血器疾患、神経系疾患、膠原病、糖尿病、腎泌尿器疾患、運動器疾患、感覚器疾患をもつ人々の看護について基礎知識を習得し、看護方法を理解できる。
関 連 科 目	ここまでに履修したすべての専門科目。とくに、成人・老年看護学概論、成人看護学
成績評価方法・基準	筆記試験 100%
準 備 学 習 の 内 容	事前に指定教科書を読んでおくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	牛込三和子 神経系疾患患者の看護 1	1. 観察とアセスメント	目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 3. 栄養摂取・代謝疾患をもつ成人への看護 H. 糖代謝障害の観察とアセスメント I. 糖代謝障害のおもな看護 4. 内部環境調節機能障害をもつ成人への看護 A. 内分泌機能の観察とアセスメント B. 内分泌機能障害の看護 C. 体液調節機能の観察とアセスメント D. 体液不均衡の看護 E. 体温調節機能の観察とアセスメント F. 体温調節機能障害への看護 5. 生体防御機能障害をもつ成人への看護 A. 免疫機能の観察とアセスメント B. 免疫機能低下の看護 C. 感染症の観察とアセスメント D. 感染症の看護 6. 感覚機能障害をもつ成人への看護 A. 観察とアセスメント B. おもな看護 8. 運動機能障害をもつ成人への看護 A. 観察とアセスメント B. おもな看護 9. 排泄機能障害をもつ成人への看護 A. 排尿機能障害の観察とアセスメント B. 排尿機能障害へのおもな看護	
2	神経系疾患患者の看護 2	2. 主な検査・治療と看護		
3	神経系疾患患者の看護 3	3. 症状・障害と看護		
4	膠原病患者の看護	4. 主な疾患患者の看護 脳血管疾患 5. 主な疾患患者の看護 神経系難病		
5	鈴木珠水 糖尿病患者の看護 1	1. 観察とアセスメント		
6	糖尿病患者の看護 2	2. 主な検査・治療と看護		
7	糖尿病患者の看護 3	3. 症状に対する看護 4. 主な疾患患者の看護		
8	腎泌尿器系疾患患者の看護 1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状に対する看護 4. 主な疾患患者の看護		
9	腎泌尿器系疾患患者の看護 2	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査、治療と看護 3. 症状・障害と看護 4. 自己管理支援の看護 (患者教育)		
10	萩原英子 血液・造血管疾患患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状に対する看護 4. 慢性腎不全患者の看護 血液透析 CAPD		
11	運動器疾患患者の看護 1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状・障害に対する看護 4. 主な疾患患者の看護		
12	運動器疾患患者の看護 2	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状・障害に対する看護 4. 主な疾患患者の看護		
13	がん患者の看護	1. 治療と看護 2. 終末期にある患者の看護		
14	及川洋 感覚器疾患患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査・治療と看護 3. 症状・障害に対する看護 4. 主な疾患患者の看護		
15	まとめ			

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】 - 【15】 医学書院
参 考 書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学	単 位 認 定 者	酒 井 美 絵 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	周手術期看護の考え方を理解するとともに、手術を受ける患者の心理、術後の身体反応、想定される看護問題および共同問題、看護活動に関する理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1.周手術期看護の考え方が理解できる。 2.周手術期にある患者の心理・特徴と看護援助が理解できる。 3.周手術期における看護問題が理解できる。 4.周手術期における術後合併症と予防のための看護技術が理解できる。 5.術式による特徴的な看護が理解できる。 6.術中・術後の身体反応と回復過程が理解できる。
関 連 科 目	解剖学、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人・老年看護学概論、成人看護学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100%
準 備 学 習 の 内 容	事前に指定教科書を読んでおくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	周手術期看護総論 1 (酒井美絵子)	(酒井, 鈴木, 萩原, 及川で担当) 周手術期看護の考え方	成人看護学 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護 B. 手術療法時の看護 C. 化学療法・放射線療法時の看護 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護 1. 呼吸機能障害をもつ成人への看護 2. 循環機能障害をもつ成人への看護 3. 栄養・代謝機能障害をもつ成人への看護 6. 感覚機能障害をもつ成人への看護 7. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ成人への看護	
2	周手術期看護総論 2 (酒井美絵子)	周手術期にある人の特徴と理解		
3	術前・術中看護 (小池菜穂子)	手術に向けた準備、手術室看護		
4	術後看護 1 (及川洋)	術後合併症と予防のための看護技術 1		
5	術後看護 2 (及川洋)	術後合併症と予防のための看護技術 2		
6	周手術期看護各論 1 (鈴木珠水)	開胸術(肺)を受ける人の看護		
7	周手術期看護各論 2 (鈴木珠水)	開腹術(泌尿器)を受ける人の看護		
8	周手術期看護各論 3 (鈴木珠水)	開腹術(泌尿器)を受ける人の看護, まとめ		
9	周手術期看護各論 4 (萩原英子)	運動器の手術を受ける人の看護		
10	周手術期看護各論 5 (萩原英子)	女性生殖器の手術を受ける人の看護		
11	周手術期看護各論 6 (及川洋)	頸部の手術を受ける人の看護		
12	周手術期看護各論 7 (小池菜穂子)	開胸術(心臓)、頭部の手術を受ける人の看護		
13	周手術期看護各論 8 (酒井美絵子)	開腹術(消化器・胃)を受ける人の看護		
14	周手術期看護各論 9 (酒井美絵子)	開腹術(消化器・腸)を受ける人の看護		
15	まとめ	まとめ		

教 科 書	「周手術期看護論」 雄西 智恵美、秋元 典子 編集 ニューヴェルヒロカワ
参 考 書	系統看護学講座 【2】 - 【15】 医学書院

授業科目名	成人看護学演習	単位認定者	鈴木 珠 水
対象学年	第 3 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 1 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	事例を用いた看護過程展開演習・看護技術演習
科目の目的	1.2 年次に学習した看護過程の知識に基づき、健康問題を有する成人の事例を用いて、自身の看護過程展開能力を強化する。 2. 実習に必要な基礎的な看護技術を強化する。
学習到達目標	1. 与えられた情報についてアセスメントできる。 2. 介入計画を具体的に提案することができる。 3. 創部処置、ストマケアの方法を理解し実践できる。 4. 呼吸管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 5. 循環管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 6. 栄養管理の方法が理解できる。
関連科目	基礎看護学・解剖学・生理学・疾病の成り立ち、成人看護学
成績評価方法・基準	定期試験 30%、提出物得点 30%、出席点 20%、平常点 20%
準備学習の内容	看護過程演習では事前に配布された事例を読み、課題を行うこと。 技術演習では、その日行う技術に関する配布資料を事前学習しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護過程演習 1	(牛込, 酒井, 鈴木, 萩原, 小池で担当) 看護過程の展開について 看護問題・看護目標の抽出 看護記録の書き方 糖尿病の事例を使った看護展開 疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。(胃がん・肺がん) 疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。(膀胱がん・白血病) <b>グループ発表と討論</b> 循環管理；12 誘導心電図、患者監視装置 輸液ポンプ・シリンジポンプ 呼吸管理 1；気管内吸引、低圧持続吸引、NIPPV、HOT、ネブライザー 栄養管理：ストーマケア、血糖測定、CV 管理	必修問題 ・看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 ・看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 ・看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 ・看護技術の基礎的知識を問う。	
2	看護過程演習 2		人体の構造と機能 目標 1. 日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。	
3	看護過程演習 3		疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。	
4	看護過程演習 4		疾病の成り立ちと回復の促進	
5	看護過程演習 5		目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。	
6	看護過程演習 6		目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病をもたらす身体内部の変化についての理解を問う。	
7	看護技術演習 1		目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。	
8	看護技術演習 2			
9	看護技術演習 3			
10	看護技術演習 4			
11	看護技術演習 5			
12	看護技術演習 6			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13	看護技術演習 7	(牛込, 酒井, 鈴木, 萩原, 小池で担当) } <b>各看護技術の確認</b> (呼吸, 循環, 栄養)	<b>基礎看護学</b> 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。 <b>成人看護学</b> 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。 目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 <b>老年看護学</b> 目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。 目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。	
14	看護技術演習 8			
15	看護技術演習 9			

教科書	系統看護学講座 成人看護学【2】 - 【15】 医学書院 ビジュアル 臨床看護技術ガイド 照林社
参考書	看護診断ハンドブック 第8版 医学書院, カルベニート 看護過程・看護診断入門 概念マップと看護計画の作成 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護実習ガイド ・ 照林社

授業科目名	老年看護学総論	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・体験実習
科目の目的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。
学習到達目標	1. ライフサイクルにおける老年期の特性を理解する。 2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。 4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。
関連科目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成績評価方法・基準	期末試験(60%)、ミニテスト(20%)、体験実習レポート(10%)、出席状況(10%)
準備学習の内容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト(5点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	ライフサイクルの中の老年期	老いるということ、ライフサイクルにおける老年期	ライフサイクルからの老年期の理解	地域看護学 目標:生涯にわたる各段階(発達段階)、健康レベルに応じた個人・家族及び小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。 また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的な理解を問う。
2	高齢社会と高齢者の生活	統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし	人口学的指標からの老年期の理解、健康指標からの老年期の理解、	8. 高齢者保健指導 B 高齢者の生活と保健指導 a 高齢者の特徴、健康寿命、健康問題アセスメント、保健指導
3	加齢とからだ、こころ	加齢による身体的変化、心理・社会的変化	加齢に伴う変化、高齢者にとっての健康	
4	老化疑似体験	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解		
5	高齢者のライフヒストリー	実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解	生活の視点からの老年期の理解、老年期の発達と成熟、高齢者の多様性	
6	高齢者の健康を支援する制度・システム	高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護	高齢者と家族、高齢者と社会システム、高齢者とQOL、老年看護における倫理的課題	
7	老年看護の役割	老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割	老年看護活動の特性、高齢者の保健医療福祉の関連施設における看護	
8	まとめ			

教科書	「系統看護学講座・専門分野・老年看護学」北川公子(医学書院)
参考書	国民衛生の動向

授業科目名	老年看護学	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。
学習到達目標	1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を理解する。 2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を理解する。 3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を理解する。 4. 高齢者における、手術、薬物療法、リハビリテーションの特徴と看護を理解する。
関連科目	解剖学、生理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、リハビリテーション概論
成績評価方法・基準	期末試験(50%)、ミニテスト(30%)、レポート(10%)、出席状況(10%)
準備学習の内容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト(5点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	高齢者の生理的特徴	老化と寿命、身体機能の加齢変化(認知・知覚、呼吸・循環、代謝・排泄、免疫、運動、性機能)	睡眠障害、視覚障害、聴覚障害	
2	高齢者の症候	不眠、難聴、視力障害		
3	高齢者の症候	廃用症候群、便秘・下痢、脱水症	廃用症候群、便秘・下痢、脱水症、	
4	高齢者の疾患	認知症	認知症	
5	高齢者の疾患	精神・神経疾患(せん妄、うつ病)	せん妄、うつ病	
6	高齢者の疾患	精神・神経疾患(脳血管障害、パーキンソン病)	パーキンソン症候群、廃用症候群	
7	高齢者の疾患	循環器疾患(虚血性心疾患、心不全)		
8	高齢者の疾患	呼吸器疾患(肺炎、閉塞性肺疾患、結核)	感染症	
9	高齢者の疾患	腎・泌尿器疾患(腎不全、前立腺肥大症)	尿失禁	
10	高齢者の疾患	運動器疾患(大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆)	骨粗鬆症	
11	高齢者の疾患	皮膚・感覚器疾患(皮膚掻痒症、疥癬、白内障)	掻痒症、視覚障害、感染症	
12	高齢者の疾患	感染症(インフルエンザ、食中毒)	感染症	
13	高齢者と治療	高齢者と薬物療法	薬物療法	
14	高齢者と治療	高齢者と手術療法、高齢者とリハビリテーション	手術療法、せん妄	
15	まとめ		リハビリテーション、受療形態に応じた高齢者への看護	

教科書	「系統看護学講座・専門分野・老年看護学」北川公子(医学書院) 「系統看護学講座・専門分野・老年看護 病態・疾患論」佐々木英忠(医学書院)
参考書	

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	高齢者の健康の維持・増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方と看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 高齢者の健康の維持・増進のための支援・教育の内容と方法を理解する。 2. 老年期に特徴的な看護問題のアセスメントと援助方法、事故、救急問題への対応方法を理解する。 3. 高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割と看取りの看護について理解する。 4. 高齢者の特徴に応じたアセスメント方法の理解と、具体的な展開技術を理解する。 5. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学、基礎看護学、成人看護学
成績評価方法・基準	期末試験(50%)、ミニテスト(30%)、レポート(10%)、出席状況(10%)
準 備 学 習 の 内 容	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容のミニテスト(5点満点)を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康の維持・増進活動	食生活、排泄、清潔	食生活、排泄、清潔・衣生活	地域看護学 目標：生涯にわたる各段階（発達段階）健康レベルに応じた個人・家族及び小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的な理解を問う。
2	健康の維持・増進活動	歩行・移動、活動と休息	歩行・移動、活動と休息	8. 高齢者保健指導
3	健康の維持・増進活動	生きがいと社会活動、メンタルヘルス、セクシャリティ	コミュニケーション、性、社会参加	C 在宅高齢者と家族への保健指導
4	老年期の看護問題	基本動作 - 転倒	転倒	b 要支援・要介護高齢者
5	老年期の看護問題	食事 - 摂食・嚥下障害	摂食・嚥下障害、低栄養状態	c 認知症高齢者
6	老年期の看護問題	排泄 - 排尿障害、排便障害	尿失禁、便秘・下痢	d ターミナルケア
7	老年期の看護問題	清潔 - 褥そう、ドライスキン	掻痒症	
8	老年期の看護問題	認知機能 - 認知症	認知症	
9	老年期の看護問題	事故予防と救急時の対応、介護家族の健康	転倒、摂食・嚥下障害、介護家族の生活と健康、介護家族への看護、介護家族の課題	
10	エンドオブライフケア	終末期にある高齢者と家族死後の処置（演習）	高齢者の死にかかわる権利と医療・ケア提供者の責務・役割、看取りを終えた家族への看護	
11			終末期看護の実践	
12	高齢者のアセスメント技術	健康歴の聴取、認知機能	高齢者の生活機能と包括的アセスメント、コミュニケーション	
13	高齢者のアセスメント技術	身体機能		
14	高齢者のアセスメント技術	フィジカルアセスメント（演習）		
15	まとめ			

教 科 書	「系統看護学講座・専門分野 ・老年看護学」北川公子（医学書院） 「系統看護学講座・専門分野 ・老年看護 病態・疾患論」佐々木英忠（医学書院）
参 考 書	

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 演 習	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演習(事例展開、援助技術)・講義
科 目 の 目 的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの経験をもとに、高齢期に特徴的な疾患をもつ高齢者の看護過程の展開方法を学習する。また、演習を通して高齢者への援助技術を学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 高齢期に特徴的な疾患をもつ高齢者の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、計画立案ができる。 2. 事例で設定された個別性、条件をふまえ、援助計画に基づいた看護技術を実施できる。
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学、老年看護学、基礎看護学
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	レポート(40%)、技術テスト(10%)、期末試験(50%)
準 備 学 習 の 内 容	看護過程の展開にあたっては看護過程論、老年看護学 の既習内容を、援助技術演習にあたっては看護援助学演習の既習内容を復習しておくこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	高齢者に特徴的な疾患と看護	認知症・脳梗塞・大腿骨頸部骨折のアセスメント	以下の大項目 6. 高齢者の生活を支える看護 7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護  リハビリテーション	
2	看護過程の展開	事例の概要、学習のすすめ方		
3	看護過程の展開	グループワーク (事例内容の確認) グループワーク (情報整理)		
4	看護過程の展開	グループワーク (アセスメント、関連図作成)		
5	看護過程の展開	グループワーク (計画立案、まとめ)		
6	看護過程の展開	発表、討議		
7	高齢者への援助技術	食事		
8	高齢者への援助技術	経管栄養		
9	高齢者への援助技術	口腔ケア		
10	高齢者への援助技術	移乗、活動		
11	高齢者への援助技術	体位、褥瘡予防		
12	高齢者への援助技術	排泄ケア		
13	高齢者への援助技術	技術の復習		
14	高齢者への援助技術	技術テスト		
15	まとめ			

教 科 書	「系統看護学講座・専門分野 ・老年看護学」北川公子(医学書院)
参 考 書	「生活機能からみた老年看護過程」山田律子編(医学書院)



授業科目名	小児看護学総論	単位認定者	野田智子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	次世代を担う存在である子どもとその家族の健康生活のために、小児看護が果たす役割と課題について学ぶ。今日の子どもが置かれている状況と、子どもが健やかに成長発達するための社会システム・保健医療システムを学び、子どもの健康問題解決のための方略について考察する。
学習到達目標	1. 現代の子どもを取り巻く環境と小児看護の役割について考察する。 2. 子どもの成長発達について理解する。 3. 子どもの生活援助に必要な基礎知識を理解する。 4. 子どもの健康な成長発達を支援するための社会システム・保健医療システムを理解する。
関連科目	小児看護学(小児看護学、小児看護学、小児看護学、小児看護学特論) 実習(小児看護学実習) 母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など) 臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか) 地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)
成績評価方法・基準	試験80%、講義への出席と参加度20%
準備学習の内容	教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など) および発達心理学、栄養学を復習しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	子どもと環境	小児看護学の対象、小児の特徴、小児期の区分、母子保健の指標とその推移、わが国の子どもを取り巻く環境	<b>【目標】</b> 1. 子どもと家族の看護の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護  必修問題 .看護の対象および看護活動の場に関する基礎知識を問う。 7. 人間の成長と発達 B. 新生児期。乳児期 C. 幼児期 D. 学童期 E. 思春期	地域看護学 6. 母子保健指導 B. 乳幼児期の成長発達および生活の特徴と保健指導
2	乳児期の子どもの成長発達と看護	成長発達の原則、乳児期の特徴と発達課題、乳児期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達・セルフケアの発達、乳児期によく見られる健康問題		
4	幼児期の子どもの成長発達と看護	幼児期の特徴と発達課題、幼児期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達・セルフケアの発達、幼児期によく見られる健康問題		
6	学童期、思春期の成長発達と看護	学童期の特徴と発達課題、思春期の特徴と発達課題、学童期・思春期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達・セルフケアの発達、学童期・思春期によく見られる健康問題と学校保健		
7	子どもを守るための政策	母子保健施策、子育て支援施策		
8	試験			

教科書	1. 「ナースング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編(メディカ出版)2010.
参考書	必要時提示する。

授業科目名	小児看護学	単位認定者	野田智子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	小児期に多く見られる健康障害の特徴とその治療法について理解する。小児感染症や先天異常をはじめ、不慮の事故や虐待も含めた健康障害について幅広く学ぶ。また、成長発達過程にあることで生涯にわたって受ける影響(キャリアオーバー、成育医療)などについても幅広く学習する。
学習到達目標	1. 子どもに起こりやすい健康障害の病理学的メカニズムを理解する。 2. 子どもに起こりやすい健康障害の症状と治療について理解する。 3. キャリアオーバーや成育医療について理解する。
関連科目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学、小児看護学特論) 実習(小児看護学実習) 母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など) 臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか) 地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)
成績評価方法・基準	試験 80%、講義への出席と参加度 20%
準備学習の内容	臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)を復習しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	子どもと病気、子どもの感染症おもな疾患の特徴と治療	子どもの免疫と感染症の特徴、病期別の特徴(潜伏期、急性期、回復期など)、ウイルス感染症、細菌感染症	【目標】 9.さまざまな状況にある子どもと家族への看護 B.検査や処置を受ける子どもと家族 D.隔離が必要な子どもと家族 N.救急処置が必要な子どもと家族  必修問題 目標.看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 10.生命活動 F.小児疾患	
3 4	呼吸器系の疾患の特徴と治療、免疫・アレルギー疾患、膠原病の特徴と治療	上気道の炎症、気管支・肺・胸膜疾患、アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患、膠原病		
5 6	循環器系の疾患の特徴と治療、消化器系の疾患の特徴と治療	先天性心疾患、後天性心疾患、消化器疾患による子どもの影響、子どもの全身麻酔と手術療法、口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸・腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患、急性乳児下痢症など		
7 8	小児がんの特徴と治療・血液疾患の特徴と治療	小児がんの発生頻度と予後、小児がんのおもな検査と治療方法、疾患別プロトコル、小児がん、貧血・出血性疾患		
9 10	腎・泌尿器・生殖器疾患の特徴と治療、内分泌・代謝疾患の特徴と治療	泌尿・生殖器・尿路の奇形、腎系球体疾患、新生児マススクリーニングテストについて、先天代謝異常症、内分泌疾患		
11 12	神経疾患・運動器疾患の特徴と治療、染色体異常の特徴と治療	神経系の疾患、運動器疾患、染色体異常		
13 14	低出生体重児、子どもの事故・外傷、精神疾患	低出生体重児の疾患、倫理的課題、おもな事故・外傷と救急処置、自閉症、精神発達遅滞、ADHD(注意欠陥多動性障害)、不登校、摂食障害、児童虐待		
15	試験			

教科書	1.「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第12版」奈良間美保他著(医学書院)2011
参考書	必要時提示する。

授業科目名	小児看護学	単位認定者	野田智子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	常に成長・発達し続けている存在である子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受け、どのように適応しようとしているのかを理解する。さらに、子どもに起りやすい健康障害の特徴や、それぞれに対する有効な介入方法、すなわち小児看護の実際について学ぶ。
学習到達目標	1. 健康障害が、子どもと家族に与える影響について理解する。 2. 子どもの権利と小児看護の理念について理解する。 3. 子どもに起こりやすい健康障害の特徴と小児看護の特徴について理解する。 4. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解する。
関連科目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学、小児看護学、小児看護学特論) 実習(小児看護学実習) 母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など) 臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか) 地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)
成績評価方法・基準	試験 60%、課題提出 20%、講義・演習への出席と参加度 20%
準備学習の内容	教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など) および発達心理学、小児看護学総論の復習をしておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	健康障害が子どもや家族に及ぼす影響	子どもの病気の理解、病気や入院に伴う子どものストレスと家族のストレス、病気や入院に対する子どもの反応(心理的混乱)、子どものストレス対処への支援、家族のストレス対処に対する支援	【目標2】 8. 病気や入院が子どもの家族に与える影響とその看護 9. さまざまな状況にある子どもと家族への看護	地域看護学 10. 障害者(児)保健指導 B. 障害者(児)の自立 a. 障害者(児)のとりえ方、健康問題のアセスメント
3	子どもの権利と小児看護の理念	小児看護と倫理、子どもの人権、アドボカシー、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント		
4 5 6	プリパレーション	プリパレーションの方法と内容、プリパレーション実施のプロセス、グループ毎に分かれプレパレーションを実施		
7 8 9	急性期にある子どもと家族への看護	急性期にある子どもと家族の特徴、発熱時のアセスメントと看護、脱水時のアセスメントと看護、痙攣時のアセスメントと看護、呼吸困難時のアセスメントと看護、急性期にある子どもの家族に対する看護		
10	トリアージ	小児救急外来におけるトリアージの実際		
11 12	慢性期にある子どもと家族への看護	慢性期にある子どもと家族の特徴、慢性期にある子どもと家族のエンパワーメントを支援する看護、療育		
13 14	子どもの安全を考える	子どもの事故の発生要因と事故の実態、事故防止の具体策と安全教育、子どもの救急処置、病気の子どもの安全		
15	試験			

教科書	1. 「ナースング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編(メディカ出版)2010. 2. 「ナースング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編(メディカ出版)2010.
参考書	必要時提示する。

授業科目名	小児看護学	単位認定者	野田智子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	さまざまな病気や障害など、何らかの健康問題を抱えた子どもとその家族の特徴や精神的・身体的・社会的諸問題について、事例を通して理解を深める。また、それらに応じた看護について学ぶ。さらに、疾患・障害を持った小児とその家族を支える保健・医療・福祉・教育等様々な領域の社会資源と、その活用の意義や方法についても学習する。
学習到達目標	1. 健康問題を抱えた子どもとその家族の精神的・身体的・社会的諸問題の実際を理解する。 2. 健康障害を抱えた子どもと家族への具体的な看護介入の方法について学び、子どもの最善の利益について考察する。 3. 健康障害を抱えた子どもと家族のための社会資源とその活用方法について理解する。
関連科目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学、小児看護学特論) 実習(小児看護学実習) 母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など) 臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか) 地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)
成績評価方法・基準	試験 60%、課題提出 20%、講義・演習への出席と参加度 20%
準備学習の内容	各疾患についての復習をしておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4	小児看護に必要な看護技術	食事、排泄、清潔、衣生活の援助技術、ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント、身体発育の評価(観察・計測・指数、標準値との比較)、精神・運動機能の発達評価、子どものバイタルサインの測定(正常範囲と正常逸脱範囲)	【目標2】 8. 病気や入院が子どもの家族に与える影響とその看護 9. さまざまな状況にある子どもと家族への看護	地域看護学 10. 障害者(児)保健指導 B. 障害者(児)の自立 a. 障害者(時)のとりえ方、健康問題のアセスメント
5 6	呼吸器疾患の子どもと家族への看護	肺炎の事例から考える。呼吸器系の急性症状についてのアセスメントと看護介入の方法		
7 8	心疾患の子どもと家族への看護	先天性心疾患(VSD, ファロー四徴症など)で手術を受ける子どもの事例から考える。循環器系の主要症状についてのアセスメントと看護介入の方法、手術前後の看護		
9 10	小児がんの子どもと家族への看護	急性リンパ性白血病の事例から考える。血液系の主要症状についてのアセスメントと看護介入の方法、化学療法を受ける子どもの看護		
11 12	泌尿器疾患の子どもと家族への看護	ネフローゼ症候群(急性糸球体腎炎など)の事例から考える。腎・泌尿器系の主要症状のアセスメントと看護介入の方法、ステロイド療法を受ける子どもの看護		
13 14	脳神経系疾患の子どもと家族への看護	脳性麻痺の事例から考える。重症心身障害児のアセスメントと看護介入に方法、在宅療養への移行支援		
15	試験			

教科書	1. 「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学; 小児の発達と看護」中野綾美編(メディカ出版)2010. 2. 「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学; 小児看護技術」中野綾美編(メディカ出版)2010. 3. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第11版」奈良間美保他著(医学書院)2007
参考書	必要時提示する。

授業科目名	母性看護学総論	単位認定者	早川有子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	地域や家庭・家族を含めた生涯を通して性と生殖に関する母性看護の役割を理解する。
学習到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解する。 女性の性の周期性の変化について口答で説明ができる。
関連科目	教養科目群 生命倫理 家族学 専門基礎科目群 解剖学 解剖学 生理学 栄養学 免疫・感染症学 疾病の成り立ち 薬理学 専門科目群 看護の専門科目
成績評価方法・基準	試験(100%)
準備学習の内容	母性関連の解剖生理について復習して講義に臨むこと。 ライフサイクル各期の健康問題を身近な人を例に考え、自分の意見として述べられる。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	母性看護の概念	母性(父性)とは、セクシュアリティ リプロダクティブヘルツ/ライツ ジェンダーなど	母性看護の概念 A 母性看護のおもな概念 a 母性とは b ジェンダー c 家族の発達 B 母性看護と倫理 a 妊産婦・胎児および新生児の権利と擁護 b 自己決定の尊重 c プライバシーの保護 C 母性看護と法整備 a 地域における子育て支援 b 就労と母性 c 母体保護法 d 母子保健法	地域看護学 目標：生涯にわたる各段階(発達段階)健康レベルに応じた個人・家族及び小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。 また、人々が主体的に問題を解決できるように地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的な理解を問う。
-	母性看護の機能と役割	母性看護とは 意義・役割・現状・今後の課題と展望		6 母子保健指導 C 母性各期の生活と保健指導 a 思春期 b 妊婦褥期 c 育児期 d 更年期
2	母性看護の変遷と諸施策	母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策を学ぶ。		
3	生殖器の形態・機能	生殖器の形態・機能 女性外性器・内性器 男性生殖器 女性生殖器の機能 月経周期 調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化 *女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 内分泌・健康障害など	人間の性と生殖 A 人の発生と遺伝的要素 a 発生メカニズム b 染色体・遺伝子 B 性周期と生殖機能のメカニズム a 性周期とホルモン b 受胎のメカニズム	
-	受胎のメカニズム	受胎のメカニズム 染色体・遺伝子		
4	人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン	人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン		
5-7	女性のライフサイクルと健康	女性のライフサイクルの変化 高齢化・少子化 多様化する女性のライフスタイル ・高学歴化及び晩婚化・労働力率 ・新婚期・育児期・発展期・充実期・向老期・老年期  ライフサイクル各期の健康問題と看護 思春期・成熟期・更年期・老年期	1. 女性のライフサイクル各期における看護 A 思春期にある人々の看護 a 第二次性徴 b 心理的特徴  B 成熟期にある人々の看護 a 家族計画の意義 b 不妊治療と看護 c 更年期にある人々の看護 d ホルモンの変化と閉経 e 骨粗しょう症の予防	
8	まとめ			

教科書	「母性看護学 母性看護学概論」森恵美他(医学書院)
参考書	必要時提示する。

授業科目名	母性看護学	単位認定者	早川有子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。
学習到達目標	1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。
関連科目	教養科目群：生命倫理 家族学 環境学 看護学のための生物学 専門基礎科目群：発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）
成績評価方法・基準	課題に対するレポート、定期試験、出席状況、学習態度にて評価する。
準備学習の内容	母子の健康問題に関連ある因子について、課題を持って講義に臨む。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。	母性看護学 目標 . ライフサイクル各期における女性のリプロダクティブヘルスの維持増進、必要な基礎的知識を問う。	
2 - 6	母子保健と環境 - 母子と健康生活	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 ・精神的要因：恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因：経済、教育、文化、医療など ・環境的要因：自然環境、人為的環境など ・身体的要因：栄養、喫煙、飲酒など	4. 周期にある人と家族の看護 A. 妊婦の看護 b. 妊婦の心理 d. 妊婦の日常生活とセルフケア f. 親役割の準備	
7	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。		
8 - 12	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。	3. 女性のライフサイクル各期における看護 A. 思春期・成熟期・更年期 C. 女性のリプロダクティブヘルスの課題と看護 c. 性感染症	
13	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。	4. 周産期にある人と家族の看護 A. 妊婦の生理と妊婦の看護 c. 妊娠と不快症状 e. 出産・育児の準備 C. 産褥の生理と褥婦の看護 c. 褥婦の日常生活とセルフケア	
14	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。		
15	まとめ		1. 母性看護の概念 C. 母性看護と法整備 a. 子育て支援 B. 母性看護と倫理	

教科書	「妊・産・褥婦のよくあるトラブル」早川有子(医学書院) 「母性看護学 母性看護学各論」 森恵美他(医学書院)
参考書	

授業科目名	母性看護学	単位認定者	中島久美子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義 演習
科目の目的	妊娠・分娩・産褥(新生児含)期に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、その中で母性看護の役割を考える。また、個別看護が展開できるための基礎的知識・技術を学ぶ。
学習到達目標	1. 正常経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児とその看護が理解できる。 2. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。 3. 人間の性と生殖とその看護について理解できる。 4. 母子看護とその家族への支援について理解できる。 5. 母子看護に必要な基礎的技術を習得する。
関連科目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：生理学 生化学 発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て(主に小児看護学・地域看護学等)
成績評価方法・基準	小テスト(30%)、定期試験(70%)にて評価する。3/2以上の出席が前提。
準備学習の内容	母性看護学総論、母性看護学 の講義内容を復習のこと。特に周産期医療とその看護について、課題をもって講義に臨む。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1-2	妊娠の始まりと胎児の成長	・妊娠の成立、胎児の発育と発達について	2-A 胎児期:a 形態的発達	地域看護学 目標:生涯にわたる各段階(発達段階)健康レベルに応じた個人・家族及び小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。 また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的な理解を問う。 6 母子保健指導 C 母性各期の生活と保健指導 b 妊婦褥期
3-4	妊娠経過と看護	・妊娠の経過(からだと心の変化:妊婦・胎児) ・妊婦の看護(健康管理・保健指導・妊婦とその家族)	4-A 妊婦の看護:a 妊娠の経過と胎児の発育 b 妊婦の心理 c 妊娠と不快感 d 妊婦の日常生活とセルフケア e 出産・育児の準備 f 親役割	
5-6	妊娠期の健康問題とその看護	・ハイリスク妊娠 流産・早産・妊娠高血圧症候群 前置胎盤・常位胎盤早期剥離の看護	5-A 妊婦の看護:a 流産 b 早産 e 妊娠高血圧症候群	
7-8	分娩の経過と看護	・分娩の生理と経過 ・産婦の看護(分娩経過に伴う看護、産婦とその家族)	4-B 産婦の看護:a 分娩の経過と胎児の健康状態 b 出産様式、c 産痛の緩和 d 産婦と家族の心理	
9-10	異常分娩と看護	・帝王切開と看護・吸引・鉗子分娩・無痛分娩 ・胎盤の異常	5-B 産婦及び胎児の看護 a 胎児仮死 b 帝王切開術	
11-12	妊婦・産婦の技術演習	・レオポルド触診・腹囲・子宮底測定・妊婦体操・産痛緩和法など	4-C 褥婦の看護:a 産褥の経過 b 褥婦の心理 c 褥婦の日常生活とセルフケア	
13-14	産褥経過と看護	・産褥の経過(からだと心の変化) ・産褥期にある女性とその家族への日常生活の援助 ・母乳育児への援助	4-D 新生児の看護:a 親子関係 b 育児技術 5-C 褥婦および新生児の看護:低出生体重児、先天異常、障害を持つ新生児、死産	
15-16	新生児経過と看護	・新生児の特性と看護(からだと心) ・早期産褥期・早期新生児期の支援		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
17 - 18	新生児期の健康問題とその看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康障害のある新生児の看護について</li> <li>胎児仮死、低出生体重児、黄疸、先天異常等</li> <li>先天異常、障害をもつ新生児、児を亡くした褥婦の看護</li> </ul>	2-D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 3-B 成熟期にある人々の看護 a 家族計画の意義 b 不妊治療と看護	
19 - 21	人間の性と生殖	<ul style="list-style-type: none"> <li>不妊治療</li> <li>不妊治療と看護（生殖をめぐる倫理含む）</li> <li>家族計画・人工妊娠中絶</li> </ul>		
22 - 23	褥婦・新生児の技術演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>沐浴・外陰部消毒・授乳介助 産褥体操等</li> </ul>		
24 - 25	フィジカルアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>新生児フィジカルアセスメント</li> </ul>		
26 - 29	看護過程の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例による看護過程の展開（情報収集・分析・問題点・解決策・具体策・具体策に対する指導案作成等）</li> </ul>		
30	全体のまとめ			

教科書	「母性看護学各論」母性看護学（医学書院）
参考書	必要時提示する



授業科目名	精神看護学総論	単位認定者	小林 信
対象学年	第 2 学年	学期	前期
単位数	1 単位 ( 7 . 5 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	精神保健に焦点を当て、様々な健康問題を抱える対象を理解するための基礎知識として、精神の健康の捉え方、および精神の機能と構造、人格の発達過程について学ぶ。また、社会生活を営むうえで精神的健康や障害が人間の生活に与える影響を理解する。
学習到達目標	1. 精神の健康とそれに影響を与える要素を知る。 2. 精神の機能と構造を理解する。 3. 人格の成長発達過程を理解する。
関連科目	「発達心理学」、「精神看護学」、「精神看護学」
成績評価方法・基準	定期試験、授業の中で指示した提出課題、出席状況によって総合的に評価する。
準備学習の内容	自分(学生)自身の人格の発達とこころの健康について振り返って考えておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	精神保健とは	精神の健康の基本的な考え方	1. 精神の健康 A. 精神の健康(a. 精神の健康の概念 b. 精神障害の第1次予防、第2次予防、第3次予防)	地域看護学 目標：生涯にわたる各段階(発達段階)健康レベルに応じた個人・家族及び小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。
2	精神の機能と構造	精神力動論における精神の機能(意識)と構造 フロイトの精神力動論を中心に	1. 精神の健康 C. 精神の機能(a. 意識と見当識 f. 意欲と衝動コントロール h. 注意と集中 i. 自我機能)	また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的な理解を問う。
3	欲求と防衛機制	人間の欲求、および防衛機制の働きと種類 マズローのニード論、適応機制と防衛機制、感情転移	必修問題 - 6 人間の特性 A. 人間の欲求	9. 精神保健福祉指導 A. 精神保健福祉の動向(a. 精神保健の理念、歴史的変遷)
4	健康な人格とは	健康な人格とその客観的尺度 心理検査の種類と用法を中心に	2. 精神看護の基本概念 B. 心理学的側面(b. 感情転移 c. 防衛規制)	
5	人格の成長と発達	精神および人格の成長発達とその課題 エリクソンの発達課題(乳幼児～青年期)を中心に	1. 精神の健康 E. 発達段階と精神の健康 4. 精神科治療と看護 B. 臨床検査(a. 脳波検査・脳の画像診断 b. 心理検査)	
6	人間とストレス	ストレスとは何か、またそのコーピング(対処法) ラザルスのストレス対処理論を中心に	必修問題 - 7 人間の成長と発達	
7	人間と危機状況	危機理論と危機介入 フィנקのモデルとアギュレラの理論を中心に	1. 精神の健康 E. 発達段階と精神の健康 (a. 乳幼児期 b. 児童・思春期 c. 青年期)	
8	まとめ		2. 精神看護の基本概念 B. 心理学的側面(e. ストレスと対処)	
			1. 精神の健康 D. 危機<クライシス>(a. 危機の概念 b. 危機介入 c. 危機と予防)	

教科書	「系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子(医学書院)
参考書	「精神分析学入門」小此木 啓吾他(有斐閣) 「ライフサイクル、その完結」E.Hエリクソン(みすず書房)

授業科目名	精神看護学	単位認定者	小林 信
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	精神障害を生物的、心理的、社会・文化的に説明することができ、その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。
学習到達目標	1. 精神看護の対象を正しく理解できる。 2. 精神医療の歴史を把握し、現代社会におけるの問題や課題を理解できる。 3. 精神の機能とそこに生じる症状を説明できる。 4. 精神障害および精神疾患の種類と特徴を理解できる。 5. 精神に障害をもつ人に必要な看護援助を科学的に説明できる。
関連科目	「精神看護学概論」、「精神看護学」、「心理学」、「地域社会学」、「疾病の成り立ち」、「薬理学」、「リハビリテーション概論」、「社会福祉・社会保障制度論」、「看護過程論」
成績評価方法・基準	定期試験と授業の中で指示した提出課題
準備学習の内容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	精神看護の対象	精神医療および精神看護の対象の理解	2. 精神看護の基本概念 A. 生物学的側面 B. 心理学的側面 C. 社会的側面	
2 3	精神医療・看護の歴史	精神医療と看護の歴史の変遷とその特殊性 海外の歴史と日本の歴史	6. 精神保健医療福祉の歴史と法制度 A. 精神保健医療福祉の歴史と看護(a. 欧米における精神科医療の歴史 b. 日本における精神科医療の歴史)	
4 5	精神保健福祉法とは	精神保健福祉法の概要 精神科における入院形態、行動制限、権利擁護および障害者自立支援法、医療観察法などの関連法規	6. 精神保健医療福祉の歴史と法制度 B. 精神保健福祉の法制度(a~d) 7. 精神障害者のリハビリテーション	
6	精神科における人権擁護と看護倫理	精神看護における倫理とインフォームド・コンセント 行動制限(隔離と拘束)を中心に	5. 安全な治療環境の提供と人権擁護 A. 患者の権利擁護(a~d)	
7	リエゾン精神看護とは	リエゾン・コンサルテーション精神看護とは	2. 精神看護の基本概念 D. リエゾン精神看護(a~e) 3. 看護援助技法 C. リエゾン精神看護の技法	
8 9	精神の機能と症状	精神の機能および精神症状の種類と特徴	1. 精神の健康 C. 精神の機能(a. 意識と見当識 b. 知的機能 c. 知覚 d. 思考 e. 感情 f. 意欲と衝動コントロール g. 記憶 h. 注意と集中 i. 自我機能 j. 行動)	
10	精神障害の分類	精神障害および疾患の分類(ICD-10とDSM)	4. 精神科治療と看護 A. 精神疾患の診断基準(a~i)	
11 12	疾患と看護 統合失調症	統合失調症の特徴と治療およびその看護(幻覚妄想状態と無為自閉、認知障害)	必修問題 -12 主要疾患と看護 E. 精神疾患(b, 統合失調症) 3. 看護援助技法 A. 精神症状のアセスメントと援助(d. 幻覚、e. 思考内容と思路の障害)	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13 14	疾患と看護 感情（気分）障害	感情障害（大うつ病と双極性障害を中心に）の特徴と治療およびその看護（うつ状態と躁状態、および自殺企図）	5.安全な治療環境の提供と人権擁護 B.リスクマネジメント  必修問題 -12 主要疾患と看護 E.精神疾患(a.うつ病)	
15 16	疾患と看護 神経症性障害、ストレス関連性障害	不安障害、身体表現性障害、強迫性障害、心因反応、解離性障害の特徴と治療およびその看護	5.安全な治療環境の提供と人権擁護 B.リスクマネジメント  必修問題 -12 主要疾患と看護 E.精神疾患 c.神経症性障害	
17	疾患と看護 摂食障害	摂食障害の特徴と治療およびその看護	3.看護援助技法 A.精神症状のアセスメントと援助(b.抑鬱状態、c.躁状態) 5.安全な治療環境の提供と人権擁護 B.リスクマネジメント  必修問題 -12 主要疾患と看護 E.精神疾患 c.神経症性障害	
18	疾患と看護 人格障害	人格障害（境界性人格障害を中心に）の特徴と治療およびその看護	3.看護援助技法 A.精神症状のアセスメントと援助(a.不安状態、f.強迫思考・強迫行為、i.離脱症状)	
19	疾患と看護 物質依存症	物質依存症（アルコール依存症を中心に）の特徴と治療およびその看護	4.精神科治療と看護 A.精神疾患の診断基準(c.生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群)	
20	疾患と看護 発達障害、精神遅滞	発達障害と精神発達遅滞の特徴と治療およびその看護	4.精神科治療と看護 A.精神疾患の診断基準(f.人格障害)	
21	疾患と看護 器質性精神障害	器質性精神障害（認知症、症状精神病など）の特徴と治療およびその看護	4.精神科治療と看護 A.精神疾患の診断基準(e.精神作用物質関連障害)	
22	精神科で行われる治療法	精神科で行われる精神療法と身体療法、および看護者の役割	4.精神科治療と看護 A.精神疾患の診断基準(h.精神遅滞)	
23	精神科で行われる治療法	作業療法、レクリエーション療法、SST、心理教育など	4.精神科治療と看護 A.精神疾患の診断基準(g.器質性精神障害)	
24	精神看護における援助方法	患者-看護者関係とその展開（ペプロー理論）	4.精神科治療と看護 E.精神療法(a.個人精神療法 b.集団精神療法 c.認知行動療法)	
25 26 27	精神看護における援助方法	対象の自己決定と自律を促す援助（オレム・アンダーウッズのセルフケア理論）	4.精神科治療と看護 F.リハビリテーション療法(a.作業療法 b.芸術療法 c.SST)	
28 29	事例演習	事例を用いた看護過程の展開 グループワークと発表	2.精神看護の基本概念 E.看護理論(a.対人関係の看護論)	
30	まとめ		2.精神看護の基本概念 E.看護理論 b.セルフケア理論 3.看護援助技法 B.セルフケアと援助(a.空気・水・食物の十分な摂取 b.排泄物と排泄のプロセスに関するケア c.体温と個人衛生の維持 d.活動と休息バランスの維持 e.一人でいることと社会相互作用のバランスの維持 f.安全を保つ能力)	

教科書	「系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学[1]」武井麻子（医学書院） 「系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開 精神看護学[2]」武井麻子（医学書院）
参考書	「新・看護者のための精神保健福祉法Q & A」日本精神科看護技術協会監修（中央法規） 「ペプロー看護論」A.W オトゥール他（医学書院） 「セルフケア概念と看護実践」南裕子他（へるす出版）

授業科目名	精神看護学	単位認定者	小林 信
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	精神障害に関する社会制度と関連法規を学び、地域生活者としての精神障害者を支える看護師の機能と役割を習得する。
学習到達目標	1. 精神科リハビリテーションの概念が理解できる。 2. 精神障害に関する社会資源とそのシステムが理解できる。 3. 地域で生活する精神障害者とその家族の抱える問題とそのサポートの在り方が理解できる。
関連科目	「精神看護学概論」、「精神看護学」、「社会福祉・社会保障制度論」、「地域保健行政」、「社会福祉・地域サービス論」
成績評価方法・基準	定期試験と授業の中で指示した提出課題
準備学習の内容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	精神科リハビリテーションとは	精神科におけるリハビリテーションの概念と症状コントロール	7.精神障害者のリハビリ A.社会復帰・社会参加の基本(a.リハビリテーションの概念 b.国際生活機能分類)	
2	社会制度と社会資源	精神障害者が利用できる社会制度と社会資源について	7.精神障害者のリハビリ B.保健医療に関する資源の活用と調整(a.保健所、市町村、精神保健福祉センターb.精神科デイケア c.訪問看護) C.福祉に関する資源の活用と調整(a~m) D.人的資源の活用と調整(a~f)	
3	地域精神看護の実際	保健師、精神訪問看護、精神保健福祉相談員の活動	7.精神障害者のリハビリ B.保健医療に関する資源の活用と調整(a.保健所、市町村、精神保健福祉センターc.訪問看護) D.人的資源の活用と調整(a~f)	
4	薬物療法と看護	中枢神経系における情報伝達の仕組みと向精神薬の作用機序、抗精神病薬、抗うつ薬の作用と副作用	2.精神看護の基本概念 B.生物学的側面(b.神経伝達物質と精神機能) 4.精神科治療と看護 C.薬物療法(a.抗精神病薬 b.抗うつ薬)	
5	薬物療法と看護	抗不安薬、その他の精神科薬の作用と副作用 精神科薬物療法における看護者の役割	4.精神科治療と看護 C.薬物療法(c.気分安定薬 d.抗不安薬、e.睡眠薬 f.抗てんかん薬) D.症状マネジメント(a.服薬自己管理)	
6	当事者と語る	当事者(患者本人もしくは家族)と語る	7.精神障害者のリハビリ D.人的資源の活用と調整(f.セルフヘルプグループ)	
7	家族支援・家族看護	精神障害者の家族支援と看護師の役割 高感情表出と心理教育を中心に	4.精神科治療と看護 D.症状マネジメント(b.心理教育)	
8	まとめ			

教科書	特に指定しない
参考書	「分裂病の少女の手記 改訂版」セシュエー(みすず書房) 「こころの病と生きる」若林菊男編(萌文社) 「精神保健福祉白書 2011年版」精神保健福祉白書編集委員会(中央法規)

授業科目名	地域看護学概論	単位認定者	大野 絢子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	1. 地域看護の概念と役割について理解する。 2. 地域の人々の健康を守る地域看護活動の方法について理解し、今後の活動について展望する。
学習到達目標	1. 地域看護の概念と歴史の変遷を理解する。 2. 地域看護をめぐる保健医療福祉施策と職種を理解する。 3. 地域看護の法的基盤を理解する。 4. 看護職者の職業倫理を理解する。 5. 地域看護の役割、活動の特徴と成立条件を理解する。 6. 地域看護の対象と活動の場の特徴を理解する。 7. 地域看護活動の方法を理解する。
関連科目	教養科目群: 発達・行動・心理、人と社会・生活、 専門基礎科目群: 公衆衛生学、疫学に開講されている全科目、社会福祉・社会保障制度論に開講されている全科目、地域保健行政 専門科目群: 基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、統合分野
成績評価方法・基準	定期試験 80%、レポート 20%
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	地域看護の概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域看護の概念</li> <li>・公衆衛生活動と地域看護活動</li> <li>・学校保健活動、産業保健活動</li> <li>・在宅医療、包括医療(総合保健医療)と看護の継続性</li> <li>・プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーション、ICIDH、自己決定、住民参加、アドボカシー、男女共同参画、パートナーシップ</li> <li>・地域看護の発祥と歴史 明治～大正初期・昭和初期～現在の概要</li> <li>・包括医療と看護の継続性</li> <li>・保健医療福祉施設</li> <li>・保健医療福祉従事者</li> <li>・保健師助産師看護師法における保健師業務</li> <li>・WHO(世界保健機構)とWHO憲章</li> <li>・ODA(政府開発援助)、NGO(Non-government Organization)、NPO(Non-profit Organization)</li> <li>・専門職とは、専門看護師(地域看護)</li> <li>・看護職者の倫理綱領、ICN規律</li> <li>・公務員法等</li> <li>・地域看護の役割</li> <li>・地域看護活動の特徴</li> <li>・地域看護活動の成立条件</li> <li>・個人・家族・集団・地域の特性と対応</li> <li>・行政機関(市町村・保健所)</li> <li>・保健師活動指針・施策化</li> <li>・福祉関係機関・事業所・学校</li> <li>・家庭訪問、健康相談、健康教育、地区組織活動、集団健診</li> </ul>	<p>【必修問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。</li> <li>8.患者と家族、A.家族の機能、B.家族形態の変化</li> <li>9.主な看護活動展開の場と看護の機能、B.保健所・市町村保健センターにおける看護活動、C.地域・在宅での看護</li> </ul> <p>【社会保障制度と生活者の健康】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う。</li> <li>1.生活基盤</li> <li>2.ライフスタイル</li> <li>3.人間の集団としての働き</li> <li>・公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。</li> <li>11.保健活動、A.地域</li> </ul>	<p>【地域看護学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1.地域看護学の成立基盤、A.地域看護の変遷と意義、B.公衆衛生看護活動の理念・目的、C.基本概念とその活用</li> <li>2.地域看護学の構成</li> <li>A.活動領域、B.活動対象、C.活動方法</li> <li>3.社会環境の変化と健康課題、A.社会情勢の変遷、B.国際交流、国際協力、C.健康に影響する生活環境と社会要因</li> <li>4.地域の人々の保健関連行動、A.健康課題への個人の対処行動、B.健康課題への地域組織としての対処</li> </ul>

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動方法の多様性</li> <li>・対象に合わせた方法の選択</li> <li>・活動方法相互の関連づけ、有機的な連携と統合した活動</li> <li>・厚生労働省通知「保健師活動指針」</li> </ul>	保健	
16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	<p>(学校保健) 養護教諭の職務</p> <p>学校保健(1)</p> <p>学校保健(2)</p> <p>養護教諭の職務の実際(1)</p> <p>養護教諭の職務の実際(2)</p> <p>養護教諭の職務の実際(3)</p> <p>養護教諭の職務の実際(4)</p> <p>養護教諭の職務の実際(5)</p> <p>(産業保健) 産業保健・看護の理念と目的 産業保健・看護の歴史と現状 産業保健・看護の制度とシステム 産業保健・看護における主な健康課題と対策 産業保健・看護の役割・特徴と活動の展開 まとめ</p>	<p>養護教諭制度の沿革、養護教諭の職務内容の変遷、学校教育における養護教諭の役割</p> <p>学校保健法、学校保健の領域、学校保健のしくみ</p> <p>学校保健情報と健康実態の把握、学校保健目標と学校保健計画</p> <p>学校保健組織活動</p> <p>保健室の機能と運営</p> <p>学校環境衛生活動</p> <p>健康診断</p> <p>健康相談、疾病の予防と管理</p> <p>健康観察</p> <p>救急処置と救急体制</p> <p>健康相談活動</p> <p>保健教育活動</p> <p>産業保健・看護の定義、産業看護職の機能</p> <p>産業保健・看護に関連する健康問題や支援の歴史的経緯と今日のヘルスニーズ</p> <p>労働安全衛生に関する法体系</p> <p>産業保健組織とスタッフの役割</p> <p>健康支援を行う関連機関</p> <p>職業性疾病の種類と予防対策</p> <p>作業関連疾患の種類と予防対策</p> <p>職場のメンタルヘルスケア・ストレス対策</p> <p>職場の安全管理</p> <p>産業看護職の役割</p> <p>産業保健計画と評価</p> <p>個別的・集团的・組織的展開方法</p> <p>まとめ</p>		<p>1-A-a)学校保健・看護の定義 b)養護教諭の役割・機能 B-a)学校看護職の誕生、社会背景 b)戦後の学校保健、養護教諭の活動 c)学校保健・看護活動の実態</p> <p>C-a)学校保健安全の関係法規 b)学校保健安全組織と人材 c)保健室の機能、保健室運営 d)安全管理、危機管理 e)学校給食、食育、衛生管理 D-a)発達段階別健康課題 b)不登校 c)障害児(発達障害を含む) d)いじめ、虐待、事故 e)日常的な医療の実施を必要とする児 E-a)学校保健情報の把握 b)学校保健計画・学級安全計画の企画と運営 c)健康診断と事後措置 d)保健指導、保健学習 e)感染の予防・対策 f)健康相談活動 g)救急体制・救急処置 h)学校保健組織活動 F-a)環境調整の意義 b)環境管理 c)環境教育 d)学校環境衛生基準 e)地域保健、産業保健との連携 G-a)外傷後ストレス障害 PTSD への対応 b)地域の関係機関、地域ボランティアとの連携</p> <p>2-A-a)産業保健の定義 b)保健師の役割・機能 B-a)産業保健の変遷、社会背景 b)産業保健活動の実態 C-a)労働安全衛生の関係法規 b)労働安全衛生に関する組織と人材 c)労働衛生管理と労働衛生管理業務 D-a)職業性疾患の種類、予防対策 b)作業関連疾患の種類、予防対策 c)生活習慣病予防対策、特定健康診査・特定保健指導 d)職場のメンタルヘルスケア、ストレス対策 e)職場の安全管理 f)職場復帰支援 E-a)産業保健計画と評価 b)個別的・集团的・組織的展開方法 c)地域・職域連携活動</p>
教科書		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「標準保健師講座1 地域看護学概論」奥山則子 他(医学書院)</li> <li>・「国民衛生の動向 2010/2011」(財団法人厚生統計協会)</li> </ul>		
参考書		「最新保健学講座1 地域看護学概論」金川克子編(メヂカルフレンド社)		

授業科目名	地域看護学	単位認定者	小林 亜由美
対象学年	第 2 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 ( 3 0 コマ )	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、健康教育、家庭訪問、地区組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。
学習到達目標	1. 健康相談/健康診査の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた健康相談を展開できる。 2. 家族保健指導の意義と目的、及び支援技術としての家庭訪問の特質を理解し、家庭訪問のプロセスを展開できる。また、家庭訪問を他の保健事業や施策に反映させる意義と方法がわかる。 3. 健康教育の概念と理論を理解し、個人及び集団を対象とした健康教育を展開できる。 4. 地区組織活動支援の意義、地区組織活動支援に活用される理論、地区組織活動支援の方法がわかる。
関連科目	地域看護学概論、地域看護学、地域看護学、地域看護学、地域看護学特論、カウンセリング
成績評価方法・基準	試験(60%)、演習/レポート(40%)
準備学習の内容	各回講義内容について教科書を事前に読んでおくこと。健康相談/健康診査/家庭訪問演習および家族への保健指導を実施する前に、対象者の事前情報から把握できる健康課題や解決/改善方法について調べ理解しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	導入	オリエンテーション		地域看護学 -1.生涯にわたる各段階(発達段階)、健康レベルに応じた保健サービス
2	健康相談 1	健康相談の意義と目的	目標 必修問題	A.生涯にわたる各段階(発達段階)に応じた保健サービス
3	健康相談 2	健康相談の対象	-14.基本技術 A. コミュニケーション a. 言語的コミュニケーション b. 非言語的コミュニケーション c. 面接技法	a. 生涯にわたる各段階(発達段階)における個人・家族および小集団の健康課題と保健サービス
4	健康相談 3	健康相談の技術		b. 生涯にわたる各段階(発達段階)における個人・家族および小集団の健康課題と保健サービス
5	健康相談 4	健康相談の実施方法	目標 基礎看護学	c. 生涯にわたる各段階(発達段階)における個人・家族および小集団の健康課題と保健サービス
6	健康相談 5	健康相談の実施方法(演習)	-3.共通基本技術 A. コミュニケーションの技術	a. 健康レベルに応じた保健サービス
7	健康相談 6	健康相談の実施方法(演習)	a. コミュニケーションの構造・種類 b. グループワークの基礎知識 c. 看護面接技術	a. 健康レベルに応じた保健サービスの特性と活用 b. 健康レベルに応じた接近技法・技術
8	健康診査 1	健康診査の意義、目的、対象、方法	B. 教育指導の技術 a. 教育指導のプロセス b. 対象者に合わせた指導方法と媒体の工夫 c. 個別指導・集団指導の特性、適用、メリット・デメリット	a. 健康レベルに応じた保健サービスの特性と活用 b. 健康レベルに応じた接近技法・技術
9	健康診査 2	健康診査事業の展開方法と保健師の役割	D. 観察技術 a. ヘルスアセスメントの基礎知識 b. インタビューの技術 c. 一般状態のアセスメントと評価	-2. 保健指導 A. 保健指導の目的と各接近技法・技術の特色 a. 個別・集団の接近技法の各目的、特性 b. 個別・集団指導の種類と特色 B. 保健指導における役割 a. 個別・集団指導と援助者の基本姿勢 b. 対象選定と優先順位
10	健康診査 3	健康診査の実施方法(演習)		-4. 健康相談 A. 健康相談・健康診査の目的と対象、方法 a. 目的、特性 b. 対象、種類と特性、スクリーニング基準、精度管理 c. 相談・健康診査場面の設営・面接技術 B. 進め方 a. 地域の健康特性と健康相談・健康診査事業の立案 b. 参加対象と参加勧奨 c. 実施準備・実践・評価 d. 事後フォローアップ e. 参加対象の自立支援・組織化
11	健康診査 4	健康診査の実施方法(演習)		-5. 健康教育 A. 健康教育の目的と対象、方法 a. 目的、特性 b. 対象、種類と特性 c. 健康教育に用いる基礎理論 B. 進め方 a. 地域のニーズ把握・アセスメント、事業計画の立案
12	健康教育 1	健康教育の理念と目的、健康教育の理論		
13	健康教育 2	健康教育の対象・方法		
14	健康教育 3	健康教育の展開過程 1		
15	健康教育 4	健康教育の展開過程 2		
16	健康教育 5	健康教育計画と指導案 1		
17	健康教育 6	健康教育計画と指導案 2		
18	健康教育 7	健康教育の評価 1		
19	健康教育 8	健康教育の評価 2		
19	家族保健指導	家族の発達課題、家族の持つ保健機能 家族の問題把握と診断、家族支援	目標 1 社会保障制度と生活者の健康 -1. 生活基盤 B. 家族生活の	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			基本機能 a.生産・労働 b.教育・養育 c.保健・福祉 d.生殖 e.慰安・交流	b.参加対象と参加勧奨 c.健康教育計画の立案、媒体の工夫 d.実施準備・実践・評価 e.事後フォローアップ f.参加対象への自立支援・組織化 地域看護学
20	保健指導計画	保健指導計画ならびに実施計画の立案（演習）	-2 ライフスタイル A.家族の機能と役割 a.夫婦の役割機能の変化 b.家族内介護者の変化 c.育児と介護の社会化 d.家事機能の変化 C.生活習慣の確立 a.生活習慣病の概念 b.発達課題別生活習慣 c.セルフケアの確立	-3.家庭訪問 A.家族保健指導 a. 家族の発達段階と課題 b.家族アセスメントc.家族支援計画、支援方法、評価 B.家庭訪問の目的と対象、方法 a.目的、特性 b.対象特性 c.初回・継続・拒否・緊急等の訪問技術 C.進め方 a.情報収集と問題把握 b.対象選定と優先順位 c.訪問指導計画、訪問準備・実践・評価 e.関係機関・職種との連携、社会資源の活用 目標 地域看護学
21	家庭訪問 1	家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象		-5.グループ支援、組織化 A.グループの役割・機能 a.グループの種類と機能 b.グループの発展過程 c.グループダイナミクスの理論 d.グループ支援における保健師の役割 B.グループメンバー個々人の変化とグループ全体の変化 a.主体性の確立 b.自己洞察の深まり c.エンパワメント C.グループの育成支援と組織化 a.グループの育成と組織化支援 b.セルフヘルプグループの特徴と支援方法 D.住民組織・地区組織 a.組織の育成・支援 b.地域住民の自助、互助および協働活動の把握と推進 c.専門職、行政職、他の住民組織等との協働 E.グループ支援・組織化と地域活動への発展・貢献 a.グループ間での情報共有とネットワーク b.協働活動の発展と支援 c.民間、NPO支援 -6 地域ケアシステムづくり A.地域ケアシステムの構築 a.地域ケアシステム概念 b.地域ケアシステムの発展過程 c.共通認識の形成と目標の設定 d.地域ケアシステムにおける個人と組織の役割、機能 B.ネットワークの形成と地域ケアコーディネーション a.仲間づくりと関係者のネットワーク b.住民とのパートナーシップ c.住民、関係者とのチームワーク、協働 d.関係機関、関係職種との連携 e.連携会議の企画運営
22	家庭訪問 2	家庭訪問における観察・情報収集、看護技術援助、保健指導		
23	家庭訪問 3	家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法		
24	家庭訪問 4	家庭訪問計画の作成、訪問準備、訪問目的の伝え方		
25	家庭訪問 5	家庭訪問計画作成（演習）		
26	家庭訪問 6	家庭訪問場面（演習）		
27	家庭訪問 7	家庭訪問場面（演習）		
28	地区組織活動 1	地区組織活動の意義と目的		
29	地区組織活動 2	地域住民の自助と互助、地区組織・専門職・自治体の連携、社会資源の活用		
30	地区組織活動 3	地区組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方		

教科書	「最新保健学講座2 地域看護支援技術」村嶋幸代編（メヂカルフレンド社）
参考書	なし



授業科目名	地域看護学	単位認定者	矢島正栄
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	地域で生活する人々を捉える視点を教授し、人々の主体性を尊重した援助の基本姿勢を育成する。また、地域及び集団を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を教授する。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割、地域看護管理について理解を深める。
学習到達目標	1. 地域の特性と、そこで生活する人々の様子や健康・生活上のニーズを捉えることができる。 2. 地域で生活する人々の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢がわかる。 3. 地域及び集団の健康管理の考え方や方法がわかる。 4. 地域の関係機関、関係職種との連携の必要性とその方法がわかる。 5. 保健計画の意義、策定・遂行・評価のプロセスと看護専門職の役割がわかる。
関連科目	地域看護学概論、地域看護活動論、地域看護活動論
成績評価方法・基準	試験(50%)、演習内容(50%)
準備学習の内容	テキストの各回講義内容に該当するところを読んでから授業に臨んでください。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	地域保健活動の対象のとりえ方1	地域保健活動の対象、地域の健康問題の捉え方、健康問題の構造		地域看護学 3. 社会環境の変化と健康課題 A. 社会情勢の変遷 a. 人口構成の変化 b. 疾病構造の変化 c. 科学技術の発展 d. 経済・産業構造の変化 e. 地域社会の構造の変化 f. グローバリゼーション C. 健康に影響する生活環境と社会要因 a. 文化・価値観の多様化 b. 生活構造 c. 家族形態 d. 労働形態 e. 生活環境(公害・環境汚染) f. 社会病理
2	地域保健活動の対象のとりえ方2	現代日本人の生活と健康問題		4. 地域の人々の保健関連行動 A. 健康課題への個人の対処行動 a. セルフケア行動 b. 保健行動(健康行動) c. 病気への対処行動 B. 健康課題への地域組織としての対処 a. 健康課題に対する地域組織の理念 b. 健康課題への地域組織の対処行動
3	地域保健活動の対象のとりえ方3	対象の健康課題への対処行動		地域看護学 1. 地域診断 A. 地域特性、地域集団の特徴の把握 a. 地区診断の概念、情報収集、アセスメント b. 日常的な保健師活動からの潜在・顕在ニーズの把握と分析 c. 住民ニーズの把握と住民の意見聴取 d. 既存の統計資料の分析と解釈 e. 社会資源・関係機関の把握と分析 f. 実態調査
4	地域保健活動の展開1 地区把握	地区把握・問題発見の考え方や方法		2. 活動の計画・実践・評価 A. 活動計画および事業計画の策定 a. 情報分析と健康課題の提示 b. 解決すべき健康問題の特定、優先順位の決定 c. 目的、目標
5	地域保健活動の展開1 地区把握	〃		
6	地域保健活動の展開2 地区診断	地区診断の目的と方法		
7	地域保健活動の展開3 活動方針・活動目標の設定	活動方針・活動目標の考え方や盛り込むべき内容、優先順位の考え方		
8	地域保健活動の展開4 地域保健活動計画の立案	地域保健活動計画立案のプロセス		
9	地域保健活動の展開4 地域保健活動計画の立案	必要量・稼働量の算定、予算化、地域保健活動計画と住民参加		
10	地域保健活動の展開5 活動計画の実践と評価	地域保健活動のモニタリングと計画の修正、地域保健活動の評価の目的と考え方		
11	地域保健活動の展開5 活動計画の実践と評価	地域保健活動の評価に用いる指標と評価方法		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	保健計画と保健師の活動 1	保健計画とは		の明確化と合意形成 d. 計画の根拠の明確化 e. 活動内容および活動方法の選定と手順 f. 保健師活動の必要量と稼働量 g. マンパワー、予算の確保 h. 評価計画の策定
13	保健計画と保健師の活動 2	保健計画の構成、保健計画の策定過程、保健計画を実現させるための条件・方法、保健計画の評価		B. 計画の推進(進行管理、計画調整)
14	保健計画と保健師の活動 3	保健計画の策定・推進・評価における保健師の役割 施策化の考え方と保健師の役割		a. 関係者との連絡・調整 b. 事業の運営、モニタリング c. 計画変更などの調整 d. 計画の周知
15 ~ 27	演習 地区診断と地域保健活動 計画作成演習	1. 目的 地域住民のヘルスニーズの把握方法と、ヘルスニーズに対応させた地域保健活動の展開方法を理解する。  2. 方法 1)対象地域: 榛東村 2)内容: 対象地域の地区把握・地区診断・健康問題の分析・地域保健活動計画の作成・地域保健活動評価計画の作成 3)実施方法: グループ毎に母子、成人等の 1 領域を担当する。  各グループが作成した地区活動計画を発表し、内容について全体討議を行う。 助言者: 榛東村保健師		C. 計画の見直し、評価 a. 計画の達成状況の確認 b. 評価(プロセス評価、アウトカム評価) c. 経済的評価 d. 次年度への反映 3. 自治体(保健所・市町村)における計画策定・施策化と予算 A. 保健福祉対策と事業計画および評価 a. 公共政策と保健計画 b. 都道府県および市町村の基本的な計画の位置付け c. 法制度に基づく保健計画の策定 d. 新たな健康課題を解決する事業計画の策定 e. 計画策定への住民参加の促進 f. 保健政策と医療、福祉、教育、労働、連携 g. 評価(健康課題と達成状況の提示) B. 事業計画と予算 a. 予算編成(活動の財政的計画)と執行 4. 地域看護管理 A. 地域看護管理の目的と機能 a. 地域における健康管理活動の方向付け b. サービスの提供体制の整備、指導・監視 c. コミュニティの健康水準の向上への提言 d. 職員と住民の権利保障 e. 職業倫理 B. 情報管理 a. 情報管理に関する法制度 b. 地域看護活動における情報管理機能 c. 情報公開 d. 個人情報保護 C. 地域ケアの質の保証 a. サービス提供組織の診断 b. 地域における看護の継続性と総合性の推進 c. 他職種・他機関との事例検討 d. 地域の特性をいかした社会資源の開発と管理 D. 組織運営と管理 a. 組織目的、各部門の役割、指示系統の確認 b. 業務管理 c. 他部門との連携、情報の共有、協働 E. 人事管理と人材育成 a. 人事管理、評価 b. 人材育成方針の策定 c. 現任教育の目的と方法 F. 予算管理 a. 保健事業と人材育成の予算編成 b. 目的、効果率・効率、代替案の明確化 c. 主務者、財務部門、議会への説明
28	発表会			
29	地域保健活動計画報告・検討会			
30	まとめ			

教科書	「最新保健学講座 5 地域看護管理論」平野かよ子編集(メヂカルフレンド社) 「国民衛生の動向 2010/2011」(財団法人厚生統計協会)
参考書	なし

授業科目名	地域看護学	単位認定者	矢島正栄
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	母子保健活動の理念と特質を学び、実践の基礎となる知識及び技術を習得する。
学習到達目標	1. 母子保健活動の理念と目的がわかる。 2. 母子が抱える健康課題と支援の方法がわかる。 3. 我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割がわかる。
関連科目	地域看護学概論、地域看護学、地域看護学、保健指導論、公衆衛生学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、母性看護学概論、母性看護学、母性看護学、小児看護学概論、小児看護学、小児看護学、小児看護学、精神看護学総論
成績評価方法・基準	試験(70%) 演習内容(30%)
準備学習の内容	・地域看護学概論、地域看護学、母性看護学、小児看護学で学んだ知識をしっかりと定着させて臨んでください。 ・テキストの各回講義内容に該当するところを読んでから授業に参加してください。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	母子保健総論	母子保健の考え方・我が国の母子保健の変遷		地域看護学
2	母子保健総論	我が国の母子保健の水準		6. 母子保健指導
3	母子保健総論	我が国の母子保健施策の概要		A. 母子保健の動向
4	母性保健論	思春期の保健指導、若い家族の保健指導		a. 母子保健の理念、歴史的変遷、リプロダクティブヘルス/ライツ b. 母子保健施策と保健師活動の関係法規 c. 地域・集団の母子健康問題
5	母性保健論	妊娠・分娩・産褥期の保健指導 1		B. 乳幼児期の発育・発達および生活の特徴と保健指導
6	母性保健論	妊娠・分娩・産褥期の保健指導 2		a. 乳幼児の発育・発達
7	母性保健論	子育て期の保健指導、更年期の保健指導		b. 健康問題の早期発見とその対応 c. 基本的な生活習慣とその指導 d. 予防接種 e. 事故予防
8	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 1		C. 母性各期の生活と保健指導
9	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 2		a. 思春期 b. 妊産褥期 c. 育児期 d. 更年期
10	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 3		D. 健康上のリスクをもつ母子への保健指導
11	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 4		a. 心身障害児、慢性疾患児 b. 就労女性、ワークライフバランス c. 児童虐待、ドメスティックバイオレンス<DV>d. 外国人母子の健康問題と支援 e. 地域のサポートシステム、社会資源
12	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 5		
13	小児保健論	障害児・小児慢性疾患児の保健指導		
14	小児保健論	ハイリスク母子の保健指導		
15	小児保健論	まとめ(試験)		

教科書	
参考書	

授業科目名	地域看護学	単位認定者	小林 亜由美
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義(オムニバス方式)
科目の目的	地域看護活動の対象となる成人保健、高齢者保健、精神保健、難病対策、感染症対策についてその理念と特質を学び、保健指導の実践の基礎となる知識・技術を習得する。また地域における健康管理体制について学ぶ。またそれぞれの領域において現代の地域社会が抱える課題について考え、地域における健康管理体制について学ぶ。
学習到達目標	1. 生活習慣病、高齢者、精神疾患、感染症、難病、障害者(児)に関する保健活動の理念と目的が理解できる。 2. 対象者が抱える問題と支援の展開方法がわかる。 3. 同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。
関連科目	免疫・感染症学、公衆衛生学、疫学、老年看護学総論、老年看護学、成人看護学総論、成人看護学、歯科保健、社会福祉・社会保障制度論、精神看護学概論、精神看護学、地域看護学概論、地域看護学、地域保健行政論、地域看護学特論
成績評価方法・基準	定期試験(成人保健30%、高齢者保健15%、感染症保健20%、障害者保健/難病対策15%、精神保健20%)
準備学習の内容	各回講義内容について教科書および国民衛生の動向を事前に読んでおくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	成人高齢者施策1	オリエンテーション 我が国の成人高齢者の健康問題と対策	目標 必修問題 -2. 健康と生活 A. 生活行動・習慣 a. 食事・栄養 b. 睡眠 c. 運動 d. 飲酒 e. 喫煙 f. ストレス g. メンタルヘルス h. ライフスタイル	地域看護学 -7. 成人保健指導 A.1 成人保健の動向 a. 成人保健の理念、歴史的変遷 b. 成人保健施策と保健師活動 c. 地域・集団の成人期健康問題、優先順位 B. 成人期の生活と保健指導 a. 成人各期の特徴、健康問題アセスメント、保健指導 b. 生活習慣病予防、特定健康診査、特定保健指導 c. 疾病、健康課題と地域のサポートシステム、社会資源
2	成人高齢者施策2	健康増進対策:健康日本 21、健康増進法、新健康フロンティア戦略	-3 保健医療制度の基本 A. 医療保険制度 a. 医療保険の種類 B. 介護保険制度 a. 保険者 b. 被保険者 c. 給付の内容 d. 要介護認定	-8 高齢者保健指導 A. 高齢者保健の動向 a. 高齢者保健の理念、歴史的変遷 b. 高齢者保健施策と保健師活動 c. 地域・集団の高齢者健康問題、優先順位 B. 高齢者の生活と保健指導 a. 高齢者の特徴、健康寿命、健康問題アセスメント、保健指導 C. 在宅高齢者と家族への保健指導 a. 介護予防 b. 要支援・要介護高齢者 c. 認知症高齢者 d. ターミナルケア e. 高齢者虐待 -13 歯科保健指導 A. 歯科保健の動向 a. 歯科保健統計 b. 歯科保健施策、8020運動 B. 生涯にわたる各段階(発達段階)の歯科保健 a. 生涯にわたる各段階(発達段階)、健康レベルに応じた歯科保健サービス b. 障害者(児)、難病等の歯科保健サービス C. 歯科保健に関連する歯科疾患 a. う蝕 b. 歯周疾患 c. 口腔機能低下 d. 誤嚥性肺炎
3	成人高齢者施策3	特定健康診査と特定保健指導:高齢者の医療の確保に関する法律	目標 -9 主な看護活動展開の場と看護の機能 B. 保健所・市町村保健センターにおける看護活動 a. 保健所の業務 b. 市町村保健センターの業務 C. 地域・在宅での看護 a. 在宅看護 b. 訪問看護ステーション c. 介護保険施設 d. 地域包括支援センター	-12 感染症保健指導・危機管理 A. 感染症保健活動の動向 a. 感染症保健活動の理念、歴史的変遷 b. 感染症に関する保健統計 B. 感染症予防施策と保健師の役割 a. 疫学、病態、臨床 b. 感染症予防活動、保健師の役割 C. 感染症発生時および集団発生時の保健師活動 a. 感染症発生時の保健師活動 b. 感染症集団発生時の保健師活動 D. 疾病管理 a.
4	成人保健活動1	メタボリックシンドローム・生活習慣病の保健指導	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
5	成人保健活動2	栄養・食生活の保健指導	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
6	成人保健活動3	身体活動・運動の保健指導	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
7	成人保健活動4	がん対策	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
8	成人保健活動5	たばこ・アルコールの保健指導	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
9	成人保健活動6	自殺予防	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
10	成人保健活動7	口腔・歯科保健指導	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
11	成人高齢者施策4	要支援・要介護者対策:介護保険法	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
12	成人高齢者施策5	介護予防対策:介護保険法、新健康フロンティア戦略	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	
13	高齢者保健活動1	認知症高齢者の支援、ターミナルケア	目標 -12 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 a. 虚血性心疾患 b. 高血圧症 c. 脳血管疾患 d. 糖尿病 e. 依存症(アルコール・ニコチン・薬物) f. メタボリックシンドローム B. がん a. がん対策基本法 b. 予防 c. 診断と告知 C. 感染症 a. インフルエンザ b. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) c. 腸管出血性大腸菌感染症 d. ウイルス性肝炎 e. 結核 f. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS> g. 麻疹・風疹・水痘 E. 精神疾患 a. うつ病 b. 統合失調症 c. 神経症性障害 G. 高齢者の疾患 a. 認知症 b. 骨粗鬆症	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14	高齢者保健活動2	高齢者虐待	-6 社会福祉法理念と施策 C.障害者(児)の施策 a.障害者基本法 b.障害者自立支援法 c.身体障害者福祉法 d.知的障害者福祉法 e.精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律 E.老人への施策 a.老人福祉法	感染症の予防及び感染症の患者に対する法律、一類・二類・三類・四類・五類感染症、指定感染症、新感染症、新型インフルエンザ感染症、食中毒 b.結核 c.ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群 <AIDS>、性感染症<STD> d.新興・再興感染症 e.ウイルス性肝炎 f.院内感染症疫学・保健統計 目標
15	感染症対策1	我が国の感染症対策の動向:感染症の予防及び感染症の患者に対する法律	-7 社会福祉行政 A.保健福祉計画 b.障害者基本計画と障害者プラン C.国、地方公共団体の行政、組織およびマンパワー a.福祉事務所 c.社会福祉施設 d.在宅サービス期間 e.保健師 f.理学療法士・作業療法士 g.介護支援専門員 ケアマネジャー h.社会福祉士・介護福祉士 i.精神保健福祉士 D.老人保健福祉行政の展開 b.市町村および都道府県の老人福祉計画 c.高齢者の生きがい対策 d.介護予防	-6. 感染症の疫学 F.主な感染症の頻度と分布 a.新興・再興感染症(ヒト免疫不全ウイルス<HIV> 感染症/後天性免疫不全症候群<AIDS>、結核を含む) b. 性感染症<STD>c.食中毒 G. 感染症の関係法規 a. 感染症の予防及び感染症の患者に対する法律 b. 予防接種法 c. 検疫法 d. 食品衛生法 e 学校保健安全法 地域看護学
16	感染症対策2	麻疹・インフルエンザ対策と保健活動	-9 健康指標と予防 B. 感染症とその予防 a. 感染症の成立要因 b. 感染症の流行現象 c. 感染症予防の基本 d. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法>f. 予防接種 g. 結核予防 h. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症/後天性免疫不全症候群< AIDS> -11 保健活動 A. 地域保健 a. 地域保健法の理念と指針 b. 健康日本 21c. 健康増進法 d. 市町村保健センター e. 保健所 D. 生活習慣病予防 a 主な生活習慣病の現状 b. 栄養・運動・休養 c. 喫煙・飲酒 d. 健康教育と早期発見 e. がん対策基本法 f. 循環器疾患の予防 g. 糖尿病の予防 h. 特定健康診査、特定保健指導 E. 難病対策 a. 特定疾患治療研究事業 精神看護学	-10 障害児(者)保健指導 A 障害児(者)保健の動向 a. 障害者(児)保健の理念、歴史的変遷 b. 障害者(児)保健福祉施策と保健師活動 c. 地域・集団の障害者(児)の健康問題、優先順位 B 障害者(児)の自立 a. 障害者(児)のとりえ方、健康問題アセスメント、保健指導 b. 障害者(児)と家族への保健指導 c. 障害の予防、二次障害の予防、自立支援 d. 住環境、地域環境整備 e. 社会参加、人権擁護
17	感染症対策3	食中毒対策と保健活動(腸管出血性大腸炎、ノロウイルス等)	-6. 精神保健医療福祉の歴史と看護 b. 日本における精神科医療の歴史 B. 精神保健福祉の法制度 a. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の基本的な考え方 b. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. 保護者 e. 心神喪失者等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察に関する法律の基本的考え方	-11 難病保健指導 A 難病保健の動向 a. 難病保健の理念、歴史的変遷 b. 難病保健施策と保健師活動 c. 地域の難病患者の健康問題、優先順位 B 難病患者の生活と保健指導 a. 難病患者と家族の特徴、健康問題アセスメント、保健指導 b. 在宅療養難病患者と家族への保健指導 c. 地域のサポートシステム、社会資源 d. 医療依存度の高い難病患者への支援
18	感染症対策4	HIV感染症/エイズ/性感染症対策と保健指導	-7. 精神障害者のリハビリテーション B. 保健医療に関する資源の活用と調整 a 保健所、市町村、精神保健福祉センター b. 精神科デイケア、精神科ナイトケア c. 訪問看護、精神科訪問看護 C. 福祉に関する資源の活用と調整 a 自立支援医療 b. 居宅介護 ホームヘルプ c. 行動援護 d. 生活介護 e. 短期入所 ショートステイ f. 共同生活介護 ケアホーム g. 施設入所支援 h. 自立訓練 生活訓練 i. 就労移行支援 j. 就労継続支援 k 共同生活援助 グループホーム .l. 地域生活支援事業 m. 精神障害者保健福祉手帳 D. 人的資源の活用と調整 a. 保健師 b. 精神保健福祉士 c. 作業療法士 d. 精神保健福祉相談員 e. セルフヘルプグループ f. チーム医療	-9 精神保健福祉指導 A 精神保健の動向 a. 精神保健の理念、歴史的変遷 b. 精神保健福祉施策と保健師活動 c. 地域・集団の精神保健、優先順位 B. 精神障害者の生活と保健指導 a. 精神障害者の生活の理解 b. 社会復帰・退院促進への働きかけ、自立支援 c. 地域のサポートシステム、社会資源 C. 社会病理を背景とする精神的問題 a. 薬物乱用、薬物依存 b. アルコール関連障害 c. うつ状態 d. 自殺企図 e. 家庭内暴力 f. 社会的引きこもり 保健医療福祉行政論 目標
19	感染症対策5	結核対策		-2 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷 B. 政策の充実と発展 f. 高齢者保健医療福祉対策 g. 障害者保健医療福祉対策 h. 健康づくり対策 i. 感染症対策 j. 医療制度改 k. がん対策 l. 自殺対策
20	感染症対策6	結核の保健活動		
21	障害児(者)保健1	障害児(者)対策:障害者自立支援法		
22	障害児(者)保健2	障害児(者)対策と保健活動		
23	難病対策1	我が国の難病対策と保健活動		
24	精神保健1	精神保健福祉施策の歴史的変遷/精神保健福祉に関わる法律		
25	精神保健2	ライフサイクルからみた精神保健/精神障害の診断基準/社会病理を背景とする精神的問題(虐待・DV・社会的引きこもり、薬物乱用、アルコール、摂食障害等の嗜癖・うつ状態・自殺等)		
26	精神保健3	地域で生活する精神障害者の理解/精神障害者の社会復帰・福祉対策(自立支援給付・社会復帰施設・精神障害者保健福祉手帳等)/精神保健福祉に関する行政とその役割(保健所と市町村の役割分担を含む)		
27	精神保健4	(1)保健所・市町村保健師の活動: 地域精神保健福祉活動 /心の健康づくり(普及啓発) /保健所・市町村における個別事例への相談と訪問指導の実際		
28	精神保健5	(2)市町村保健師の活動 精神保健福祉相談の進め方/精神障害者社会復帰相談指導(ミニケア活動)/ 精神障害者家族会支援 /保健所との連携等		
29	精神保健6	(3)保健所保健師の活動 保健所と管内市町村との連携による活動の実際(市町村への協力・連携・技術支援) /保健所管内の精神障害者の実態把握と医療費分析/ 精神障害者在宅支援事業の展開		
30	精神保健7	事例展開		

教科書	・「最新保健学講座3 地域看護活動論 ライフステージの特性と保健活動」金川克子編(メジカルフレンド社) ・「最新保健学講座4 地域看護活動論 心身の健康問題と保健活動」金川克子編(メジカルフレンド社) ・国民衛生の動向
参考書	なし

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 概 論	単 位 認 定 者	大 野 絢 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 7 . 5 コ マ )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	在宅看護の理念と目的、在宅ケアに関わる現状と今後の展望、在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり、ネットワークづくりについて理解する。グループワークによる探索的学習を交えて、在宅看護活動の本質と今後の展望を自ら思考する。
学 習 到 達 目 標	在宅看護の現状・課題と活動の方向性が理解できる。
関 連 科 目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、地域看護学概論、地域看護活動論
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験、レポート
準 備 学 習 の 内 容	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	在宅看護の特徴	在宅における看護活動 自立支援と看護 病状・病態の予測と予防 在宅療養者の権利保障 地域におけるケア提供機関	【在宅看護論】 目標 在宅看護の特徴と在宅療養者および家族についての理解を問う。1. 在宅看護の対象者とその生活 A.在宅看護の対象者 a.疾患をもつ人と家族 b.障害をもつ人と家族 B.対象者の生活 a.生活の場の種類 b.生活様式と価値観 C.在宅看護の提供方法 a.外来看護 b.訪問看護(自宅・施設) c.通所施設での看護 2. 在宅看護の特徴 A.自立支援と看護 a.役割の確立 b.セルフケア c.国際生活機能分類 ICF の理解 D.家族介護者の理解と健康支援 a. 家族介護者のアセスメント b. 家族関係の調整 c. 介護方法の指導 d. 家族介護者の健康 e. レスパイトケア 目標 在宅における看護実践についての理解を問う。3. 訪問看護ステーションの理解 A. 訪問看護ステーションの成り立ち a. 訪問看護ステーションの歴史 b. 訪問看護ステーションの機能 c. 訪問看護ステーションの課題 B. 訪問看護ステーションの法的枠組み a. 高齢者の医療の関係法規 b. 健康保険法 c. 介護保険法 d. その他の関係法規 C. 訪問看護ステーションの仕組みと利用 a. 訪問看護ステーションの職員 b. サービス開始までの流れ c. 看護サービス提供方法	【地域看護学】 3.在宅ケア・在宅看護 A. 在宅ケア・在宅看護の理念と目的 a.在宅看護・訪問看護の定義 b.保健師の役割・機能 B. 在宅ケア・在宅看護の歴史と現状 a.在宅看護の変遷、社会背景 b.在宅ケア・在宅看護活動の実際
3	在宅療養者の権利保障と諸制度	在宅療養者の権利保障 在宅看護と諸制度 自己決定支援/権利擁護		
4 5	在宅看護の展開	継続療養における在宅看護 在宅看護への接続・連携 専門職者との連携 在宅看護成立の条件 退院計画と継続看護【退院指導と退院計画 プランの共有 家族・患者の意思 退院計画実践方法】		
6	在宅療養者と家族看護	在宅療養者と家族看護の特徴(理論と実際) 【家族の機能】【看護学における家族】		
7	地域で療養する人々と社会資源	在宅ケアにおける看護職の役割や在宅ケアの質を高めるためのケアシステムづくり 地域で療養する人を支える保健・医療・福祉 フォーマル・インフォーマルなサービスの活用		
8	訪問看護ステーションの機能と役割	訪問看護ステーションの機能と役割 事業経営		

教 科 書	・「在宅看護論 実践をこぼにー第5版」杉本正子・眞船沢子(ヌーベルヒロカワ) ・最新保健学講座 5.地域看護活動論 心身の健康問題と保健活動(メジカルフレンド社) ・国民衛生の動向 ・介護保険制度に関するパンフレット(1冊 100円程度)
参 考 書	

授業科目名	在宅看護論	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	在宅看護の対象である療養者と家族について理解を深め、在宅看護活動の特質について学ぶ。また、関係機関の連携や在宅療養を支える社会資源について学び、それらを有効に機能させるための方法を学ぶ。
学習到達目標	1. ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。 2. 療養者および家族を支援するための在宅看護過程の展開方法を理解する。 3. 在宅看護における倫理的課題とその対応について理解する。
関連科目	看護ケア方法論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、地域看護学概論、地域看護活動論
成績評価方法・基準	筆記試験 90%、授業態度 10%
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	在宅看護概論の確認	在宅看護の特徴 在宅療養者と家族看護	<p>目標 在宅看護の特徴と在宅療養者および家族についての理解を問う。</p> <p>2. 在宅看護の特徴 B. 病状・病態の予測と予防 a. ヘルスアセスメントの重要性 b. 病状経過の予測の重要性 c. 在宅での感染対策 E. 療養の場の意向に伴う看護 a. 退院に関する患者・家族の意向 b. 退院支援・退院調整のプロセス、仕組み c. 退院調整に関わる職種とその役割 d. 医療機関・施設・地域の連携システム F. チームケアの理解 a. 在宅チームケアの意義 b. 看護職同士の連携・協働 c. 他職種との連携・協働 d. 在宅チームケアの実際の理解 e. 在宅チームケアにおける看護の役割の理解 G. ケアマネジメントと看護の役割 a. ケアマネジメントの概念 b. ケアマネジメントの過程 c. 社会資源の理解と活用 d. サービスの調整と実際 e. 介護保険との関係</p> <p>H. 在宅看護における倫理的課題 a. 自己決定支援 b. 権利擁護 c. 成年後見制度 d. 虐待防止 e. 情報管理</p> <p>目標 在宅における看護実践についての理解を問う。 3. 訪問看護ステーションの理解 B. 訪問看護ステーションの法的枠組み a. 高齢者の医療の関係法規 b. 健康保険法 c. 介護保険法 d. その他の関係法規 C. 訪問看護ステーションの仕組みと利用 a. 訪問看護ステーションの職員 b. サービス開始までの流れ c. 看護サービス提供方法 6. 在宅における医療管理を必要とする人と看護 A. 在宅医療と社会制度 a. 在宅医療と診療報酬 b. 居宅等における医行為の実施に関する課題 c. 訪問看護師が行う診療の補助 d. 医師との連携 e. 在宅医療に必要な薬剤、医療材料、衛生材料の調達方法</p>	<p>【地域看護学】</p> <p>3. 在宅ケア・在宅看護</p> <p>C. 在宅ケア・在宅看護の制度とシステム a. 在宅ケア・在宅看護の関係法規 b. 在宅ケアシステムとチーム c. 社会資源</p> <p>D. 在宅ケアのためのケアマネジメント a. ケアマネジメント b. 介護者への支援 c. 社会資源の開発と在宅ケアシステムづくり</p> <p>d. 在宅ケアのサービス活用・法的根拠 e. 地域包括ケアシステム</p> <p>E. 訪問看護ステーション管理 a. 訪問看護ステーションの運営 b. 在宅看護の質評価・管理</p>
2	関係職種と社会資源 1	介護保険法と関係職種の機能 介護支援専門員(ケアマネジャー)について		
3	関係職種と社会資源 2	在宅看護にかかわる法規、関係機関と関係職種 訪問看護師の医療行為、関係職種と連携するための技術		
4	関係職種と社会資源 3	在宅看護に関する経済的側面 診療報酬、障害者自立支援法の中の在宅看護の位置づけ		
5	在宅看護の展開 1	在宅看護における看護診断、看護診断と過程の展開		
6	在宅看護の展開 2	在宅看護の展開 在宅看護状況を構造的分析		
7	在宅看護の展開 3	在宅看護の展開例 初回訪問から看護計画立案までの過程		
8	まとめ			

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『在宅看護論 実践をこぼにー第5版』杉本正子・眞船沢子(ヌーベルヒロカワ)</li> <li>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、秋山正子(医学書院)</li> <li>国民衛生の動向</li> <li>在宅看護・介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案(上武大学出版会)</li> <li>介護保険制度に関するパンフレット(1冊 200円程度)</li> <li>訪問看護サービス(日本訪問看護振興財団)</li> </ul>
参考書	なし

授業科目名	在宅看護論	単位認定者	小笠原映子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	在宅療養者を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。また、在宅看護と生活援助に必要な知識と基本技術を習得すると共に、家族への看護技術指導を実施できることを目指す。
学習到達目標	1. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。 2. 基本的な生活援助の技術を習得する。 3. 特殊な処置・管理を要する在宅患者の援助に必要な知識と技術を習得する。 4. 家族への看護技術指導に必要な知識と看護技術を身につける。
関連科目	歯科保健、看護ケア方法論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、地域看護学概論、地域看護活動論
成績評価方法・基準	筆記試験 80%、レポート 10%、授業態度 10%
準備学習の内容	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	在宅看護概論、在宅看護論の確認	在宅看護の特徴 在宅看護の展開 在宅療養者と家族看護	【在宅看護論】 目標 .在宅看護の特徴と在宅療養者および家族についての理解を問う。 2.在宅看護の特徴 C.生活の中で必要となる安全管理 a.転倒の防止 b.窒息の防止 c.熱傷の防止 d.閉じこもりの防止 e.独居高齢者等と火災予防 f.虐待の防止 g.災害対策	
3 4	在宅療養者の日常生活援助	在宅看護援助の基本 具体的援助内容 リハビリテーションの援助内容	目標 .在宅における看護実践についての理解を問う。4.在宅における生活支援の方法と技術 A.食 a.食事摂取能力のアセスメント b.摂食・嚥下能力障害時のアセスメント c.嚥下障害時の援助 d.栄養補助食品の種類と選択方法 e.口腔ケア B.排泄 a.排泄障害のアセスメント b.排泄補助用具の種類と選択方法 c.尿失禁の予防と援助 d.便失禁への援助 e.便秘の予防と援助 C.清潔 a.清潔のアセスメント b.在宅で実施する清潔方法の種類と方法 c.清潔ケアと社会資源の活用 D.移動 a.日常生活動作<ADL>・手段的日常生活動作<IADL>のアセスメント b.移動時の安全確保 c.居住環境のアセスメント d.移動補助用具の種類と選択方法 e.自立歩行に必要な筋力評価と強化方法	
5	在宅療養者の症状・状態別の看護1	脳血管疾患患者の在宅看護 脳血管疾患の看護過程 障害の受容		
6	在宅療養者の症状・状態別の看護2	認知症患者の在宅看護 認知症の症状 認知症高齢者の現状と今後 認知症患者とのコミュニケーション 認知症高齢者・家族への支援 精神障害者の在宅看護 精神保健医療福祉の状況 精神障害者の在宅看護の特徴 在宅精神障害者のセルフケア援助		
7	在宅療養者の症状・状態別の看護3	感染症患者の在宅看護 在宅における感染症患者の看護 主な感染症と看護		
8	在宅療養者の症状・状態別の看護4	難病患者の在宅看護 難病対策要綱 医療依存度のアセスメント 急性憎悪の早期発見と対応 難病における自己決定への支援 社会資源の活用 在宅保健・医療・看護援助チーム医療・調整 在宅ケアの評価		
9	特殊な技術をともなう在宅看護1	経管栄養 経管栄養とは 経管栄養の対象者 アセスメント		
10	特殊な技術をともなう在宅看護2	在宅中心静脈栄養 在宅中心静脈栄養の適応条件 在宅中心静脈患者の必要カロリー 看護の実際	5.在宅療養者の状態別看護 A.長期臥床状態にある療養	



回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11	特殊な技術をともなう在宅看護 3	ストーマケア ストーマの種類と特徴 ストーマの管理方法 ストーマの合併症	者 a.長期臥床状態のアセスメント b.残存機能の維持向上 c.合併症の予防と対応 d.社会資源の活用 B.認知症療養者 a.認知症のアセスメント b.コミュニケーション技術 c.症状への援助 d.社会資源の活用 C.難病の療養者 a.特定疾患 b.難病対策要綱 c.急性増悪の早期発見と対応 d.社会資源の活用 D.ターミナル期の療養者 a.症状コントロール b.地域緩和ケアの実際 c.看取りの看護 d.遺族ケア E.精神障害者 a.症状アセスメント b.コミュニケーション技術 c.症状への対応 d.社会資源の活用 F.子どもの療養者 a.療養者と家族の発達のアセスメント b.発達に応じた対応 c.合併症の予防 d.社会資源の活用 6.在宅における医療管理を必要とする人と看護 A.在宅医療と社会制度 a.在宅医療と診療報酬 b.居宅等における医行為の実施に関する課題 c.訪問看護師が行う診療の補助 d.医師との連携 e.在宅医療に必要な薬剤、医療材料、衛生材料の調達方法 B.薬物療法 a.服薬状況の把握 b.医師および薬剤師との連携 c.居宅等における麻薬の取り扱い C.酸素療法 a.対象者 b.機器の種類 c.合併症の予防 d.指導と安全管理 D.人工呼吸療法 a.対象者 b.人工呼吸器の原理・構造 c.気道浄化のケア d.合併症の予防 e.指導と安全管理 E.膀胱留置カテーテル法 a.対象者 b.合併症の予防 c.指導と安全管理 F.胃腸・経管栄養法 a.対象者 b.栄養剤の種類と特徴 c.栄養評価 d.合併症の予防 e.指導と安全管理 G.中心静脈栄養法 a.対象者 b.栄養剤の注入方法 c.栄養評価 d.合併症の予防 e.指導と安全管理 H.褥瘡管理 a.褥瘡発生のリスクアセスメント b.褥瘡発生予防 c.寝具の種類と選択 d.指導と安全管理	
12	特殊な技術をともなう在宅看護 4	褥瘡ケア 褥瘡予防のためのリスクアセスメント 予防用具 栄養 スキンケア		
13	特殊な技術をともなう在宅看護 5	CAPD 療法 CAPD 療法の現状 透析原理と方法 CAPD システムの種類 透析療法の合併症への対応		
14	特殊な技術をともなう在宅看護 6			
15	特殊な技術をともなう在宅看護 7	在宅ターミナルケア がん患者の痛みの治療法 疼痛コントロール		
16	特殊な技術をともなう在宅看護 8			
17	特殊な技術をともなう在宅看護 9	在宅酸素療法 在宅人工呼吸療法 吸引・気管切開のケア		
18	特殊な技術をともなう在宅看護 10			
19   28	在宅看護過程の展開 1-4	演習オリエンテーション 在宅看護の看護過程の特徴  <演習内容> 在宅看護における看護診断 在宅看護過程の展開 訪問看護計画の作成 在宅看護の展開 演習報告会		グループ毎に、演習およびグループワークを行う。詳細は、演習時に説明する。
29 30	まとめ			

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「在宅看護論 実践をことばに」第5版 杉本正子・眞船沢子(ヌーベルヒロカワ)</li> <li>・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、秋山正子(医学書院)</li> <li>・最新保健学講座 4.地域看護活動論 心身の健康問題と保健活動(メジカルフレンド社)</li> <li>・国民衛生の動向</li> <li>・在宅看護・介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案(上武大学出版会)</li> <li>・介護保険制度に関するパンフレット(1冊 100円程度)</li> <li>・訪問看護サービス(日本訪問看護振興財団)</li> </ul>
参考書	

授業科目名	地域看護管理学	単位認定者	大野 絢子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(7.5コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	公衆衛生行政における保健師の実践活動では、対象への援助行為が公的保健福祉サービスとして位置づけられ、各々の活動を目的に沿って合理的に実施するためには、管理機能が十分に発揮されることが重要である。この科目では、地域看護管理の意義と実際についての理解を深めることを目的とする。
学習到達目標	地域看護管理の基本的な知識の理解を図る。また、保健所や市町村で行われている具体的な看護管理の場面を提示することをとおして、地域看護管理の展開方法についての理解を深める。
関連科目	地域看護学概論、地域看護活動論、地域保健行政、社会福祉・地域サービス論
成績評価方法・基準	定期試験
準備学習の内容	公衆衛生行政の在り方や公衆衛生の関連法規、保健師の役割や活動等についての理解を整理しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	地域看護管理とは	地域看護管理の意義・目的 施設内の看護管理と地域看護管理 地域看護管理の基本となるもの		【地域看護学】 4. 地域看護管理 A. 地域看護管理の目的と機能 a. 地域における健康管理活動の方向付け、b. サービスの提供体制の整備、 c. コミュニティの健康水準の向上への提言、d. 職員と住民の権利保障、e. 職業倫理
2 ~ 7	地域看護管理の諸相	地域ケアの質保証 組織運営・予算管理 業務管理 人事管理・人材育成 健康危機管理 情報管理		B. 情報管理 a. 情報整理に関する法制度、b. 地域看護活動における情報管理機能、c. 情報公開、d. 個人情報の保護
8	まとめ	まとめ		C. 地域ケアの質の保証 a. サービス提供組織の診断、b. 地域における看護の継続性と総合性の推進、c. 他職種・他機関との事例検討、d. 地域の特性をいかした社会資源の開発と管理 D. 組織運営と管理 a. 組織目的、各部門の役割、指示系統の確認、b. 業務管理、c. 他部門との連携、情報の共有、協働 E. 人事管理と人材育成 a. 人事管理、評価、b. 人材育成方針の策定、c. 現任教育の目的と方法 F. 予算管理 a. 保健事業と人材育成の予算編成、b. 目的、効果・効率、代替案の明確化、c. 主務者、財務部門、議会への説明

教科書	標準保健師講座1 地域看護学概論(医学書院)
参考書	最新 保健学講座5 地域看護管理論(メヂカルフレンド社) 看護系標準教科書 地域看護学 [活動の展開](オーム社)

授業科目名	基礎看護学実習	単位認定者	馬 醫 世 志 子
対象学年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 ( 1 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習
科 目 の 目 的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解し、入院患者の療養生活を支援する看護活動の実際と患者の反応が理解できることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の特徴と役割について理解できる。</li> <li>2. 病院組織内における看護部門の位置づけと役割について理解できる。</li> <li>3. 看護部門と他の医療部門との連携について理解できる。</li> <li>4. 病棟の特徴と看護体制について理解できる。</li> <li>5. 入院患者を取り巻く物理的環境・人的環境について把握できる。</li> <li>6. 患者の一日の入院生活について理解できる。</li> <li>7. 提供されている看護援助について、その根拠を考えながら見学することができる。</li> <li>8. 患者の訴えを傾聴し、気持ちを尊重した言動をとることができる。</li> <li>9. 患者との関わりの中から、自己の言動を振り返ることができる。</li> <li>10. 入院生活（闘病生活）に関する患者の反応が理解できる。</li> </ol>
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論の統合と、2年次以降の看護学学習の基盤となる
成績評価方法・基準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。全てを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。
準 備 学 習 の 内 容	事前課題の実施

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う。		
	病院実習	病院施設内の見学実習を中心に、病棟看護師と行動をともにしながら、入院患者の生活状況を把握し、コミュニケーションをとりながら患者の入院生活に関する反応を理解する。		
	実習のまとめ	病院実習で学んだことについての報告、レポート作成		

教 科 書	川村佐和子(編)『看護学概論』メディカ出版・基礎看護学実習 実習要項
参 考 書	なし

授業科目名	基礎看護学実習	単位認定者	馬 醫 世 志 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 ( 2 週 間 )	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習
科 目 の 目 的	対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1. 看護過程の展開ができる。 2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。 3. 相談、報告および看護の記録ができる。 4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論、看護過程論、看護援助学、看護援助学演習 の統合が必要である。 3年次以降の教科目や実習の基盤となる。
成績評価方法・基準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。 全てを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。
準 備 学 習 の 内 容	1. 看護援助技術の復習 2. 看護過程の復習

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して説明を聞き、実習に向けての準備を行う。		
	病院実習	病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者のもと、看護援助を実施する。		
	学内合同カンファレンス	実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。		

教 科 書	基礎看護学で使用した全てのテキスト 基礎看護学実習 実習要項
参 考 書	なし

授業科目名	成人看護学実習	単位認定者	鈴木 珠 水
対象学年	第 3 学年	学期	後 期
単位数	6 単位 ( 6 週間 )	必修・選択	必修

指導方法	病棟実習 ( 独立行政法人国立病院機構 西群馬病院, 医療法人社団日高会 日高病院, 富岡地域医療事務組合 公立富岡総合病院 )
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、急性期・周手術期・慢性期・回復期・終末期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>急性期・周手術期・慢性期・回復期・終末期にある患者の特徴が理解できる。</li> <li>急性期・周手術期・慢性期・回復期・終末期にある患者および家族の特徴が理解できる。</li> <li>手術療法・薬物療法 ( 抗がん剤など ) ・放射線療法によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。</li> <li>急性期・慢性期・回復期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。</li> <li>患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。</li> <li>治療検査時の患者の援助ができる。</li> <li>アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価・修正ができる。</li> <li>看護活動の記録および報告ができる。</li> <li>医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。</li> </ol>
関連科目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・臨床検査学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護活動論 人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進・薬理学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護学
成績評価方法・基準	出席状況 ( 実習態度含む ) ・実習記録およびレポート・実習評価表・実習事前学習課題レポート
準備学習の内容	成人看護学実習要項参照

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明	必修問題	
	病棟実習	病棟オリエンテーション ( 病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介 )	. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 . 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 . 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 . 看護技術の基礎的知識を問う。 人体の構造と機能 目標 1 . 日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。	
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を通して、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。  詳細は「成人看護学実習要綱」参照	疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1 . 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2 . 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			<p>目標3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。</p> <p><b>基礎看護学</b></p> <p>目標1.看護の基本となる概念についての理解を問う。</p> <p>目標2.基本的看護技術についての理解を問う。</p> <p>目標3.保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。</p> <p><b>成人看護学</b></p> <p>目標1.成人の生活と健康問題についての理解を問う。</p> <p>目標2.成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。</p> <p>目標3.成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。</p> <p>目標4.機能障害をもつ成人への看護実践について問う。</p> <p><b>老年看護学</b></p> <p>目標1.高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。</p> <p>目標2.高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。</p>	

教科書	系統看護学講座 成人看護学 【2】 - 【15】(医学書院), ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社
参考書	成人看護学実習ガイド 急性期・周手術期, 成人看護学実習ガイド 慢性期・回復期・終末期 照林社 治療薬マニュアル 2010 医学書院 看護データブック 医学書院

授業科目名	老年看護学実習	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	3単位(4週間)	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習
科目の目的	老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。
学習到達目標	1. 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーション等を通してアセスメントし、理解する。 2. 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実施・評価する。 3. 老年期にある人の特性や自立、安全を守るケア技術の実践方法を習得する。 4. 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。 5. 老年期にある人のケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能、連携について学習する。
関連科目	老年看護学総論、老年看護学、老年看護学、老年看護学演習
成績評価方法・基準	病棟実習 65%、グループホーム実習 25%、学内実習 10%
準備学習の内容	実習要項で指示された事前学習項目をレポートにまとめ、実習第1日目に提出

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		1. 実習場所 1) ほかか病院 2) グループホーム ベルジ吉岡たやの家 ベルジ高崎  2. 実習内容・方法 詳細は、実習要項に記載		

教科書	
参考書	

授業科目名	小児看護学実習	単位認定者	野田 智子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位(2週間)	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習
科目の目的	成長・発達過程にある子どもの特徴を理解し、病気や障害があること、治療を受けることや病院に入院することが、子ども自身や家族にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。さらに、子どもと家族がいきいきと生活できるための看護職としての援助の方法を学ぶ。
学習到達目標	1.子どもの日常生活に接し、子どもの特性を理解する。 2.子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのように影響されているのかを知る。 3.子どもや家族とのかかわりを通して、発達段階に応じた子どもとのコミュニケーションの展開方法を学ぶ。 4.子ども・家族にとって必要な援助を考え、実施・評価する。 5.子どもが医療を受けるさまざまな場と小児看護の特徴、保健医療チームにおける看護職の役割を学ぶ。
関連科目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学、小児看護学、小児看護学、小児看護学特論) 臨地実習(臨床看護分野、地域看護分野、統合分野) 母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など) 臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか) 地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)
成績評価方法・基準	実習要項にて指示
準備学習の内容	実習要項にて指示

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		1. 実習場所 1) 群馬県立小児医療センター 第2病棟、第2病棟 NICU、PICU、母子保健指導室、 養護学校、産科病棟  2) 前橋赤十字病院 小児科病棟  3) 富岡総合病院 混合病棟小児科  4) 群馬県内保育園  2. 実習内容・方法 詳細は、実習要項において別途指示する	<b>【目標】</b> 1. 子どもと家族の看護の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護 <b>【目標2】</b> 8. 病気や入院が子どもの家族に与える影響とその看護 9. さまざまな状況にある子どもと家族への看護  目標、必修問題 7. 人間の成長と発達 B. 新生児期。乳児期 C. 幼児期 D. 学童期 E. 思春期 12. 主要疾患と看護 F. 小児疾患	地域看護学 6. 母子保健指導 B. 乳幼児期の成長発達および生活の特徴と保健指導 10. 障害者(児)保健指導 B. 障害者(児)の自立支援と人権擁護 a. 障害者(時)のとりえ方、健康問題のアセスメント

教科書	1. 「ナースング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編(メディカ出版)2010. 2. 「ナースング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編(メディカ出版)2010. 3. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第11版」奈良間美保他著(医学書院)2007
参考書	必要時提示する。



授業科目名	母性看護学実習	単位認定者	早川有子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位(2週間)	必修・選択	必修

指導方法	実習
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。
学習到達目標	1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助(健康教育)について学ぶ。
関連科目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て(主に小児看護学実習・地域看護学実習等)
成績評価方法・基準	実習要項にて指示
準備学習の内容	事前学習を十分にする。講義の復習をする。母子の看護過程の展開について理解する。学内演習した項目は自信がある。これらのことを準備・習得して実習に臨むこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		実習期間：2週間 実習は、学内演習2日間、病棟実習(看護過程展開4日間) 選択実習(妊婦外来、不妊外来・妊婦・産婦・新生児の病棟、ヨガ教室4日間)からなる。実習開始日に病棟・外来のオリエンテーションを含む全体オリエンテーションを行い、最終日に全体カンファレンスを行なう。学生は1グループ5～6名のグループに分かれて実習する。 * 詳細は実習要項に記載する。		

教科書	妊・産・褥婦のよくあるトラブル 早川有子 著(医学書院) 母性看護学概論 母性看護学「1」 森恵美 著(医学書院) 母性看護学各論 母性看護学「2」 森恵美 著(医学書院)
参考書	

授業科目名	精神看護学実習	単位認定者	小林 信
対象学年	第 3 学年	学期	後 期
単位数	2 単位 ( 2 週間 )	必修・選択	必修

指導方法	臨床実習
科目の目的	精神障害を抱える対象を全人的に捉え、現在の生活上の問題に対してセルフケアを向上するための看護を実践する能力を養う。
学習到達目標	1. 生育歴、生活歴、病歴などを統合し、現在の対象のありのままの存在を理解できる。 2. 対象の看護上の問題を把握し、セルフケア理論に基づいて看護計画を立案・実施・評価できる。
関連科目	「精神看護学概論」、「精神看護学」、「精神看護学」
成績評価方法・基準	課題に対するレポート、出席状況、実施態度にて評価する。
準備学習の内容	過去に学習した関連科目を復習し、対象理解、看護援助の方法、関連法規などを把握しておくこと。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	臨地実習	実習単位 2 単位 ( 2 週間 ) 火曜日～金曜日 8 日間 実習場所 厩橋病院 実習時間 原則として 9 時～16 時 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>. オリエンテーション</li> <li>1. 病院の特殊性について</li> <li>2. 看護業務分担について</li> <li>3. 日課、週間予定表について</li> <li>4. 診療用具、看護用具、その他 機械器具の保管場所</li> <li>5. その他</li> <li>. 実習の進め方</li> <li>1. 受け持ち患者の看護</li> <li>2. 看護過程にそった看護の展開</li> <li>3. カンファレンスの実施</li> <li>. 実習記録の提出</li> <li>. 実習評価</li> </ul>		

教科書	
参考書	

授業科目名	看護研究概説	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	看護研究とは何か、看護研究の意義と目的、方法、プロセス、倫理的配慮、各専門領域における研究の特徴を学ぶ。また、自分の関心のある研究テーマについての文献検索、論文の収集、クリティークを行い、研究の実施に向けての最初のステップを学習する。
学習到達目標	1. 看護研究の意義と目的が理解できる。 2. 研究の種類と特徴が理解できる。 3. 各専門領域における研究の特徴が理解できる。 4. 文献検索方法が理解でき、必要な文献を収集できる。 5. 研究のプロセスと研究計画書の作成方法、倫理的配慮が理解できる。 6. 研究の実施に向けて、自分の研究テーマを探索できる。
関連科目	既習科目すべて
成績評価方法・基準	期末試験 50%、課題レポート 35%、出席状況 15%
準備学習の内容	1. 専門領域における研究の特徴と理解 ~ をとおして、関心のある研究領域・取り組みたいテーマをイメージしながら授業に参加する。 2. 文献検索の実際、論文収集、文献の読み込みは授業時間以外の時間を使って学習を進める。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護研究の意義と目的	看護における研究の役割と目的、EBN	必修問題： 4. 看護の倫理 A 基本的人権の擁護  基礎看護学： 1. 看護の基本となる概念 2. 看護の展開	
2	研究の種類とデザイン	研究の種類と研究デザインの関係、研究デザインの種類		
3	事例研究と質的研究	看護の実践と研究、質的研究の特徴と方法		
4	量的研究	量的研究の特徴と方法、記述統計の基本		
5	研究における倫理	研究と倫理、研究における倫理ガイドラインと倫理的配慮		
6	専門領域における研究の特徴と実際	成人看護学		
7	専門領域における研究の特徴と実際	老年看護学・在宅看護学		
8	専門領域における研究の特徴と実際	母性看護学・小児看護学		
9	専門領域における研究の特徴と実際	精神看護学		
10	専門領域における研究の特徴と実際	地域看護学		
11	研究のプロセスと研究計画書の作成	テーマの設定、データ収集、分析方法、発表 研究計画書の内容と作成方法		
12	文献検索	データベースを用いた文献検索の方法(演習)		
13	文献検索	文献検索の実際(演習)		
14	文献検索	収集論文のクリティークと文献カードの作成		
15	まとめ			

教科書	「看護研究」川村佐和子編集(メディカ出版)
参考書	「看護研究のすすめ方・よみ方・つかい方」数馬恵子編(日本看護協会出版会)